

Syllabus

2022 年度

国際医療福祉専門学校
救 急 救 命 学 科

授業科目	解剖生理学 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	外井 都貴	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるもとなる知識を学習する。		
行動目標	人体の構造と名称について説明できる。 人体のつくりと役割を細胞、組織、臓器の概念から説明できる。 神経系の構成と役割、機能、臓器に及ぼす作用等を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	人体を構成する要素		
	体表からみる人体の構造		
	神経系・感覚系		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P56～62、P63～76、P77～96 人体の構造と機能、からだの地図帳		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	解剖生理学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	外井 都貴	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるもとなる知識を学習する。		
行動目標	呼吸系の構造、機能、役割を説明できる。 循環系の構成と役割、脈管を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	呼吸系		
	循環系		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P97～107、P108～118 人体の構造と機能、からだの地図帳		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	解剖生理学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	外井 都貴	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるもとなる知識を学習する。		
行動目標	消化系の役割を消化、吸収、排泄の観点から説明できること。 泌尿系の役割を排泄と体液のバランスを中心に説明できる。 生殖系の構造と役割を説明できる。 内分泌系、血液・免疫系の役割と機能について説明できる。 筋・骨格系、皮膚系の構造と機能について説明できる。まとめ		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	消化系		
	泌尿系		
	生殖系		
	内分泌系		
	血液・免疫系		
	皮膚系		
	生命の維持		
	まとめ		
	15回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P119～162 人体の構造と機能、からだの地図帳		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

Syllabus

2022 年度

国際医療福祉専門学校
救 急 救 命 学 科

授業科目	数学	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	小方 真	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。		
行動目標	数学の基礎を学び、原理、原則の理解を深める。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	暗号		
	命題		
	発言からの推理問題		
	対応関係		
	試合の勝敗		
	順序関係		
	位置関係と方位		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	公務員試験(一般知能)対策講座		
参考書・資料等			
履修上の注意			

授業科目	統計学	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	小方 真	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。		
行動目標	統計の基礎を学び、原理、原則の理解を深める。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	道順		
	操作の手順		
	平面図形の構成・分割		
	軌跡の問題		
	多面体・展開図		
	投影図		
	立体図面の構成・立体の切断		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	公務員試験(一般知能)対策講座		
参考書・資料等			
履修上の注意			

授業科目	論理学	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	小方 真	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。		
行動目標	論理の基礎を学び、原理、原則の理解を深める。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	数的推理で使う計算の基礎		
	方程式・不等式		
	比・割合の問題		
	速さの問題およびその応用		
	倍数と約数		
	記数法		
	虫食い算		
	魔法陣		
	数列		
	場合の数		
	確率		
	平面図形(平行線・多角形)		
	平面図形(円)		
	立体図形		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	公務員試験(一般知能)対策講座		
参考書・資料等			
履修上の注意			

授業科目	社会学	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	高橋 進一	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者として必要な科学的思考および教養を身につける。		
行動目標	日本社会しくみの基礎を学び、原理、原則の理解を深める。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	民主政治の基本原理		
	日本国憲法の基本的性格		
	日本国憲法と政治機構		
	現代の日本政治		
	現代の国際政治		
	経済社会の変容と現在経済のしくみ		
	経済活動と福祉の向上、国民経済と国際経済		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	理解しやすい政治・経済、上・中公務員一般知識まるごとチェック		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	人文学	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	須釜 幸男・刀根 謙	オフィスアワー	
一般目標	人文学的素養を高め、医療人としての心や教養の大切さを考える		
行動目標	人間性を養い柔軟かつ客観的判断力を培い主体的な実践力を身につける。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	古代ギリシャ、ヘルシズム哲学		
	近代ヨーロッパ哲学		
	現代ヨーロッパ哲学		
	三大宗教		
	中国儒教思想		
	江戸、明治思想		
	現代思想		
	古代・中世の歴史		
	近世・近代の歴史		
	現代の歴史		
	ヨーロッパの歴史		
	アジア・アフリカの歴史		
	アメリカ・ラテンアメリカの歴史		
	15回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書			
参考書・資料等	別刷りプリント		
履修上の注意			

授業科目	国語・英語	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	須釜 幸男	オフィスアワー	
一般目標	文学的素養を高め、医療人としての心の大切さを考える。		
行動目標	人間性を磨き、柔軟で客観的な判断力を培い、主体的な行動力を身につける。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	日本の文学と歴史について		
	読解の基礎		
	古文や漢文の基礎的読解		
	近現代の文芸思想		
	実践的問題の習練		
	単語力、熟語力		
	構文力、文型の確認		
	長文読解のコツ		
	米英のマナー、接遇用例		
	身体部位の英語		
	英文医療漫画の台詞の分析		
	医療映画の台詞の分析		
	まとめ		
	15回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書			
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	自然科学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	科学的、生物学的な自然観を身につける。		
行動目標	自然科学における「再現性」と「普遍性」の重要性を理解する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	生物を構成する物質、生体物質		
	身体内外の圧力		
	細胞、細胞分裂		
	電気、遺伝情報		
	人体の階層構造、		
	生体防御機能と免疫、オメオスターシス		
	成長と老化		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	楽しくわかる生物・科学・物理		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	解剖生理学 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	外井 都貴	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるもとなる知識を学習する。		
行動目標	人体の構造と名称について説明できる。 人体のつくりと役割を細胞、組織、臓器の概念から説明できる。 神経系の構成と役割、機能、臓器に及ぼす作用等を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	人体を構成する要素		
	体表からみる人体の構造		
	神経系・感覚系		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P56～62、P63～76、P77～96 人体の構造と機能、からだの地図帳		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	解剖生理学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	外井 都貴	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるもとなる知識を学習する。		
行動目標	呼吸系の構造、機能、役割を説明できる。 循環系の構成と役割、脈管を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	呼吸系		
	循環系		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P97～107、P108～118 人体の構造と機能、からだの地図帳		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	解剖生理学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	外井 都貴	オフィスアワー	
一般目標	人体の構造を理解することで、救急救命士にとって必要な知識へとつながるもとなる知識を学習する。		
行動目標	消化系の役割を消化、吸収、排泄の観点から説明できること。 泌尿系の役割を排泄と体液のバランスを中心に説明できる。 生殖系の構造と役割を説明できる。 内分泌系、血液・免疫系の役割と機能について説明できる。 筋・骨格系、皮膚系の構造と機能について説明できる。まとめ		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	消化系		
	泌尿系		
	生殖系		
	内分泌系		
	血液・免疫系		
	皮膚系		
	生命の維持		
	まとめ		
	15回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P119～162 人体の構造と機能、からだの地図帳		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	法医学・病理学 I	履修年次	1年次
		単位数	3単位
授業形態	講義	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	外井 都貴・塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	疾病および障害に関する知識を系統的に習得する。		
行動目標	疾患、細胞傷害、炎症、感染、循環障害の原因と病態を説明できる。 腫瘍とは何か、分類、身体的特徴について説明できる。 損傷の定義、治癒について説明できる。 死の概念、死体現象、判断基準について説明できる。 まとめ		
キーワード			
スケジュール			
1回目～22回目	疾患		
	細胞傷害		
	炎症		
	感染		
	循環障害		
	腫瘍		
	損傷と治癒		
	死		
	まとめ		
	23回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P164～197		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	法医学・病理学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	外井 都貴・塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	疾病および障害に関する知識を系統的に習得する。		
行動目標	病因や病変、傷害、損傷、腫瘍などの疾病の基本を理解する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	法医学		
	病理学		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P164～197		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	公衆衛生	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	須釜 幸男	オフィスアワー	
一般目標	集団レベルでの健康の増進と疾患の予防を学ぶ。目標は、公衆衛生学的な考え方を身につけること。		
行動目標	社会の中で、疾病と健康を保つための理論と実践を習得する。 社会、疾病、障害と生活の関わりの基礎的な概念を習得する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	公衆衛生の仕組み		
	医療を取り巻く環境		
	医療供給体制		
	さまざまな保健衛生		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P20～39		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	社会保障・社会福祉	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	高橋 進一	オフィスアワー	
一般目標	社会福祉は、一定の歴史的生成を発展を経て、それ自体の機能と目的をもって存在する一つの社会制度である。しかし、それはまた、さまざまな人々のニーズに対して行われる実践的な営みである。		
行動目標	社会保障の仕組みと費用について説明できる。 医療保障制度について説明できる。 介護保険制度について説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	社会保障とその仕組み		
	社会保険		
	社会福祉と公的扶助		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P40～52		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急医学概論	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	医療従事者としての基本的概念を理解する。また、救急医療体制を理解する。		
行動目標	基本的概念を理解する。 救急活動の流れを理解する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	人間と人間生活		
	科学的思考の基礎		
	生命倫理と医の倫理		
	救急医療体制		
	災害医療体制		
	病院前医療体制		
	消防機関における救急活動の流れ		
	救急救命士の役割と責任		
	救急救命士と傷病者の関係		
	救急救命士に関連する法令		
	救急救命士の養成と生涯教育		
	まとめ		
	15回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P4～16、P218～275		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急処置概論 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	千葉 勉	オフィスアワー	
一般目標	救急処置における基本的概念を理解する。各種個別手技に対する基本的概念を理解する。		
行動目標	各種個別手技に対する基本的概念を理解できる。 各種個別手技に対する基本的概念を説明できる。 対象者の観察を通して、状況、状態を判断できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	観察		
	現場活動の基本		
	全身状態の観察		
	局所の観察		
	緊急度・重症度判断		
	資器材による観察		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P300～343 JPTECガイドブック		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急処置概論Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	3単位
授業形態	講義	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	千葉 勉	オフィスアワー	
一般目標	救急処置における基本的概念を理解する。各種個別手技に対する基本的概念を理解する。		
行動目標	各種個別手技に対する基本的概念を理解できる。 各種個別手技に対する基本的概念を説明できる。 対象者の観察を通して、状況、状態を判断できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～22回目	救急救命士が行う処置		
	救急蘇生法		
	在宅療法継続中の傷病者の処置		
	傷病者搬送		
	まとめ		
23回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P344～358、P357～382、P395～415、P429～451		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻) 別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急処置概論Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	千葉 勉	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士に必要な特定行為を理化し、実践するための概念を理解する。		
行動目標	救急救命処置の目的、適応、禁忌、手技、合併症について説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	気管挿管(ビデオ硬性喉頭鏡)		
	気管吸引		
	静脈路確保と輸送		
	アドレナリン投与		
	自己注射用アドレナリンの投与		
	ブドウ糖の投与		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P358～367、P383～394		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	薬物・検査	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	塚本 淳智・松岡 隆	オフィスアワー	
一般目標	使用方法や対象者を理解する。検査の目的を理解し、治療方針を理解する。		
行動目標	薬物とは何かを説明できる。 薬物の代謝について説明できる。 薬物の投与経路による違いを説明できる。 検査の種類を列挙し説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	薬物総論		
	薬物の有害作用		
	救急救命処置に用いられる薬剤		
	注意を要する常用薬		
	重要な静脈内投与薬		
	検査の種類、緊急検査		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂10版 P200～214		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	安全管理	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	増茂 誠二・塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	医療に関わるリスクを管理するとともに患者および医療者の安全を確保できるようにする。		
行動目標	安全管理の目的を説明できる。 事故の発生におけるヒューマンエラーについて説明できる。 感染経路の種類を列挙し、それぞれについて説明できる。 ストレス、ストレス対応、ストレス障害、について説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	安全管理		
	リスクマネジメント		
	傷病者の事故		
	救急活動における事故の報告と対応		
	感染防止策と感染防御		
	洗浄と消毒		
	感染事故と感染後の対応		
	救急活動でのストレス		
	救急活動でのストレスへの対応		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P276～297		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急症候学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	澤地 紀子	オフィスアワー	
一般目標	心肺機能停止を理解し、心肺蘇生法を学習する。		
行動目標	心肺停止の概念について説明できる。 成人・小児・乳児の心肺蘇生法について具体的に説明できる。 国内の院外心肺停止の疫学について要点を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	成人の救急蘇生法		
	小児の救急蘇生法		
	乳児の救急蘇生法		
	心肺停止の総論		
	心肺停止に至る病態と原因		
	心電図分類		
	心肺蘇生中の循環		
	心肺再開後の病態		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P376～378 P477～485 救急蘇生法の指針2015(市民用、解説編)		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急症候学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	及川 香織	オフィスアワー	
一般目標	各種症候の病態生理について理解し、症候、病態ごとに観察、評価、処置および搬送法に関する知識を系統的に習得する。		
行動目標	呼吸不全の定義を説明できる。 心不全の定義を説明できる。 ショックの定義を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	呼吸不全総論		
	低酸素血症の発生機序		
	高二酸化炭素の発生機序		
	換気障害		
	心不全総論		
	病態生理		
	ショック総論		
	症候・心不全の種類		
	ショックの総論		
	循環血液量減少性ショック・心原性ショック・心外閉塞・拘束性ショック・血液分布異常性ショック		
	胸痛		
	動悸		
	まとめ		
	15回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P454～469、P522～528		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急症候学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	澤地 紀子	オフィスアワー	
一般目標	呼吸不全、呼吸困難、喀血を理解するように学習することを目指す。		
行動目標	呼吸困難の定義を述べ性状を列挙できる。 喀血の定義を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	呼吸困難の定義・概念		
	呼吸困難の分類		
	原因疾患		
	随伴症候		
	緊急度・重症度の判断		
	現場活動		
	喀血の定義・概念		
	喀血の分類		
	喀血による影響		
	喀血の原因疾患		
	喀血の判別を要する病態		
	緊急度・重症度、現場活動		
	まとめ		
	15回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P511～518		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急症候学Ⅳ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	澤地 紀子	オフィスアワー	
一般目標	重症脳障害、意識障害、頭痛、痙攣、運動麻痺、めまい、失神などの症状について理解する。		
行動目標	意識障害の概念について意識レベル、意識内容、意識の広さの面から説明できる。 痙攣、運動麻痺、めまいの定義が説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	意識障害		
	頭痛		
	痙攣		
	運動麻痺		
	めまい		
	一過性意識消失と失神		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P488～510、P519～521		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急症候学 V	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	及川 香織	オフィスアワー	
一般目標	症状に対する、適切な行動をとれるよう学習する。		
行動目標	腹痛を痛みの発症機序によって3つに分類し、それぞれの機序について説明できる。 吐血と下血の定義をそれぞれ説明できる。 腰痛、背部痛の原因となる主な内臓疾患をあげ、それぞれの判断の手がかりについて要点を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	腹痛		
	吐血・下血		
	腰部・背部痛		
	体温上昇		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P529～544		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	救急症候学Ⅵ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	千葉 勉	オフィスアワー	
一般目標	心肺停止前の輸液、ブドウ糖投与について理解する。		
行動目標	心肺停止前の輸液、ブドウ糖投与について理解し、対応できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	総論		
	心電図分類		
	心拍再回復の病態		
	ブドウ糖投与による病態		
	ブドウ糖投与による変化		
	まとめ		
8回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	疾病救急 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる、疾病に関する知識の理解を深める。		
行動目標	神経系の救急疾患で重要な症候をあげ、それぞれの概要を説明できる。 呼吸器疾患の主要な症候をあげ、それぞれの概要を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	神経系疾患の総論		
	脳血管障害		
	中枢神経系の感染症		
	末梢神経疾患		
	その他の中枢神経疾患		
	呼吸器疾患の総論		
	呼吸不全		
	上気道の疾患		
	下気道と肺胞の疾患		
	感染症		
	胸膜疾患		
	その他の呼吸系疾患		
	まとめ		
	15回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P546～566		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	疾病救急Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	及川 香織	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる。疾病に関する知識の理解を深める。		
行動目標	循環系疾患で重要な症候をあげ、それぞれの概要説明できる。 急性腹症の概要を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	循環器系疾患の総論		
	動脈硬化		
	虚血性心疾患		
	心筋疾患		
	心膜疾患		
	不整脈		
	心電図の観察		
	その他の心疾患		
	血管疾患・高血圧		
	消化系疾患総論		
	歯・口腔疾患		
	食道疾患、胃・十二指腸疾患、腸疾患、急性腹膜炎、肝臓・胆道・膵臓の疾患		
	まとめ		
	15回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P567～596		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	疾病救急Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる、疾病に関する知識の理解を深める。		
行動目標	泌尿・生殖系で重要な症候をあげ、それぞれ説明できる。 代謝・内分泌・栄養系疾患の主な症候を列挙できる。 血液・免疫系疾患の主な症候をあげ、それぞれについて概要を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	泌尿、生殖系疾患の総論		
	腎臓の疾患		
	尿路の疾患		
	女性生殖器の疾患		
	男性生殖器の疾患		
	代謝、内分泌、栄養系疾患の総論		
	糖尿病とその合併症		
	その他の代謝異常		
	内分泌疾患		
	栄養疾患		
	血液・免疫系疾患の総論		
	血液系疾患・免疫系疾患・アナフィラキシー		
	まとめ		
	15回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P597～621		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	疾病救急Ⅳ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる、疾病に関する知識の理解を深める。		
行動目標	筋・骨格系疾患の救急医療における意義について説明できる。 現場活動で重要な皮疹をあげ、それぞれについて概要を説明できる。 眼の救急疾患で重要な症候をあげ、それぞれについて説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	筋・骨格系疾患の総論		
	脊椎疾患		
	関節疾患		
	筋疾患		
	皮膚系疾患の総論		
	皮膚、軟部組織の感染症		
	アレルギー性疾患		
	その他の皮膚疾患		
	眼・耳・鼻の疾患の総論		
	眼の疾患		
	耳の疾患		
	鼻の疾患		
	まとめ		
	8回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P622～634		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	疾病救急V	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	中川 朝美・塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる、疾病に関する知識の理解を深める。		
行動目標	正常な発育の目安を説明できる。 加齢による身体機能の変化について説明できる。 排卵から着床までの経過を簡単に説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	小児に特有な疾患の総論		
	観察を判断		
	主な疾患		
	高齢者に特有な疾患の総論		
	主な疾患		
	妊娠・分娩と救急疾患		
	正常妊娠		
	異常妊娠と妊娠中の異常		
	正常分娩・異常分娩・観察と処置		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P644～675		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	疾病救急VI	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士にとって必要となる、疾病に関する知識の理解を深める。		
行動目標	新興感染症、再興感染症、輸入感染症、耐性菌について、それぞれ簡単に説明できる。 精神障害の原因、症状の両面から分類し、それぞれについて簡単に説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～7回目	感染症の総論		
	敗血症		
	結核		
	インフルエンザ		
	食中毒		
	輸入感染症		
	発疹性感染症		
	性感染症		
	皮膚・軟部組織の感染症、その他の感染症		
	精神障害の総論		
	主な精神障害		
	向精神薬の主な副作用		
	まとめ		
	8回目	認定試験	
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P635～643 P676～686		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	外傷 I	履修年次	1年次
		単位数	4単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士が現場に到着して判断できるように学習する。		
行動目標	外傷の定義、救急搬送における外傷の位置づけ、防ぎ得た外傷死、ロードアンドゴー・トラウマバイパスについて説明できる。 状況評価、初期評価の目的、評価項目を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～29回目	外傷の患者数、外傷による死亡		
	受傷機転とエネルギー		
	外傷の分類・主な受傷形態		
	侵襲への反応、外傷に伴うショック、外傷によるショックに対する輸液		
	外傷の現場活動、状況評価・傷病者の評価・		
	頭部外傷		
	顔面・頸部外傷		
	脊椎・脊髄外傷		
	胸部外傷		
	腹部外傷		
	骨盤外傷		
	四肢外傷、小児・高齢者・妊婦の外傷		
	まとめ		
30回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P688～759		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	外傷Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	及川 香織	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士が現場に到着して判断できるように学習する。		
行動目標	熱傷の原因と疫学的な特徴について説明できる。 化学損傷の概念を述べることができる。 哺乳類による主な咬症をあげ、それぞれの病態と合併症について説明できる。 気道異物の種類と特徴を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	熱傷		
	化学損傷		
	電撃症・雷撃症		
	縊頸・絞頸		
	刺咬症		
	異物		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P760～785 P808～811		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	環境傷害と中毒	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田中 久夫・花田 邦和	オフィスアワー	
一般目標	環境因子、中毒物質、放射線等による障害の発生機序、病態、症状、所見および予後等について理解し、観察、評価、処置を系統的に習得する。		
行動目標	問合せの多い中毒物質の種類を説明できる。 気道異物の種類と特徴を説明できる。 溺水の起因因子を説明できる。 熱中症の発生しやすい季節を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～14回目	中毒総論		
	中毒各論		
	溺水		
	熱中症		
	偶発性低体温		
	放射線障害		
	その他の環境傷害		
	まとめ		
15回目	認定試験		
評価方法	筆記試験(マークシートまたは記述による100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版 P796～807 P812～839		
参考書・資料等	別刷りのプリント		
履修上の注意			

授業科目	応急処置 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	実習	必要時間数	90時間(45コマ)
担当教員	花田 邦和・千葉 勉・澤地 紀子・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	一般市民でも可能な応急手当の目的と意義を学び、その技術の習得を図る。		
行動目標	止血法、三角巾法、搬送法を習得する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～44回目	三角巾法(折り方、結び方、吊り方)		
	止血法(直接圧迫止血法、関節圧迫止血法、止血点止血法)		
	搬送法(従手搬送、簡易担架による搬送、布担架による搬送)		
	体位管理		
	怪我に対する応急手当		
	副子固定(上肢、下肢の保護および固定方法)		
	やけどに対する手当		
	まとめ		
45回目	認定試験		
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	応急処置Ⅱ	履修年次	1年次	
		単位数	2単位	
授業形態	講義	必要時間数	90時間(45コマ)	
担当教員	花田 邦和・千葉 勉・澤地 紀子・鈴木 幸夫	オフィスアワー		
一般目標	救急で使用する資器材について、操作方法を学び観察要領を理解、習得する。			
行動目標	資器材の取扱い方法を習得する。			
キーワード				
スケジュール				
1回目～44回目	聴診器			
	ペンライト			
	血圧計			
	パルスオキシメーター			
	搬送器材			
	呼吸器			
	半自動式除細動器			
	十二誘導心電図			
	ショックパンツ			
	マジックギブス			
	ネックカラー			
	45回目	認定試験		
	評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版			
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)			
履修上の注意				

学校整理番号(110)

授業科目	救急救命処置 I	履修年次	1年次
		単位数	3単位
授業形態	実習	必要時間数	135時間(68コマ)
担当教員	花田 邦和・千葉 勉・澤地 紀子・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	傷病者に対し安全かつ迅速に資器材を取り付け、バイタル観察およびモニタリングし、悪化の防止、苦痛の軽減をしつつ救命できる活動体制を構築を図る。		
行動目標	標準課程 I (隊連携活動要領)を身につける。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～67回目	効果的かつ確実な心肺蘇生法の習得		
	バイタルサインの観察と測定		
	異物除去(背部叩打、ハイムリック、喉頭展開)		
	気道確保と酸素投与		
	止血コントロール		
	三角巾による被覆、固定処置		
	状況に応じた体位管理と搬送方法の理解と習得		
	除細動		
	接遇およびインフォームドコンセント		
68回目	認定試験		
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	救急救命処置Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	実習	必要時間数	90時間(45コマ)
担当教員	花田 邦和・千葉 勉・澤地 紀子・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	特定行為の中でも基本となるものであり、まずは手技を確固たるものとし、適応や禁忌を理解、習得する。		
行動目標	器具を用いた気道確保(挿管除く) 静脈路確保の手技を身につける		
キーワード			
スケジュール			
1回目～44回目	清潔操作		
	感染防護		
	特定行為指示要請、インフォードコンセント		
	チューブによる気道確保		
	静脈路確保		
	上記を習得しながらのシナリオ付与想定訓練		
	まとめ		
45回目	認定試験		
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	救急救命処置Ⅲ	履修年次	2年次
		単位数	3単位
授業形態	実習	必要時間数	135時間(68コマ)
担当教員	花田 邦和・千葉 勉・澤地 紀子・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	特定行為においてもより慎重な操作を的確に実践できる能力を身につける。		
行動目標	気管挿管の手技を身につける。 薬剤投与の手技を身につける。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～67回目	気管挿管に必要な医学知識		
	心肺停止に至る病態		
	気管挿管の手順		
	ディフィカルトエアウェイ		
	気管挿管後の人工呼吸措置		
	メディカルコントロール体制		
	薬剤投与に必要な医学知識		
	薬剤の保管、管理、取扱いの実態		
	薬剤投与の準備と実施		
	薬剤投与プロトコール		
	薬剤、注射器等の廃棄と安全管理		
	68回目	認定試験	
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	総合演習 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	花田 邦和・千葉 勉・澤地 紀子・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	習得した技術、知識を活用しより円滑な連携を図り、総合的な判断・処置ができるよう養成する。		
行動目標	講義、実習で学んできた知識、術、連携の醸成を図る。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～22回目	シナリオ想定訓練		
	・出勤、感染防止、状況評価		
	・初期評価、観察、接遇、応急処置		
	・気道確保		
	・静脈路確保		
	・薬剤投与		
	・効率的かつ安全確実な搬送法の習得		
	・社内活動		
	マラソン救護		
23回目	認定試験		
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	総合演習Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	3単位
授業形態	実習	必要時間数	135時間(68コマ)
担当教員	花田 邦和・千葉 勉・澤地 紀子・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	習得した技術、知識を活用しより円滑な連携を図り、総合的な判断・処置ができるよう養成する。		
行動目標	講義、実習で学んできた知識、技術、連携の醸成を図る。		
キーワード			
スケジュール			
1回目～67回目	シナリオ想定訓練		
	・出勤、感染防止、状況評価		
	・初期評価、観察、接遇、応急処置		
	・気道確保		
	・静脈路確保		
	・薬剤投与		
	・効率的かつ安全確実な搬送法の習得		
	・社内活動		
	マラソン救護		
	68回目	認定試験	
評価方法	出席、授業態度、効果測定(100点満点)		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	救急用自動車同乗実習	履修年次	2年次
		単位数	4単位
授業形態	実習	必要時間数	180時間(90コマ)
担当教員	花田 邦和・千葉 勉・澤地 紀子・鈴木 幸夫	オフィスアワー	
一般目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践力を身につけ、医療従事者としての自覚と専任感を養う。		
行動目標	消防業務の一日の流れを体感することで、自分の進むべき道を明確なものとし、今後の学習に活かすことを目的とする。		
キーワード	スケジュール		
	オリエンテーション		
	学内授業		
	・訓練用救急車を利用しての想定訓練		
	学外授業		
	・各市町村の消防署へ実際に出向き救急車への同乗をさせてもらう。一人当たり4当直1日勤。		
評価方法	活動記録レポートを提出		
教科書	救急救命士標準テキスト改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	臨床実習	履修年次	2年次
		単位数	5単位
授業形態	実習	必要時間数	225時間(113コマ)
担当教員	各病院における指導者	オフィスアワー	
一般目標	習得した知識を病院前救護において的確かつ安全に応用できる実践力を身につけ、医療従事者としての自覚と専任感を養う。		
行動目標	第三次救急医療機関において習得した知識を的確かつ安全に応用できる実践力を身につける。		
キーワード			
スケジュール			
	学内において病院前研修の確認授業		
	バイタルサインの観察		
	身体所見の観察		
	モニター装着		
	酸素投与		
	胸骨圧迫		
	点滴ラインの準備		
	ナーシングケア		
	一人当たり7当直2日勤(180時間)		
評価方法	活動記録レポートを提出		
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂第10版		
参考書・資料等	救急処置スキルブック(上・下巻)		
履修上の注意			

授業科目	国家試験対策	履修年次	2年次
		単位数	8単位
授業形態	講義	必要時間数	120時間(60コマ)
担当教員	花田 邦和	オフィスアワー	
一般目標			
行動目標	専門基礎分野、専門分野を理解する。		
キーワード			
スケジュール			
	模擬試験		
	模擬試験解説		
	補講		
	ワークシート作成		
評価方法			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂9版		
参考書・資料等			
履修上の注意			

授業科目	基礎演習 I	履修年次	1年次
		単位数	3単位
授業形態	講義・実習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	花田 邦和	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士を目指す者、消防職員を目指す者へ心得等を学ばせる。		
行動目標			
キーワード			
スケジュール			
	体力測定		
	体育		
	ICT教育		
	講演		
	報告会		
評価方法			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂9版		
参考書・資料等			
履修上の注意			

授業科目	基礎演習Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	花田 邦和	オフィスアワー	
一般目標	救急救命士を目指す者、消防職員を目指す者へ心得等を学ばせる。		
行動目標			
キーワード			
スケジュール			
	体力測定		
	体育		
	ICT教育		
	講演		
	報告会		
評価方法			
教科書	救急救命士標準テキスト 改訂9版		
参考書・資料等			
履修上の注意			

Syllabus

2022 年度

国際医療福祉専門学校
リハビリテーション学科
理学療法士コース

授業科目	解剖学 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義並びに演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	運動器系を三次元的に捉え、その構造を理解する。 基本構造から基本的な働き(機能)を考える。 これらの働きより、臨床医学のもととなる知識を身につける。		
行動目標	人体の部位、名称などを覚える。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築する。 自身の身体を使い感じる事が出来る。		
キーワード	人体, 構造, 三次元		
スケジュール			
1回目/2回目	解剖学総論、骨学:骨組織と骨格の構造		
3回目/4回目	骨学:骨の連結と靭帯		
5回目/6回目	骨学:形態と名称(頭頸部と体幹)		
7回目/8回目	骨学:形態と名称(上肢)		
9回目/10回目	骨学:形態と名称(下肢)		
11回目/12回目	関節・靭帯		
13回目/14回目	筋学:頭頸部		
15回目/16回目	筋学:体幹部		
17回目/18回目	筋学:上肢①		
19回目/20回目	筋学:上肢②		
21回目/22回目	筋学:下肢①		
23回目/24回目	筋学:下肢②		
25回目/26回目	神経系(中枢神経)①		
27回目/28回目	神経系(中枢神経)②		
29回目/30回目	神経系(末梢神経)		
評価方法	試験およびレポート(進行状況による)に対して、授業態度及び出席率を勘案して評価する。		
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院		
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 解剖学カラーアトラス 第5版 医学書院		
履修上の注意	人体の正常な構造や形態を学ぶといくことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考えることである。また、構造や形態にも意味があるものである。 暗記という勉強法ではなく、なぜという疑問を考え学習することが重要である。		

学校整理番号(110)

授業科目	基礎理学療法学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	理学療法士にとって重要なものが何かの理解を深め、正しい倫理観を持ち、的確に行動するための指針を養う。		
行動目標	理学療法士とは何かを記述する(認知領域) 理学療法の流れを説明する(認知領域) 理学療法士にとって重要なものを一般化する(認知領域) 倫理観を討議する(情意領域)		
キーワード	理学療法、法律、地域リハ、理学療法評価、トップダウンとボトムアップ、クリニカルリーズニング		
スケジュール			
1回目	理学療法士の法律		
2回目	理学療法の意義と役割		
3回目	理学療法の目標		
4回目	身体障害者福祉法における理学療法の対象者、臨床における理学療法の対象		
5回目	理学療法の方法		
6回目	理学療法士教育		
7回目	地域リハビリテーションと理学療法		
8回目	医療事故とリスクマネジメント		
9回目	個人情報管理と対象者の権利		
10回目	臨床教育の実践		
11回目	理学療法評価		
12回目	トップダウンとボトムアップ		
13回目	クリニカルリーズニング		
14回目	クリニカルリーズニング		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100点) ※ただし、授業態度により2回目以降の注意からは毎回5点減点		
教科書	理学療法学概論 第4版、千住英明 監修 田原弘幸 他編、神陵文庫		
参考書・資料等	理学療法学概論 第7版、奈良勲 他編、医歯薬出版株式会社		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	理学療法評価法 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法評価について、理学療法及びリハビリテーション医療を展開するうえでの評価の意義の理解を深め、安全で疾患に合わせた適切な検査・測定を習得する。		
行動目標	障害モデルと理学療法評価の関連について説明できる。 臨床的思考決定過程のなかで理学療法評価の目的や意義を説明できる。 各検査において適切なオリエンテーションができる。 各検査において検査・測定器具を正しく取り扱うことができ、測定肢位を適切に選択することができる。 各検査において検査・測定結果を適切に解釈することができる(適切に検査・測定を行うことができる)。 各検査において検査・測定方法、検査・測定結果を説明できる。		
キーワード	評価, 検査, 測定		
スケジュール			
1回目/2回目	理学療法評価総論 / 理学療法評価総論		
3回目/4回目	理学療法評価総論 / 血圧		
5回目/6回目	血圧 / 協調性検査		
7回目/8回目	協調性検査 / バランス検査		
9回目/10回目	バランス検査 / 反射検査		
11回目/12回目	反射検査 / 反射検査		
13回目/14回目	反射検査 / 反射検査		
15回目/16回目	痛みの評価 / 痛みの評価		
17回目/18回目	知覚検査 / 知覚検査		
19回目/20回目	知覚検査 / 知覚検査		
21回目/22回目	知覚検査 / 知覚検査		
23回目/24回目	筋緊張検査 / 筋緊張検査		
25回目/26回目	形態測定 / 形態測定		
27回目/28回目	形態測定 / 形態測定		
29回目/30回目	整形外科的検査 / 整形外科的検査		
評価方法	筆記試験(100点) 筆記試験は授業の最終回終了後の期末試験期間中に行う。		
教科書	ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版, 著者 田崎義昭・斎藤佳雄, 南山堂		
参考書・資料等	理学療法評価学 改訂第6版, 著者 松澤正, 金原出版		
履修上の注意	実技の講義の際は、KCを着用し、実習に臨む容姿で受講すること。 (最初2コマ分の講義は通常の服装でよい。1回目に4回目以降の服装などを詳細に指示を行う。)		

学校整理番号(110)

授業科目	理学療法評価法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月-金(土日)9:00-17:00
一般目標	理学療法評価について、理学療法及びリハビリテーション医療を展開するうえでの評価の意義の理解を深め、安全で疾患に合わせた適切な検査・測定を習得する。		
行動目標	<p>障害モデルと理学療法評価の関連について説明できる。</p> <p>臨床的思考決定過程のなかで理学療法評価の目的や意義を説明できる。</p> <p>各検査において適切なオリエンテーションができる。</p> <p>各検査において検査・測定器具を正しく取り扱うことができ、測定肢位を適切に選択することができる。</p> <p>各検査において検査・測定結果を適切に解釈することができる(適切に検査・測定を行うことができる)。</p> <p>各検査において検査・測定方法、検査・測定結果を説明できる。</p>		
キーワード	運動学的視点、神経システム、動作分析、理学療法評価		
	スケジュール		
1.2回目	復習(理学療法評価学Ⅰの範囲) / 筋力検査(MMT以外)		
3.4回目	筋トーマス検査		
5.6回目	日常生活活動(動作)検査		
7.8回目	整形外科超音波検査		
9.10回目	運動発達検査		
11.12回目	姿勢反射検査		
13.14回目	片麻痺機能検査		
15.16回目	脳神経検査		
17.18回目	高次脳機能検査		
19.20回目	電気生理学的検査		
21.22回目	呼吸機能検査		
23.24回目	循環機能検査		
25.26回目	臨床応用①		
27.28回目	臨床応用②		
29.30回目	臨床応用③		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	<p>理学療法評価学 改訂第6版, 著者 松澤正, 金原出版</p> <p>ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版, 著者 田崎義昭・斎藤佳雄, 南山堂</p>		
参考書・資料等			
履修上の注意	<p>1年生の時の理学療法評価学Ⅰの復習も入ります。各自で改めて見直しをしておいてください。</p> <p>実技の講義の際は、KCを着用し、実習に臨む容姿で受講すること。</p> <p>(最初2コマ分の講義は通常の服装でよい。1回目に4回目以降の服装などを詳細に指示を行う。)</p>		

授業科目	理学療法技術論(脳血管障害)		履修年次	2年次
			単位数	2単位
授業形態	講義		必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	高杉潤		オフィスアワー	金(9:00~17:00)
一般目標	脳の構造・機能を知り、脳血管障害に由来する臨床徴候とそのメカニズムを理解する。 脳血管障害片麻痺患者に対する理学療法の治療の実際と科学的根拠について理解する。 講義に加え、基本的な治療技術の習得とその科学的根拠について理解する。			
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造・機能を理解し、脳血管障害の病態・障害像を把握できる。 ・脳血管障害に対する適切な評価および治療手段を選択・実施できる。 ・運動療法が及ぼす中枢神経系(脳機能)への影響を理解し、説明できる。 			
キーワード	脳血管障害・錐体路障害、高次脳機能障害・運動療法			
スケジュール				
1・2回目	9月11日	(3・4限)	脳卒中の理学療法評価の実践1	
3・4回目	9月18日	(3・4限)	脳卒中の理学療法評価の実践2	
5・6回目	9月25日	(3・4限)	脳卒中の理学療法の過程	
7・8回目	10月2日	(3・4限)	片麻痺の動作分析	
9・10回目	10月9日	(3・4限)	片麻痺のアプローチ1	
11・12回目	#####	(3・4限)	片麻痺のアプローチ2	
13・14回目	#####	(3・4限)	片麻痺のアプローチ3	
15・16回目	#####	(3・4限)	片麻痺のアプローチ4	
17・18回目	11月6日	(3・4限)	片麻痺のアプローチ5	
19・20回目	#####	(3・4限)	総合学習	
21・22回目	#####	(3・4限)	高次脳機能障害の病態	
23・24回目	#####	(3・4限)	高次脳機能障害へのアプローチ	
25・26回目	12月4日	(3・4限)	ニューロリハビリテーション	
27・28回目	#####	(3・4限)	運動失調の病態とアプローチ	
29・30回目	#####	(3・4限)	総合学習	
評価方法	定期試験(70%)、実技試験(20%)、授業態度(10%)で総合的に評価する。			
教科書	標準理学療法学 神経理学療法学 第2版(医学書院)			
参考書・資料等	脳神経疾患ビジュアルブック(学研メディカル秀潤社) 15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト神経障害理学療法学Ⅰ(中山書店) ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)			
履修上の注意	神経内科、評価Ⅱなどの学習内容が基礎となるため、十分に復習を行うこと。			

Syllabus

2022 年度

国際医療福祉専門学校
リハビリテーション学科
理学療法士コース

学校整理番号(110)

授業科目	生命倫理 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・グループワーク	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	保健医療福祉の分野において、生じている倫理的問題について学ぶ。 事例を通し、自分の考えを述べることを大切にするとともに、他者の意見も尊重し、ともに考えることができる。		
行動目標	医療の発展に伴い、生じている倫理的な課題について説明できる。 将来の実践現場において起こりうる倫理的課題について、自分の考えをまとめ、他者に伝えることができる。 個人的な意見だけでなく、他者の意見も尊重し、柔軟に考えられるようになる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	ガイダンス	「生命倫理についての歴史を学ぶ」	
2回目	倫理について	「倫理の基礎」「例題を通して考える(1)」	
3回目	倫理について	「例題を通して考える(2)」	
4回目	生命倫理について考える	「生命倫理の原則」「例題を通して考える」	
5回目	自己決定権について	判例における「患者の自己決定権」の再考	
6回目	脳死について考える	「脳死と植物状態の違い」「例題を通して考える」	
7回目	全体のまとめ(1)	医療職としての生命倫理	
8回目	全体のまとめ(2)	作業療法士の倫理を学ぶ	
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	授業で使用する資料は随時配布します。		
参考書・資料等	生命倫理学入門(第4版), 今井道夫, 産業図書 保健・医療職のための生命倫理ワークブック, 吉川ひろみ マンガで学ぶ整形倫理, 児玉 聡・なつたか, (株)科学同人		
履修上の注意	自分の意見をしっかり伝え、相手の意見も尊重しましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	生命倫理Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・グループワーク	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	保健医療福祉の分野において、生じている倫理的問題について学ぶ。 事例を通し、自分の考えを述べることを大切にするとともに、他者の意見も尊重し、ともに考えることができる。		
行動目標	医療の発展に伴い、生じている倫理的な課題について説明できる。 将来の実践現場において起こりうる倫理的課題について、自分の考えをまとめ、他者に伝えることができる。 個人的な意見だけではなく、他者の意見も尊重し、柔軟に考えられるようになる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	生命倫理とは		
2回目	インフォームド・コンセントとは	「説明と同意」「知る権利、知らない権利」	
3回目	移植医療について考える	脳死と臓器移植	
4回目	超高齢化社会について	身体拘束、虐待防止、意思決定支援	
5回目	出産と生殖補助医療について考える	AIHとAID、クローン、出生前検査	
6回目	死について考える	安楽死と尊厳死、延命治療、緩和ケア、リビングウイール	
7回目	ターミナルケア	患者様・ご家族様の気持ちを考える ACPIについて	
8回目	全体のまとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	授業で使用する資料は随時配布します。		
参考書・資料等	生命倫理学入門(第4版), 今井道夫, 産業図書 保健・医療職のための生命倫理ワークブック, 吉川ひろみ		
履修上の注意	自分の意見をしっかり伝え、相手の意見も尊重しましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	心理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月・水・金9:00～17:20
一般目標	心理学は、人間を理解することと深く結びついている。心の働きのメカニズム、発達過程、对人的影響について基礎的な知識を習得する。		
行動目標	心理学の主要な研究領域の特徴を説明できる 人間の心の代表的な認知メカニズムについて説明できる 人間の心の発達過程について説明できる 人間の心の社会との相互関係について説明できる		
キーワード	こころ、適応、しくみ		
スケジュール			
1回目	心理学とは		
2回目	心の発達		
3回目	動機づけと情動		
4回目	性格		
5回目	感覚と知覚		
6回目	記憶と学習		
7回目	脳と心		
8回目	心と社会		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	はじめて出会う心理学 改訂版、長谷川寿一他、有斐閣アルマ		
参考書・資料等	心理学・入門、サトウタツヤ・渡邊芳之、有斐閣アルマ 参考資料を適宜配布します。		
履修上の注意	講義スタイルの授業ですが、随時、講義内容の感想、疑問などを尋ねたいと思います。その内容について、学生同士での話し合い、学習内容についての理解を深めていきましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	教育学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:30
一般目標	作業療法士・理学療法士を取り巻く社会は、教育に携わる機会を挙げると暇がないのが実情である。よって本講では教育学の基礎知識を紹介しながら、教育学的思考の初歩を経験する場を提供する。内容は、作業療法士・理学療法士に必要なスキルを、講義を通じて学びの深まりとクラスの親睦の深まりも追求したい。最終的には深い人間理解に根ざした教育観を養うことを目標とする。		
行動目標	「教えること」から「学ぶこと」への気づきが、ひいては患者教育へとつながることを理解する。そして、理学療法士の役割と教育の意義を理解できること。		
キーワード	教育 しつけ 方法論 カント イタール ロック 行動分析		
スケジュール			
1回目	ガイダンス	● 教育学とは何か？ 目的と意義	ヒトにとっての学び
2回目		↓ 情報伝達とコミュニケーション(1)	その方法
3回目		↓ 情報伝達とコミュニケーション(2)	情報受発信力 討論・対話力(1)
4回目		↓ 情報受発信力 討論・対話力(2)	
5回目	古典から考える(1)	イマヌエル・カントの教育論	
6回目	古典から考える(2)	イタールの教育論 ロックの人間悟性論	
7回目	古典から考える(3)	オペラントの行動分析から考える	
8回目	Summary	作業療法・理学療法への展望	
評価方法	原則として定期試験で評価する。ただし、場合によってはグループワーク等の受講取組態度を加味することがある。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	参考図書： 佐野洋子著 『100万回生きたねこ』(講談社)		
履修上の注意	講義では毎回意見を伺うので、寝ていたり聞いていなかったりしては講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら将来の自身の作業療法「理学療法業務場面を想像しながら、関心をもって講義に臨んでください。また講義内で配布する資料は後でも読み、紹介する参考文献も手にとって、さらに深めてください。		

授業科目	社会の理解	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・一部演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦(社会学士)	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	<p>「社会」は、色々な意味を含んでいるが、自身の経験や常識(だけ)に基づき、「社会」についてを曖昧に理解しがちである。その「社会」を構成するのは、作業療法・理学療法の対象となる人間であり、その集団といえる。本講では、集団の中の人間という基本的な原理を理解し、家族、地域社会、国家という社会集団について学習する。次いで、医療・理学療法界を取り巻く諸課題を関連させて考えることができるようにすることを目標とする。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ●「社会」について多角的に理解するとともに、人間権と社会の関連について認識を深める。 ●医療従事者としての社会との関わりについての豊かなイメージを培う。 		
キーワード	社会とは 家族 ジェンダー 自己と他者 アノミー		
スケジュール			
1回目	ガイダンス～ イントロダクション——社会学とはどんな学問か？		
2回目	「近代社会」について——私たちが生きる「社会」の枠組 1)自己——「見る自分」と「見られる自分」		
3回目	「近代社会」について——私たちが生きる「社会」の枠組 2)家族とジェンダー		
4回目	相互作用——社会的ネットワーク 地域社会の変化と問題点(都市部と農村部)		
5回目	地域社会の変化と問題点(現代の都市型社会における地域問題)		
6回目	貧困と社会的排除(デュルケムによる)		
7回目	他者との関わり—教育の観点から		
8回目	まとめ		
評価方法	・定期試験 ・授業態度・演習取組状況を総合的に勘案し評価する。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	参考図書: E.デュルケム(著), 宮島 喬(翻訳) 『自殺論』(中公文庫) 他		
履修上の注意	医療が社会の中の行為、事業であることを意識したうえで、社会がつねに変化の中にあること、また、改良すべき問題点を生み出していることを意識してください。講義では毎回意見を伺うので、寝ていたり聞いていなかったりしては講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら扱うテーマについて調べ、関心をもって講義に生かしてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	法 学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・一部演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	医療、福祉をはじめ、作業療法士・理学療法士を取り巻く社会は、理学療法士・作業療法士法をはじめ医師法等に従って規律・実行され、問題が処理されている。こうした法現象を、分析、理解し、社会における法制度の役割を理解できるよう講義をすすめていく。講学の題材には、作業療法士・理学療法士に密接な個人情報守秘義務など法律的問題を取り上げ、これらを、憲法の基本原理を参照しながら、論理的に理解できるようになることを目標としたい。		
行動目標	人権が保障され民主的で平和な社会を構築していくために、憲法や法律がどのように社会を規律しているか、そして、それが日常生活にどのように生かされて、個人情報保護法等を概観し、医療、福祉など国民生活における法制度の役割と意義を理解できる。		
キーワード	国家 法の精神 道徳 倫理 個人情報 日本国憲法		
スケジュール			
1回目	ガイダンス ～法を学ぶことについて 法の精神(ロック)		
2回目	● 法とは何か? 国家 道徳・正義・倫理・規範		
3回目	↓ ルール・マナー		
4回目	罪 罰		
5回目	医療者の法的責任(理学療法士の身近な法と罰)		
6回目	個人情報1		
7回目	個人情報2		
8回目	日本国憲法と法の意義 ～憲法にみる人権～		
評価方法	原則として定期試験で評価する。演習(課題含む)等の受講取組態度を勘案することがある。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	参考図書: 『日本国憲法』(小学館)		
履修上の注意	講義では毎回意見を伺うので、寝ていたり聞いていなかったりしては講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら将来の自身の作業療法、理学療法業務場面を想像しながら、関心をもって講義に臨んでください。また講義内で配布する資料は後でも読み、紹介する参考文献も手にとって、さらに深めてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	人間関係論	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	対人援助職としての理学療法士について、自己概念を知ることによって他者との関わりを模索し、コミュニケーション力を高め、人間について考えていく。		
行動目標	自己肯定感を持ち、心身ともに健康管理ができる。 人間性を高め、人として自分を成長させる。 主体性をもって行動ができる自立した人間となる。 対人援助職として必要不可欠なコミュニケーション能力を高める。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	対人関係と役割		
2回目	人間関係の形成		
3回目	人間関係の自己と他者		
4回目	コミュニケーションとは…		
5回目	コミュニケーション技法① 言語		
6回目	コミュニケーション技法② 非言語		
7回目	コミュニケーション技法③ 共感・傾聴・繰り返し		
8回目	人間の多面的理解		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	特に無し。		
参考書・資料等	適宜、資料配布します。		
履修上の注意	授業内で自らの内面についてワークに取り組む時間を設けています。ありのままの自分の心を反映できるような姿勢で取り組むことが大切です。「望ましい答え」を探すのではなく、本来の自分の思考をout putできるように心掛けてください。		

授業科目	物理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	姉川 秀治	オフィスアワー	
一般目標	身近な力学現象(モノと運動)を、自分の言葉で捉え直して、自分自身の力学的自然観を創造する。		
行動目標	運動の第1法則を自分の言葉で捉え直し、モノの存在について理解を深める。 運動の第1・第2法則を自分の言葉で捉え直し、運動概念の理解を深める。 運動の第2法則を捉え直し、因果論的説明が納得の形式であることを知る。 運動の第3法則を捉え直し、力がモノとモノとの相互作用であることを理解する。 力を図象化することで理解を深める。 練習問題は、すすんで取り組んで理解する。		
キーワード	自分の言葉、捉え直し、モノ、運動、力		
スケジュール			
1回目	相対速度の考察から運動概念を揺さぶる 自然観の歴史を振り返る		
2回目	運動の第1法則 モノの存在と運動 多様な表現 モノの存在論		
3回目	速度、加速度の概念整理 $v \sim t$ グラフを使って運動学の初歩を整理		
4回目	運動の第2法則 外力と速度変化の因果関係 モノの世界の因果律		
5回目	力概念の整理と静力学の初歩 力のモーメント 浮力		
6回目	運動の第3法則 力は相互作用 モノの世界の言葉 モノの世界の関係論		
7回目	力を図示して運動の法則を振り返る 光について てこについて		
8回目	Energy(運動方程式積分型、Energy概念一般) 練習問題を中心に総復習		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	筆記試験(100%) 力学的自然観についての自主提出レポート(最大15点の加点あり) ただし、最大点数は100点とする。		
教科書	担当教員による描き下ろし資料「力学の世界へ」		
参考書・資料等			
履修上の注意	特別な予備知識は不要だが、「言葉」にきちんと向き合うことが必要である。 テキストは、毎回持参する必要がある。		

学校整理番号(110)

授業科目	情報科学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金:8:30～17:20
一般目標	<p>昨今、情報化社会となった今、中高生からパソコンを使用することが当たり前となっている。また、臨床の現場においてもパソコンでの管理が標準となっている。この講義では、一般的なPCを使用し、ワード、エクセル、パワーポイントを使い、特にエクセルの統計について概略をつかめることを目標とする。</p>		
行動目標	<p>パソコンを使用してマイクロソフト Officeを使用することができる。 文章を打つためのタイピングをスムーズに行うことができる。 統計処理という概念を理解することができる。</p>		
キーワード	パソコン, マイクロソフト Office, Excel		
スケジュール			
1回目	パソコンの使用について		
2回目	文章のタイピング及びイラストの挿入等、紙面の体裁について		
3回目	統計処理について(意義、概念)		
4回目	統計処理について(方法ほか)1		
5回目	統計処理について(方法ほか)2		
6回目	統計処理について(方法ほか)3		
7回目	国家試験に出る統計処理		
8回目	まとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	Word、Excel、PowerPointのデータを提出物として評価する		
教科書	<p>特に指定する教科書はない代わりに各自がパソコン、マイクロソフト Office(Word、Excel、PowerPoint)に関する知識を身に付けておく必要がある。 OfficeIに関しては、それに準じたものであれば代用可能だが、使用方法については各自が勉強すること。</p>		
参考書・資料等			
履修上の注意	<p>授業開始までに各自でパソコンを用意する。パソコンはマイクロソフトOfficeが稼働するものであれば大丈夫です。</p>		

授業科目	コミュニケーション学	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	神崎美佳	オフィスアワー	9:00~17:20
一般目標	対人援助に必要なコミュニケーション能力を養うために、自己及び他者のパーソナリティの理解や許容能力を養い、コミュニケーション力を高める。		
行動目標	自己肯定感を持ち、心身ともに健康管理ができる。 人間性を高め、人として自分を成長させる。 主体性をもって行動ができる自立した人間となる。 対人援助職として必要不可欠なコミュニケーション能力を高める。		
キーワード	人間関係 自己概念 コミュニケーション		
	スケジュール		
1回目	人間関係の自己と他者		
2回目	対人関係と役割		
3回目	人間の多面的理解		
4回目	人間関係の形成		
5回目	コミュニケーションとは		
6回目	コミュニケーションの技法(言語・非言語コミュニケーション)		
7回目	コミュニケーションの技法(共感・傾聴・繰り返し)		
8回目	総合考察		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、レポート、筆記試験にて判断します。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。		
参考書・資料	橋本正明編集:人間の理解 メディカルフレンド社 石川ひろの: 系統看護学講座 基礎分野 人間関係論 医学書院		
履修上の注意	授業内で自らの内面についてワークに取り組む時間を設けています。ありのままの自分の心を反映できるような姿勢で取り組むことが大切です。「望ましい答え」を探すのではなく、本来の自分の思考をout putできるよう心掛けてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	保健体育	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<p>作業療法士に必要な身体的観点や運動感覚を身体で体感する。 様々な活動を通じ、心身の成長を促すとともに他者とのコミュニケーション能力を養う。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体活動を通じ、心身の成長を促す。 ・基本動作における身体の使い方を知る。 ・障がい者体験や基本的な福祉用具の使用体験を通して障がいを感じることができる。 ・他者と協力して行動する意義を知る。 		
キーワード	コミュニケーション、心身機能、健康、レクリエーション		
	スケジュール		
1回目	オリエンテーション。意識して身体を動かす。		
2回目	介助用具(福祉用具)を使ってみよう。		
3回目	町の中は危険がいっぱい。野外でのバリアフリーを感じてみよう。		
4回目	ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインを考えて(体験して)みよう。		
5回目	モーションセンサーを使って自分の身体の動きを確認してみよう。		
6回目	障害者体験をしてみよう。		
7回目	パラスポーツを体験してみよう。		
8回目	パラスポーツを体験してみよう。		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)にて判断します。		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく楽しく元気よく、意欲的に取り組むこと。 ・怪我には注意すること。 ・天候により予定変更になることもあります。 		

学校整理番号(110)

授業科目	文章表現法	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月・水・金曜日9:00～17:20
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 理学、作業療法士としての基本的な文章表現能力を高める。 講義を基本とするが、実践的な演習も交え進めていく。 		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 医療人としての自身を自覚し、他者にわかりやすい表現法を理解する 理学、作業療法を学ぶ学生として必要な文章作成技術を身につける 		
キーワード	文章表現、形式、専門用語		
スケジュール			
1回目	文章を書く時の注意点		
2回目	敬語について		
3回目	メールのマナーと文章作成		
4回目	手紙の書き方・封筒の書き方		
5回目	礼状の書き方		
6回目	感想文の書き方		
7回目	文章作成(レポート)		
8回目	診療記録～その内容と用語～		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。		
参考書・資料等	庄司達也ほか:日本語表現法、翰林書房		
履修上の注意	言語による表現は技術であり、学ぶものである為、課題に積極的に取り組んでください。		

学校整理番号(110)

授業科目	英語	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	出浦 聡	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	リハビリテーション場面で使われる英語に習熟する。		
行動目標	身体各部の名称がわかる。 医療現場で用いられる機器の名称がわかる。 セラピストが使う略語がわかる。 英語で書かれた記録、論文が読める。		
キーワード	英語 セラピスト 専門用語		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	身体の部位		
3回目	断面と方向		
4回目	関節運動の名称		
5回目	骨格と筋		
6回目	運動方向と姿勢		
7回目	接頭辞		
8回目	語幹		
9回目	接尾辞		
10回目	病気		
11回目	症状		
12回目	リハビリ部門		
13回目	略語		
14回目	論文、カルテなど		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験の結果と授業への参加態度などを総合的に評価する		
教科書	なし		
参考書・資料等	特になし		
履修上の注意	医療現場で使われる言葉、専門用語を英単語とともに学ぶことで、他科目の学習に活かしていけるようにしてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	解剖学 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義並びに演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	運動器系を三次元的に捉え、その構造を理解する。 基本構造から基本的な働き(機能)を考える。 これらの働きより、臨床医学のもととなる知識を身につける。		
行動目標	人体の部位、名称などを覚える。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築する。 自身の身体を使い感じる事が出来る。		
キーワード	人体, 構造, 三次元		
スケジュール			
1回目/2回目	解剖学総論、骨学:骨組織と骨格の構造		
3回目/4回目	骨学:骨の連結と靭帯		
5回目/6回目	骨学:形態と名称(頭頸部と体幹)		
7回目/8回目	骨学:形態と名称(上肢)		
9回目/10回目	骨学:形態と名称(下肢)		
11回目/12回目	関節・靭帯		
13回目/14回目	筋学:頭頸部		
15回目/16回目	筋学:体幹部		
17回目/18回目	筋学:上肢①		
19回目/20回目	筋学:上肢②		
21回目/22回目	筋学:下肢①		
23回目/24回目	筋学:下肢②		
25回目/26回目	神経系(中枢神経)①		
27回目/28回目	神経系(中枢神経)②		
29回目/30回目	神経系(末梢神経)		
評価方法	試験およびレポート(進行状況による)に対して、授業態度及び出席率を勘案して評価する。		
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院		
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 解剖学カラーアトラス 第5版 医学書院		
履修上の注意	人体の正常な構造や形態を学ぶといくことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考えることである。また、構造や形態にも意味があるものである。 暗記という勉強法ではなく、なぜという疑問を考え学習することが重要である。		

学校整理番号(110)

授業科目	解剖学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金:8:30～17:20
一般目標	理学療法を行う上で重要となる体の構造を理解し把握することが大切となる。模型や実技およびご遺体に触れることで、学習することを目的とする。		
行動目標	各骨の部位の名称を説明できる 皮膚の上から骨の部位の名称を触診できる 実際のご遺体を通して体の構造を知る 実際のご遺体を通して体の構造を説明できる		
キーワード	触診、骨、解剖演習		
スケジュール			
1回目/2回目	触察(骨に触れる)		
3回目/4回目	触察(体幹)		
5回目/6回目	触察(上肢)		
7回目/8回目	触察(下肢)		
9回目/10回目	感覚器系体性感覚		
11回目/12回目	感覚器系特殊感覚		
13回目/14回目	循環器系(心臓の構造など)		
15回目/16回目	循環器系(脈管など)		
17回目/18回目	呼吸器系(肺の構造など)		
19回目/20回目	泌尿器系(腎臓の構造と形態)		
21回目/22回目	消化器系(各臓器の位置と名称)		
23回目/24回目	味覚・嗅覚器		
25回目/26回目	視覚器		
27回目/28回目	聴覚器		
29回目/30回目	生殖器		
評価方法	骨模型を利用した質疑応答 触診の実技考査 最終試験		
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診術 上肢 改訂第2版, 林 典雄, メジカルビュー社 運動療法のための機能解剖学的触診術 下肢・体幹 改訂第2版, 林 典雄, メジカルビュー社		
参考書・資料等	解剖学 運動学 カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで 等、他科目で教科書と指定してある教科書 骨格筋の形と触察法 改訂第2版, 河上 敬介, 大峰閣		
履修上の注意	触診の授業では、動きやすい服装もさることながら、できる限り薄い服の方が、他人が触診した際にわかりやすく、親切となる。		

学校整理番号(110)

授業科目	機能解剖学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	今泉 仁美	オフィスアワー	原則 月～金 8:30～17:20
一般目標	これまで学んできた解剖学・運動学の知識を統合し、臨床的な考察が行えるようになる		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 筋の起始停止、支配神経を覚える 各回のキーワードについて説明、考察が行えるようになる 国家試験問題の理解 		
キーワード	各回スケジュール参照		
スケジュール			
1回目	姿勢分析の基礎知識① : 関節の種類 アライメント COG 支持基底面 床反力 OKC CKC		
2回目	姿勢分析の基礎知識② : 遠心性収縮 求心性収縮 運動連鎖 ミクリッツ線		
3回目	足部の機能解剖と姿勢分析① : 距腿関節 距骨下関節 靭帯		
4回目	足部の機能解剖と姿勢分析② : 内側・外側縦アーチ トラス機構 ウィンドラス機構 ハイアーチ		
5回目	小テスト		
6回目	膝関節の機能解剖と姿勢分析① : 脛骨大腿関節 膝蓋大腿関節 前十字靭帯 後十字靭帯 副運		
7回目	膝関節の機能解剖と姿勢分析② : Q角 FTA		
8回目	股関節の機能解剖と姿勢分析 : 骨盤前傾 骨盤後傾 ASIS PSIS		
9回目	骨盤～下肢の姿勢分析、姿勢戦略、ストレッチ		
10回目	小テスト		
11回目	脊柱の構造と機能 : 前弯 後弯 側弯 胸郭のアライメント		
12回目	肩甲帯と上肢の構造と機能 : 肩甲骨のアライメント 上腕骨頭の位置 肩甲上腕リズム 運搬角		
13回目	症例検討		
14回目	症例検討		
15回目	ストレッチ		
評価方法	授業態度、小テスト、筆記試験		
教科書	標準理学療法学 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第6版		
参考書・資料等	エッセンシャルキネシオロジー 機能的運動学の基礎と臨床 第3版		
履修上の注意	授業態度も成績に含むため、積極的に受講すること。		

学校整理番号(110)

授業科目	生理学 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人間の機能について知る。		
行動目標	<p>体の基本構造を押さえながらその基本的な働き(機能)を学ぶ。 人体の働きより臨床医学のもととなる知識を身につける。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築しなおす。 体内で起きている見えない現象を理解する。</p>		
キーワード	人体, 機能, 日常生活		
スケジュール			
1回目/2回目	細胞の機能		
3回目/4回目	栄養の消化と吸収		
5回目/6回目	呼吸の働き		
7回目/8回目	血液の働き		
9回目/10回目	血液の循環と調節		
11回目/12回目	泌尿器の機能と調節		
13回目/14回目	体液の調節		
15回目/16回目	自律神経による調節機能		
17回目/18回目	内分泌による調節機能		
19回目/20回目	筋肉の収縮		
21回目/22回目	中枢神経系について		
23回目/24回目	末梢神経系について		
25回目/26回目	特殊感覚器の機能について		
27回目/28回目	皮膚の構造と機能および体温調節について		
29回目/30回目	生殖器		
評価方法	試験およびレポート(進行状況による)に対して、授業態度及び出席率を勘案して評価する。		
教科書	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院		
参考書・資料等	<p>カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院</p>		
履修上の注意	<p>基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 解剖学的知識を用い、疾患を紐解くので、必要と思われる基礎知識を関連付けて復習しておくことで、よりスムーズに学習することが可能になるでしょう。</p>		

学校整理番号(110)

授業科目	生理学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義、演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	実際の人体を五感で構築する。		
行動目標	授業で学んだ人体の基本的な働き(機能)を体験する。 実験を通して人体の働きの知識を身につける。 自己の体験をもとに人体の機能を理解する。 体内で起きている見えない現象を理解する。		
キーワード	神経系, 循環器系, 消化器系		
スケジュール			
1回目	中枢神経の機能1		
2回目	中枢神経の機能2		
3回目	感覚器について1		
4回目	感覚器について2		
5回目	中枢神経の機能演習1		
6回目	中枢神経の機能演習2		
7回目	中枢神経の機能演習3		
8回目	中枢神経の機能演習4		
9回目	血液について1		
10回目	血液について2		
11回目	摂食・嚥下機能について		
12回目	摂食・嚥下機能について		
13回目	摂食・嚥下機能について		
14回目	摂食・嚥下機能について		
15回目	まとめ		
評価方法	レポート、授業態度及び出席率を総合的に評価する。		
教科書	プリントを配布		
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学・生理学の知識を演習により体感するためより明確に理解できる。しかしながら、演習の意図や目的を判らないまま行うことはリスクを伴い、また、知識の構築にも繋がらないので前期で学習した内容を復習しておくことが大切である。		

学校整理番号(110)

授業科目	病理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	理学療法士としての基礎知識を習得し、正しい理学療法を行えるようになるために、病気の成り立ちと臨床的特徴を理解する。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の正常な構造及び機能を理解する 2. 疾病の原因と臨床症状の因果関係を理解する 3. 疾病の際にその臓器や器官に生じる肉眼的及び組織学的変化を理解する 4. 疾病に対する予防や治療に関する知識を習得する 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	病理学とは		
2回目	体液の異常		
3回目	血行障害①		
4回目	血行障害②		
5回目	炎症と修復		
6回目	免疫及び免疫疾患		
7回目	感染①		
8回目	感染②		
9回目	変性・壊死・萎縮・老化①		
10回目	変性・壊死・萎縮・老化②		
11回目	腫瘍と過形成①		
12回目	腫瘍と過形成②		
13回目	先天異常		
14回目	代謝異常①		
15回目	代謝異常②		
評価方法	授業態度(出席回数含む) 定期試験		
教科書	ナーシング・グラフィカ 病態生理学 メディカ出版		
参考書・資料等	授業資料は都度配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	人間発達学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 :30～17:20
一般目標	人間は母体内から発達する。即ち、人間の一生は胎児から始まり、誕生を迎え、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期と生涯発達することを理解することを本講義の目標とします。発達過程には生理的(身体・運動)にも、心理的にも発達します。これら基本的な発達段階とその特性を中心に講義及び実技や演習を通して学んでいきます。		
行動目標	生涯発達の観点から、胎児期・新生児期、幼児期、思春期、成年期以降から老年期にまでの標準的発達を理解し、それぞれの特徴を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション ～発達概念について～		
2回目	人間発達		
3回目	発達検査紹介 グットイナフ・日本版デンバー式スクリーニング検査		
4回目	姿勢反射/反応		
5回目	運動発達① 0～3カ月		
6回目	運動発達② 4～6カ月		
7回目	運動発達③ 7～9カ月		
8回目	運動発達④ 10～12カ月		
9回目	運動発達⑤ 13～18カ月		
10回目	姿勢反射/反応 6歳までの発達		
11回目	上肢機能(つまみ・把持)・ADL(動作)の発達		
12回目	感覚・知覚・認知・社会性の発達		
13回目	学童・青年・成人・老年期の発達①		
14回目	学童・青年・成人・老年期の発達②		
15回目	高齢者の特徴		
評価方法	出席率、授業態度(課題等を含む)、筆記試験を総合して判断します。		
教科書	イラストでわかる人間発達学 上杉雅之 医歯薬出版		
参考書・資料等			
履修上の注意	作業療法士における発達領域における入口となる講義となります。 人間における発達過程の理解を深めていきましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	臨床心理学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	
一般目標	心の動きに関する基礎知識や心理学的な人間理解お手掛かりとなる理論を学び、人が適応・成長するとは何かを考える。そして、心理検査、心理療法の基礎を学び、対人援助サービスを行うための心構えを身につける。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心の成り立ちについて、精神分析学で説明できる。 ・人間の心理的な発達の特徴を説明できる。 ・心理アセスメントの基本を理解する。 ・人間理解を通して、支援を必要とする人の気持ちに寄り添った援助ができるようになる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	ガイダンス		
2回目	防衛機制		
3回目	精神分析理論		
4回目	来談者中心療法と映画鑑賞		
5回目	来談者中心療法と映画鑑賞		
6回目	ストレス		
7回目	アセスメントと面接法		
8回目	検査法		
9回目	観察法と介入技法		
10回目	介入技法 SST		
11回目	乳児期 児童期		
12回目	思春期 青年期		
13回目	成人期 中年期 老年期		
14回目	医療領域と行動療法		
15回目	教育場面		
評価方法	定期試験:60% レポート:30%(課題は授業中に提示) 受講態度:10%		
教科書	適宜 資料を配布する		
参考書・資料等	下山晴彦(編著)『よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房,2010年9月		
履修上の注意	理学(作業)療法が対象のする人達は、自分とは異なる個性や価値観を持っています。臨床心理学の知識を習得し、対象者の多様性を認め、自らの価値観の幅を広げましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	公衆衛生学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義および演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川 孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<p>一般的な保健医療に関する知識を持つことができる。 公衆衛生の概念を理解し、医療従事者の感染対策の知識を深めることができる。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の分類と、その感染経路について理解できる ・病気に関する基本的な部分を理解できる ・健康に関すること等基本的な部分を理解できる 		
キーワード	公衆衛生, 感染, 感染予防		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション 公衆衛生学とは		
2回目	健康の指標		
3回目	公衆衛生(1)	<p>母子保健, 学校保健, 産業保健, 地域保健, 働く人々の健康管理, 女性の健康管理, 医療現場の感染対策, 国際保健, 精神保健, 臨床疫学とEBM, 生活習慣病, がん患者・家族への支援, 健康と栄養, 運動と健康, 東洋医学と代替医療 等</p>	一部、各グループに分かれて演習
4回目	公衆衛生(2)		
5回目	公衆衛生(3)		
6回目	公衆衛生(4)		
7回目	公衆衛生(5)		
8回目	公衆衛生(6)		
9回目	公衆衛生(7)		
10回目	公衆衛生(8)		
11回目	公衆衛生(9)		
12回目	公衆衛生(10)		
13回目	公衆衛生(11)	各グループの発表と質疑応答	
14回目	公衆衛生(12)	各グループの発表と質疑応答	
15回目	Summary 作業療法・理学療法への課		
評価方法	原則として定期試験で評価する。ただし、場合によってはグループワーク等の受講取組態度を加味することがある。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	母子手帳や健康診断結果を用いる。 PC等を用い演習を行う。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	薬理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	五郎丸 美智子	オフィスアワー	
一般目標	薬物の生体内における作用に関する基本的事項を修得する		
行動目標	薬の使用目的を説明できる 薬の主作用、副作用、毒性の関係を説明できる 代表的な疾患の治療薬を列記できる 代表的な疾患の治療薬について作用機序を説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	総論 薬の基本的について例をあげて学ぶ		
2回目	総論 薬の動態について学ぶ		
3回目	総論 薬効に影響する因子などについて例をあげて学ぶ		
4回目	感染症に対する代表的薬物を学ぶ		
5回目	がんの仕組みを知り、関係の薬を学ぶ		
6回目	小テストと復習		
7回目	抗炎症薬 炎症の作用機序を知り関係の薬を学ぶ		
8回目	末梢神経 副交感神経に関与する薬を学ぶ		
9回目	末梢神経 交感神経に関与する薬を学ぶ		
10回目	代謝・内分泌 内分泌・代謝に関与する薬を学ぶ		
11回目	中枢神経 全身麻酔や睡眠薬の代表的薬物を学ぶ		
12回目	中枢神経 抗うつ薬や麻薬性鎮痛薬の代表的薬物を学ぶ		
13回目	心臓・血管系の薬 高血圧などの代表的薬を学ぶ		
14回目	呼吸器系の薬 喘息などの代表的薬を学ぶ		
15回目	まとめ		
評価方法	前半授業範囲の小テスト(30%) 後半授業範囲の筆記テスト(50~60%) 出席と態度(10~20%) ※再試験は、前半・後半あわせての範囲となる。		
教科書	系統看護学 専門基礎 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 ③、吉岡充弘、医学書院		
参考書・資料等	基礎医学シリーズ 目で見る薬理学入門 第3版 vol.1-12、山崎 純一 原案監修、医学映像教育センター 今日の治療薬 2016、浦部 晶夫 他編、南江堂		
履修上の注意	薬物療法と理学療法との関わり合いに留意して授業に臨むこと。		

学校整理番号(110)

授業科目	内科・老年医学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	
一般目標	理学療法士として必要かつ十分な内科学を修得すること		
行動目標	内科学および下記の各分野の病態生理・疾患を理解し概説できる。 免疫・アレルギー・代謝疾患		
キーワード	腎・泌尿器・アレルギー・免疫		
スケジュール			
1回目	消化器系疾患①		
2回目	消化器系疾患②		
3回目	アレルギー疾患①		
4回目	アレルギー疾患②		
5回目	自己免疫疾患①		
6回目	自己免疫疾患②		
7回目	糖尿病①		
8回目	糖尿病②		
9回目	呼吸器疾患①		
10回目	呼吸器疾患①		
11回目	循環器疾患①		
12回目	循環器疾患①		
13回目	腎・泌尿器疾患①		
14回目	腎・泌尿器疾患①		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100点) 試験は最終授業の1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行う。		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版、前田真治 他、医学書院		
参考書・資料等	講義ノート		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	栄養学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金内 則子	オフィスアワー	
一般目標	栄養学の基礎的な知識およびライフステージや各病態に応じた栄養療法についての知識を習得し、チーム医療の一員としての力を養う。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養スクリーニング、アセスメント、栄養ケアプラン、モニタリングと評価について理解する。 ・各病態に応じた栄養療法について理解する。 		
キーワード	臨床栄養、栄養アセスメント、栄養プラン、栄養教育		
スケジュール			
1回目	栄養学の基礎		
2回目	ライフステージと栄養		
3回目	ライフステージと栄養		
4回目	栄養スクリーニング、アセスメント		
5回目	栄養ケアプラン		
6回目	摂食・嚥下機能障害と食事・栄養		
7回目	フレイル、サルコペニアと食事・栄養		
8回目	代謝・内分泌疾患の食事療法		
9回目	循環器疾患の食事療法		
10回目	腎疾患の食事療法		
11回目	消化器疾患の食事療法		
12回目	がん、周術期の食事療法		
13回目	呼吸器疾患(COPD)、食物アレルギーの食事療法、褥瘡治療と栄養		
14回目	栄養教育、臨床栄養管理とチーム医療		
15回目	総括		
評価方法	筆記試験と小テストの合算によって決定する。		
教科書	日本病態栄養学会編「病態栄養専門管理栄養士のための病態栄養ガイドブック改訂第6版」南江堂,2019		
参考書・資料等	<p><資料> 授業に必要な資料は随時配布する。</p> <p><参考書> 随時、紹介する。</p>		
履修上の注意	生理学、生化学、内科学などで学習することと関連付け、理解を深める事。		

学校整理番号(110)

授業科目	整形外科学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・一部演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	原則、教員室で対応
一般目標	<p>整形外科学は運動器障害に関連し、理学療法とは密接な関係にある。運動器障害の理学療法を理解するために必要な整形外科学の知識と考え方を理解する。そのために 学生は</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動器疾患の特徴について理解する。 2) 運動器疾患における検査・治療方法リハビリテーションアプローチを理解する。 <p>以上の項目を到達できるようにすること。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 整形外科疾患について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 運動器の構造と機能 2) 整形外科疾患の主要病因と病態 3) 整形外科疾患の主要徴候と病態生理 4) 整形外科的検査 5) 整形外科の治療 		
キーワード	運動器 病因と病態 主要徴候と病態生理 検査 治療		
スケジュール			
1回目	ガイダンス 整形外科とは		
2回目	骨の構造, 生理, 化学		
3回目	診療の基本 整形外科的現症の取り方		
4回目	診療の基本 検査総論 画像検査 検体検査 生体検査		
5回目	保存療法の基本		
6回目	保存療法各論		
7回目	整形外科領域における手術の特徴		
8回目	整形外科外傷学 外傷総論		
9回目	整形外科外傷学 軟部組織損傷		
10回目	整形外科外傷学 骨折・脱臼(総論)		
11回目	整形外科外傷学 小児の骨折(総論)		
12回目	脊椎・脊髄損傷(総論)		
13回目	末梢神経損傷(総論)		
14回目	義肢(総論)		
15回目	スポーツ傷害(総論)		
評価方法	・定期試験 95%・講義態度 5%を基準に総合判定する。		
教科書	中村利孝 松野丈夫 他著・「標準整形外科学 第14版」医学書院、2020年。		
参考書・資料	<p>『基礎運動学』 『運動器疾患とリハビリテーション』 ※その他、評価法などの文献を広く熟読しておくこと。</p>		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 評価・臨床実習はじめ整形外科疾患を有する対象者を担当する機会は多い。整形外科を理解するには、解剖学・運動学の知識がないときわめて困難である。よって、講義前に学生は必ず教科書、参考図書に目を通して下さい。 ● 特別な理由なく欠席しないこと。講義中の居眠りは厳禁。 		

学校整理番号(110)

授業科目	整形外科学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	整形外科学Ⅰでの内容を踏まえ運動器障害に多い疾患の治癒過程とその治療法の知識と考え方を理解する。そのために 学生は1)各骨折における受傷機序から治癒に至る過程を理解する。2)各骨折におけるそれぞれの特徴的な整形外科的アプローチを理解する。3)軟部組織損傷の病態と治癒過程を理解する。以上の項目を到達できるようにすること。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ●整形外科疾患についての説明ができる。 1)各骨折の病態と治療方法 2)軟部組織損傷の病態と治療方法 3)上記における理学療法の内実 		
キーワード	骨折 軟部組織損傷 病態生理 治療		
スケジュール			
1回目	ガイダンス 外傷学(復習)		
2回目～8回目	骨折(各論) 肩甲骨 鎖骨 上腕骨 前腕骨 手根骨 手指骨 骨盤骨 大腿骨 脛骨 腓骨 足部 足趾		
9回目	慢性関節疾患(退行性, 代謝性)		
10回目	関節リウマチとその類縁疾患		
11回目	皮膚損傷 筋損傷		
12回目	腱損傷 靭帯損傷		
13回目	末梢神経損傷		
14回目	熱傷		
15回目	まとめ		
評価方法	・定期試験 95%・講義態度 5%を基準に総合判定する。		
教科書	鳥巢岳彦 国分正一 他著・「標準整形外科学 第13版」医学書院、2018年。		
参考書・資料等	『講義録 運動器学』メジカルビュー社『図解 関節・運動器の機能解剖』『整形外科学療法理論と技術』『カバンディ 関節の生理学』『図説 筋の機能解剖』『基礎運動学』『運動器疾患とリハビリテーション』※その他、評価法や物理療法などの文献を広く熟読しておくこと。		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ●評価・臨床実習はじめ整形外科疾患を有する対象者を担当する機会が多い。整形外科を理解するには、解剖学・運動学の知識がないときわめて困難である。よって、講義前に学生は必ず教科書、参考図書に目を通して下さい。 ●講義中の居眠りは厳禁。 		

授業科目	神経内科学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	高杉 潤	オフィスアワー	
一般目標	脳・神経系の構造・機能を知り、理学療法の対象となる神経系疾患を中心に、臨床徴候とそのメカニズムを理解する。脳損傷由来の神経学的所見、神経心理学的所見、動作・行為の異常所見を理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造と機能を理解し、脳の各部位の名称と機能を理解できる。 ・脳の疾患とその障害、各種検査方法、治療法を理解できる。 ・脳の損傷によって生じる機能障害を病巣と関連づけて説明することができる。 ・脳画像(CT・MRI)が読影でき、病巣や疾患を判別し、症状や機能障害を予測することができる。 ・認知症や脱髄変性疾患の病態と症状、障害を理解できる。 		
キーワード	脳, 神経系障害, 神経内科, 脳外科		
スケジュール			
1回目/2回目	脳の構造(1)(2)		
3回目/4回目	脳の機能(1)(2)		
5回目/6回目	脳機能障害 神経学的検査(1)(2)		
7回目/8回目	脳機能障害 神経心理学的検査(1)(2)		
9回目/10回目	脳画像読影の基礎(1)(2)		
11回目/12回目	脳画像読影の応用(1)(2)		
13回目/14回目	脳血管障害の基礎と臨床(1)(2)		
15回目/16回目	認知症の基礎と臨床		
17回目/18回目	脱髄・変性疾患、総括		
評価方法	筆記試験(100点)と授業態度(出席状況等により減点)との合算によって決定する。		
教科書	脳神経疾患ビジュアルブック(学研メディカル秀潤社)		
参考書・資料等	<p><資料> 授業に必要な資料は随時配布する。</p> <p><参考書> 随時、紹介する。</p>		
履修上の注意	神経系に関する解剖学、生理学の知識が備わっていること。		

授業科目	脳外科学		履修年次	2年次
			単位数	1単位
授業形態	講義		必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	高杉 潤		オフィスアワー	
一般目標	脳・神経系の構造・機能を知り、理学療法の対象となる神経系疾患を中心に、臨床徴候とそのメカニズムを理解する。脳神経外科の対象となる疾患の病態、症候の特徴、各種検査を理解する。			
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の各病態と症候、外科的治療が理解できる。 ・脳神経系の各疾患に対する外科治療の概要を理解できる。 			
キーワード	脳、神経系障害、脳外科			
スケジュール				
1回目	9月11日	(2限)	脳画像読影の基礎1	
2回目	9月18日	(2限)	脳画像読影の基礎2	
3回目	9月25日	(2限)	脳画像読影の応用	
4回目	10月2日	(2限)	脳梗塞の外科的治療(1)	
5回目	10月9日	(2限)	脳梗塞の外科的治療(2)	
6回目	10月16日	(2限)	くも膜下出血の外科的治療	
7回目	10月23日	(2限)	脳出血の外科的治療	
8回目	10月30日	(2限)	脳出血の外科的治療	
9回目	11月6日	(2限)	頭部外傷の外科的治療(1)	
10回目	11月13日	(2限)	頭部外傷の外科的治療(2)	
11回目	11月20日	(2限)	水頭症	
12回目	11月27日	(2限)	脳腫瘍の臨床と治療(2)	
13回目	12月4日	(2限)	機能的脳外科(1)	
14回目	12月11日	(2限)	機能的脳外科(2)	
15回目	12月18日	(2限)	総括	
評価方法	筆記試験(100点)と授業態度(出席状況等)との合算によって決定する。			
教科書	脳神経疾患ビジュアルブック(学研メディカル秀潤社)			
参考書・資料等	<p><資料> 授業に必要な資料は随時配布する。</p> <p><参考書> 随時、紹介する。</p>			
履修上の注意	神経系に関する解剖学、生理学の知識が備わっていること。			

学校整理番号(110)

授業科目	臨床検査・画像学	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	出浦 聡	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	画像データや検査値などを病態理解に利用し、リハビリテーション治療方針の検討に応用できるようにする。		
行動目標	各検査の特徴を理解する 各画像から病態が推測できる 推測した病態からリハビリテーション治療方針を検討できる		
キーワード	英語 セラピスト 専門用語		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	血液検査		
3回目	運動器画像		
4回目	運動器画像		
5回目	脳画像		
6回目	脳画像		
7回目	動作画像		
8回目	動作画像		
9回目	症例検討		
10回目	症例検討		
11回目	症例検討		
12回目	症例検討		
13回目	症例検討		
14回目	症例検討		
15回目	まとめ		
評価方法	成果物と授業への参加態度などを総合的に評価する		
教科書	リハに役立つ検査値の読み方・とらえ方, 田屋雅信, 羊土社 PT・OT基礎から学ぶ画像の読み方第3版国試画像問題攻略, 中島雅美, 医歯薬出版		
参考書・資料等	症例動画でわかる理学療法臨床推論統合と解釈実践テキスト, 豊田輝, 羊土社		
履修上の注意	昨今、リハビリテーション分野でも各種の検査画像を見る場面が増加しています。また国家試験でも検査画像を用いた問題が多数出題されるようになってきました。検査値や画像に対する理解を深め、将来の臨床に活かす素地を養ってください。		

学校整理番号(110)

授業科目	精神医学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	吉野葉月	オフィスアワー	月・水・金9:00～17:20
一般目標	作業療法士としての基礎知識を習得し、正しい作業療法を行えるようになるために、主な精神疾患の症状・診断・治療について理解する。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科のリハビリテーションにおける臨床精神医学の役割を説明できる。 2. 日本における精神医療の現状を説明できる。 3. 精神疾患の病態について説明できる。 4. 精神疾患の治療について説明できる。 		
キーワード	診断、病態、治療		
スケジュール			
1回目	精神医学とは 精神障害の成因と分類		
2回目	精神機能の障害と精神症状		
3回目	精神障害の診断と評価		
4回目	統合失調症およびその関連障害		
5回目	気分(感情)障害		
6回目	神経症性障害・生理的障害および身体的要因に関連した障害		
7回目	成人のパーソナリティ・行動・性の障害		
8回目	精神作用物質による精神及び行動の障害		
9回目	器質性精神障害 症状製精神障害		
10回目	精神発達遅滞 心理的発達の障害		
11回目	生理的障害および身体的要因に関連した障害		
12回目	てんかん		
13回目	リエゾン精神医学 心身医学		
14回目	ライフサイクルにおける精神医学		
15回目	精神障害の治療とリハビリテーション		
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	上野武治編:標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 精神医学第4版 医学書院 2015		
参考書・資料等	授業資料は都度、配布します。		
履修上の注意	理学・作業療法士は、精神科の患者さんに接する分野でも活躍しています。臨床症状的視点、社会適応的視点からみた各精神障害を理解できるよう学んでください。		

学校整理番号(110)

授業科目	運動学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	理学療法の基礎となる、体の運動はどのようにして活動しているのかを理解する。 他の知識へ関連付けられる。		
行動目標	動きの仕組みを述べる(認知領域) 動きのもととなる運動法則を説明する(認知領域) 運動法則同士を関連付ける(認知領域)		
キーワード	運動学、運動、モーメント、物理法則、運動法則、身体とてこ		
スケジュール			
1回目	運動学とは		
2回目	運動学を学ぶための基礎知識		
3回目	運動学を学ぶための基礎知識		
4回目	運動学を学ぶための基礎知識		
5回目	生体力学の基礎①<身体運動と力学、時間と空間>		
6回目	生体力学の基礎①<身体運動と力学、時間と空間>		
7回目	生体力学の基礎②<運動学的分析>		
8回目	生体力学の基礎③<円運動、モーメント>		
9回目	生体力学の基礎③<円運動、モーメント>		
10回目	生体力学の基礎④<筋力と重力>		
11回目	生体力学の基礎⑤<運動法則>		
12回目	生体力学の基礎⑤<運動法則>		
13回目	生体力学の基礎⑥<仕事とエネルギー、骨と関節の運動>		
14回目	生体力学の基礎⑦<身体とてこ>		
15回目	生体力学の基礎⑦<身体とてこ>		
評価方法	途中で小テストを実施5回(50点分) 筆記試験(50点) ※ただし、授業態度により2回目以降の注意からは毎回5点減点		
教科書	基礎運動学 第6版 補訂、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート、中村雅美、医歯薬出版株式会社 PT・OTのための運動学テキスト、小柳磨毅 他編、金原出版株式会社 消して忘れない 運動学 要点生理ノート、福井勉 他編、羊土社		
履修上の注意	基本を板書とします。教科書の他には必ずノートを持ってきてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	運動学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	出浦 聡	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	理学療法の基礎となる、体の運動はどのようにして活動しているのかを理解する。 他の知識へ関連付けられる。		
行動目標	動きの仕組みを述べる(認知領域) 動きのもととなる運動法則を説明する(認知領域) 運動法則同士を関連付ける(認知領域)		
キーワード	運動学、運動、モーメント、物理法則、運動法則、身体とてこ		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	上肢帯		
3回目	肩関節		
4回目	肘関節		
5回目	手関節		
6回目	骨盤帯		
7回目	股関節		
8回目	膝関節		
9回目	足関節		
10回目	顔面		
11回目	体幹		
12回目	体幹		
13回目	体幹		
14回目	体幹		
15回目	体幹		
評価方法	筆記試験(100点) ※ただし、授業態度により2回目以降の注意からは毎回5点減点		
教科書	基礎運動学 第6版 補訂、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート、中村雅美、医歯薬出版株式会社 PT・OTのための運動学テキスト、小柳磨毅 他編、金原出版株式会社 消って忘れない 運動学 要点生理ノート、福井勉 他編、羊土社 カラー版カパンジー機能解剖学 原著第6版 I上肢 II下肢 III脊椎・体幹・頭部, A.I.Kapandji, 医歯薬出版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版, Donald A.Neumann, 医歯薬出版		
履修上の注意	(出浦パート) 筋・骨格系の解剖学の復習をしておくとう理解が深まります。質問がある時は、その場で聞いてください。 (佐藤パート) 基本を板書とします。教科書の他には必ずノートを持ってきてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	運動学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川 孝彦	オフィスアワー	9:00-17:00
一般目標	運動学習について理解する		
行動目標	運動の企画を理解する 運動制御を理解する 運動を覚える方法について理解する		
キーワード	運動企画、運動制御、運動学習		
スケジュール			
1回目	運動学習とは		
2回目	運動学習のメカニズム		
3回目	運動学習と脳		
4回目	運動学習と脳②		
5回目	運動学の基礎知識		
6回目	四肢・体幹の運動学		
7回目	小脳と運動学習		
8回目	寝返り・起き上がり動作		
9回目	歩行の基礎知識		
10回目	歩行の基礎知識②		
11回目	運動学習のまとめ		
12回目	バランス制御と運動学習		
13回目	動作のみかた		
14回目	まとめ		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	主にスライドを用いて授業展開します。		
参考書・資料等	授業で使用する資料は随時配布します。 必要な教科書や資料は随時お知らせします。		
履修上の注意	出来る限り主体的に、積極的に参加するようにしてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	予防医学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦(第1種衛生管理者)	オフィスアワー	8:30~16:30
一般目標	高齢化社会が進展する中で健康寿命を延伸するには、病気を治療することに加えて、病気にかからないための方略すなわち予防が必要です。作業療法学・理学療法学においても、障害の治療や受容を促すものから、さらに疾病や老年症候群の予防へと発展していかなければなりません。社会的ニーズに応じていくために、作業療法・理学療法を予防という観点から学習します。		
行動目標	予防リハビリテーション医学に関連する知識をより深く理解する。 疫学の体系を理解する。 保健統計の種類と目的を理解する。 授業を通して予防の重要性を学ぶ。また、子どもから高齢者に至るまでのライフスタイルにおいて、心身機能の維持および向上に繋がる必要性を学ぶ。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	予防医学概説		
2回目	予防医学(1)	老化の特徴、小児の特徴、高齢者の虚弱、認知症予防 労働災害(腰痛)再発予防 メンタルヘルス 行動科学 介護予防 他	一部、各グループに分かれて演習
3回目	予防医学(2)		
4回目	予防医学(3)		
5回目	予防医学(4)		
6回目	予防医学(5)		
7回目	予防医学(6)		
8回目	予防医学(7)		
9回目	予防医学(8)		
10回目	予防医学(9)		
11回目	予防医学(10)		
12回目	予防医学(11)	各グループの発表と質疑応答	
13回目	予防医学(12)	各グループの発表と質疑応答	
14回目	作業療法・理学療法への課題		
15回目	Summary		
評価方法	成績考査試験を参考に、学習意欲、学習態度および授業内容の把握・演習の取組などを総合して評価する。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	随時紹介する。		
履修上の注意	医療制度や介護保険の知識は作業療法・理学療法に携わるうえで密に直結するため、しっかりと理解が必要である。日頃から医療や福祉に関する興味を持つことで時事問題を知ることも必要であるので時事問題には興味をもって履修すること。		

学校整理番号(110)

授業科目	小児科学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	三沢 峰茂	オフィスアワー	
一般目標	小児期に生じる疾患及び障害の特徴をまとめ理解を深める。		
行動目標	小児疾患の徴候や評価内容を説明できる。 実技演習を通して運動学的に運動発達を見直し説明できる。 神経学的評価を説明し実施できる。 摂食嚥下機能を理解し、摂食嚥下障害リハビリテーションを理解する。 障害児に対する療育(リハビリテーション)の理解を深める 障害児を持つご両親ご家族支援について理解を深める		
キーワード			
スケジュール			
1回目	小児科学概論		
2回目	評価学		
3回目	身体の発育と運動器官の成長		
4回目	胎児期の発生と成長		
5回目	発達段階		
6回目	原始反射		
7回目	病的反射		
8回目	姿勢反射		
9回目	背臥位の運動発達		
10回目	腹臥位の運動発達		
11回目	目と手の発達、社会性・コミュニケーションの発達		
12回目	重症心身障害児、小児疾患		
13回目	摂食・嚥下機能とその障害		
14回目	摂食嚥下リハビリテーション		
15回目	障害児の療育と家族支援		
評価方法	筆記試験		
教科書	特になし		
参考書・資料等	授業の中で適時紹介する		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 実技演習を行うため、動きやすい服装で参加していただきたい。		

授業科目	救急救命学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	石塚 光宣	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	救急医療や災害医療、病院前医療の体制についての知識を習得する。 救急救命処置に必要な観察や緊急度・重症度判断、資機材による観察についての知識を修得する。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緊急・災害・病院前医療体制について理解し、説明ができる。 2. 一般的な症状や重篤な症状の観察方法・緊急度・重症度判定について理解し、説明ができる。 3. 資機材による観察方法を理解し、説明ができる。 4. 救急救命処置の基本を理解し、説明ができる。 5. 救急蘇生法の基本を理解し、説明ができる。 		
スケジュール			
1回目	緊急医療体制		
2回目	災害医療体制		
3回目	病院前医療体制		
4回目	観察		
5回目	現場活動の基本		
6回目	全身状態の観察		
7回目	局所の観察		
8回目	緊急度・重症度判断		
9回目	資機材による観察(1)		
10回目	資機材による観察(2)		
11回目	救急救命処置法(1)		
12回目	救急救命処置法(2)		
13回目	救急蘇生法(1)		
14回目	救急蘇生法(2)		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	教材を適宜配布する。		
参考書・資料等	救急救命士標準テキスト・上巻下巻(へるす出版) 日本救急医学会ICLSコースガイドブック(羊土社)		
履修上の注意	特になし。		

学校整理番号(110)

授業科目	リハビリテーション概論 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	出浦 聡	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	リハビリテーションが生まれた背景や語源の意味, 種々の法律等を理解できる。		
行動目標	リハビリテーションという言葉が生まれた背景を理解する ノーマライゼーションが目指す社会を理解する 理学療法士として働く関係する法律を理解する 理学療法士が働く領域を理解する 他		
キーワード	リハビリテーション, ノーマライゼーション, 理学療法士及び作業療法士法		
1回目	オリエンテーション 理学療法概念と歴史 ノーマライゼーションやIL運動など 理学療法における関係法律 理学療法士及び作業療法士法概論 医療事故とリスクマネジメント 理学療法士を目指す学生に求められるもの まとめ		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	原則、筆記試験で評価する		
教科書	理学療法学概論 第4版, 編集 田原弘幸・高橋精一郎, 九州神陵文庫		
参考書・資料等			
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	リハビリテーション概論Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	出浦 聡	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	リハビリテーション分野を深く理解する		
行動目標	リハビリテーションの理念について自分の言葉で説明できる 生活者としての対象者への援助を多角的に考察できる		
キーワード	リハビリテーション, ノーマライゼーション, 理学療法士及び作業療法士法		
1回目	オリエンテーション 障害者スポーツについて 世界の理学療法について 理学療法士を目指す学生に求められるもの など		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	提出物などの内容と授業への参加態度などを総合的に評価する		
教科書	なし		
参考書・資料等			
履修上の注意	医療にかかわる者、リハビリテーションにかかわる者としての意識や態度を養う時間になしてください		

学校整理番号(110)

授業科目	社会福祉学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦(社会福祉士)	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	医療・福祉関係を主としたフィールドで活躍する理学療法士としてこれら諸制度の知識は必要である。そのため、本講義では社会福祉の概要を歴史から現在の各制度の特徴や問題点について理解することを目標とする。		
行動目標	I. 福祉活動の歴史的背景を理解する。 II. 理学療法周辺の社会福祉について理解する。 III. 社会福祉の役割について理解する。 IV. 関係機関との連携について理解する。		
キーワード	福祉 関連法 障がいと理学療法		
スケジュール			
1回目	ガイダンス 人間と福祉 福祉とは？		
2回目			
3回目	福祉活動の歴史(日本)		
4回目			
5回目	福祉活動の歴史(西洋)		
6回目			
7回目			
8回目	福祉領域と関連法		
9回目			
10回目	福祉対象の分野		
11回目			
12回目	F.バースティク 7つの原則		
13回目	社会福祉援助活動における専門性と倫理		
14回目	社会福祉の領域と施策		
15回目	まとめ		
評価方法	成績考査試験を参考に、学習意欲、学習態度および授業内容の把握・演習の取組などを総合して評価する。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	随時紹介する。		
履修上の注意	医療制度や介護保険の知識は理学療法に携わるうえで密に直結するため、しっかりと理解が必要である。日頃から医療や福祉に関する興味を持つことで時事問題を知ることも必要であるので時事問題には興味をもって履修すること。		

学校整理番号(110)

授業科目	障害者支援論	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法の一環として行われる職業関連活動の目的、職業関連活動に関する評価、指導計画、指導の実際に必要な基本的な知識・技術とともに、職業関連活動に関わる法律や制度・サービス等の社会資源についても学び、障害者支援における理学療法士の役割について理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職業リハビリテーションろ理学療法について説明できる。 ・就労に必要な基本的能力をあげられる。 ・精神障害者が就労することにおける課題をあげられる。 ・職業関連動作に関する評価について説明・実施ができる。 ・障害者の就労における課題について明確にできる。 ・就労支援における理学療法士の役割を明確にできる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	職業リハビリテーションと作業療法	理学療法と働く支援を考える	
2回目		障害者の働き方と理学療法士の関わり方	
3回目		ICFから作業療法を考える	
4回目	環境に向けた支援	障害者の働く環境について考える	
5回目		企業就労(特例子会社など)	
6回目		就労支援A/B型・就労移行事業所及び社会資源	
7回目	職業関連活動に関する評価	職業関連活動に関する評価法	
8回目		一般職業適性検査	
9回目	法律と制度	障害者雇用促進法、障害者総合福祉法	
10回目	精神障害領域	精神領域の職業関連活動における理学療法士の役割	
11回目		事例検討	
12回目	個人に向けた支援	自己決定の支援、職業準備性の育成	
13回目		指令検討	
14回目		発表	
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	なし		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	基礎理学療法学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	理学療法士にとって重要なものが何かの理解を深め、正しい倫理観を持ち、的確に行動するための指針を養う。		
行動目標	理学療法士とは何かを記述する(認知領域) 理学療法の流れを説明する(認知領域) 理学療法士にとって重要なものを一般化する(認知領域) 倫理観を討議する(情意領域)		
キーワード	理学療法、法律、地域リハ、理学療法評価、トップダウンとボトムアップ、クリニカルリーズニング		
スケジュール			
1回目	理学療法士の法律		
2回目	理学療法の意義と役割		
3回目	理学療法の目標		
4回目	身体障害者福祉法における理学療法の対象者、臨床における理学療法の対象		
5回目	理学療法の方法		
6回目	理学療法士教育		
7回目	地域リハビリテーションと理学療法		
8回目	医療事故とリスクマネジメント		
9回目	個人情報管理と対象者の権利		
10回目	臨床教育の実践		
11回目	理学療法評価		
12回目	トップダウンとボトムアップ		
13回目	クリニカルリーズニング		
14回目	クリニカルリーズニング		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100点) ※ただし、授業態度により2回目以降の注意からは毎回5点減点		
教科書	理学療法学概論 第4版、千住英明 監修 田原弘幸 他編、神陵文庫		
参考書・資料等	理学療法学概論 第7版、奈良勲 他編、医歯薬出版株式会社		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	理学療法研究法 I	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	論文を検索できる 論文を熟読できる。		
行動目標	必要な文献を検索して見つけだすことができる。 論文が読めるようになる。		
キーワード	論文, 文献検索, プレゼンテーション		
スケジュール			
1回目	研究法総論		
2回目	論文の紹介とその解説		
3回目	論文の紹介とその解説		
4回目	抄読会用レジュメの作成方法		
5回目	抄読会用レジュメの作成方法		
6回目	抄読会用プレゼンテーションの作成方法		
7回目	抄読会用プレゼンテーションの作成方法		
8回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成		
9回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成		
10回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成		
11回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成		
12回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成		
13回目	研究法Ⅱにおける実験の組み立て方		
14回目	抄読会(発表)		
15回目	抄読会(発表)		
評価方法	プレゼンテーションおよびレジュメを評価。また、授業態度及び出席率を勘案して評価する。		
教科書	各自が作成した資料を配布		
参考書・資料等	はじめての研究法コ・メディカルの研究法入門 第2版 神陵文庫		
履修上の注意	各項目を理解し、解りやすく表現すること。 文章の意味を的確に伝えられることと説明の仕方を工夫すること。		

学校整理番号(110)

授業科目	理学療法研究法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義、演習、PBL	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	1. 実験手技の構築を学ぶ 2. 実際の論文作成を理解する。		
行動目標	研究テーマの立案が出来る。 実験方法の構築が出来る。 結果や文献から統合と解釈することができる。		
キーワード	神経系, 循環器系, 消化器系		
スケジュール			
1回目	文献検索及び作成準備1		
2回目	文献検索及び作成準備2		
3回目	文献検索及び作成準備3		
4回目	文献検索及び作成準備4		
5回目	文献検索及び作成準備5		
6回目	文献検索及び作成準備6		
7回目	結果の分析1		
8回目	結果の分析2		
9回目	結果の分析3		
10回目	結果の分析4		
11回目	論文の作成1		
12回目	論文の作成2		
13回目	論文の発表1		
14回目	論文の発表2		
15回目	論文の発表3		
評価方法	研究論文、授業態度及び出席率を総合的に評価する。		
教科書	なし		
参考書・資料等	コ・メディカルの研究法入門 はじめての研究法 第2版 神陵文庫		
履修上の注意	文献検索から医療現場での疑問に対する根拠付けを意識すること。 論文の書き方から、①デイリーのまとめ方や②レポートの作成を視野に入れて学習すること。 英文検索など日本語以外の検索も考え学習すること。		

学校整理番号(110)

授業科目	統合理学療法学	履修年次	3年次
		単位数	3単位
授業形態	講義	必要時間数	90時間(45コマ)
一般目標	卒業に向け、総合的な学習を行う。		
行動目標	模擬試験を通して、総合的知識の中で、不足している部分を見つけ復習につなげる。		
キーワード	総合学習、復習		
スケジュール			
1回目～3回目	模擬試験		
4回目～6回目	模擬試験		
7回目～9回目	解説		
10回目～12回目	解説		
13回目～15回目	模擬試験		
16回目～18回目	模擬試験		
19回目～21回目	解説		
22回目～24回目	解説		
25回目～27回目	模擬試験		
28回目～30回目	模擬試験		
31回目～33回目	解説		
34回目～36回目	解説		
37回目～39回目	模擬試験		
40回目～42回目	解説		
43回目～45回目	解説		
評価方法	復習を見つめる中での取り組み方		
教科書	特になし		
参考書・資料等			
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	理学療法業務運営管理Ⅰ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	出浦 聡	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法士とし勤務し、より良い理学療法を提供するには、所属する部門の管理・運営について学ぶこと以外に、さまざまな知識が必要になります。管理・運営の基本としてリスクマネジメントや感染予防、また患者様やスタッフ間のコミュニケーションスキルなどについて幅広く学びます。		
行動目標	理学療法士の仕事について理解すること。国家資格取得後に携わる理学療法部門の管理運営に必要な基礎的理論と知識を学び、リーダーとしての理学療法士になっていくために何が必要なかを考察できることが目標です。積極的に授業を受けることで、理学療法士養成校の学生として知識を身に付け職業倫理を高める態度を養い成長することができることも目標です。		
キーワード	管理運営 社会保障と保険制度		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	総論		
3回目	病院の分類と組織		
4回目	専門職とチームケア		
5回目	社会保障のしくみ		
6回目	医療保険制度		
7回目	介護保険制度		
8回目	診療・介護報酬と収益構造		
9回目	保健・医療・介護・福祉の連携		
10回目	業務管理		
11回目	情報管理		
12回目	リスク管理		
13回目	感染症管理		
14回目	権利擁護と職業倫理		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験の結果と授業への参加態度などを総合的に評価する		
教科書	なし		
参考書・資料等	理学療法テキスト 理学療法管理学, 総編集 石川 朗, 中山書店 作成した資料配布		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問があれば調べること。 ・理学療法士の職務について患者様の評価・治療に関する知識のみでなく、幅広く就職後に必要とされる内容について学習します。積極的に授業に参加して下さい。 		

授業科目	理学療法業務運営管理Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	他職種との連携が求められるリハビリテーション部門の管理・運営についての必要な知識や具体的な実際について理解を深める。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織体制と運営について説明できる。 2. 業務・人事労務管理について説明できる。 3. リスクマネジメントについて説明できる。 4. 経営管理について説明できる。 		
スケジュール			
1回目	リハビリテーション科における管理とは		
2回目	組織化について		
3回目	組織化について		
4回目	業務管理について		
5回目	業務管理について		
6回目	人事労務管理について		
7回目	人事労務管理について		
8回目	教育システムについて		
9回目	教育システムについて		
10回目	管理者のあるべき姿について		
11回目	管理者のあるべき姿について		
12回目	リスクマネジメントについて		
13回目	リスクマネジメントについて		
14回目	経営管理について		
15回目	経営管理について		
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	教材を適宜配布する。		
参考書・資料等	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック(メジカルビュー)		
履修上の注意	特になし。		

学校整理番号(110)

授業科目	理学療法評価法 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	理学療法評価について、理学療法及びリハビリテーション医療を展開するうえでの評価の意義の理解を深め、安全で疾患に合わせた適切な検査・測定を習得する。		
行動目標	障害モデルと理学療法評価の関連について説明できる。 臨床的思考決定過程のなかで理学療法評価の目的や意義を説明できる。 各検査において適切なオリエンテーションができる。 各検査において検査・測定器具を正しく取り扱うことができ、測定肢位を適切に選択することができる。 各検査において検査・測定結果を適切に解釈することができる(適切に検査・測定を行うことができる)。 各検査において検査・測定方法、検査・測定結果を説明できる。		
キーワード	評価, 検査, 測定		
スケジュール			
1回目/2回目	理学療法評価総論 / 理学療法評価総論		
3回目/4回目	理学療法評価総論 / 血圧		
5回目/6回目	血圧 / 協調性検査		
7回目/8回目	協調性検査 / バランス検査		
9回目/10回目	バランス検査 / 反射検査		
11回目/12回目	反射検査 / 反射検査		
13回目/14回目	反射検査 / 反射検査		
15回目/16回目	痛みの評価 / 痛みの評価		
17回目/18回目	知覚検査 / 知覚検査		
19回目/20回目	知覚検査 / 知覚検査		
21回目/22回目	知覚検査 / 知覚検査		
23回目/24回目	筋緊張検査 / 筋緊張検査		
25回目/26回目	形態測定 / 形態測定		
27回目/28回目	形態測定 / 形態測定		
29回目/30回目	整形外科的検査 / 整形外科的検査		
評価方法	筆記試験(100点) 筆記試験は授業の最終回終了後の期末試験期間中に行う。		
教科書	ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版, 著者 田崎義昭・斎藤佳雄, 南山堂		
参考書・資料等	理学療法評価学 改訂第6版, 著者 松澤正, 金原出版		
履修上の注意	実技の講義の際は、KCを着用し、実習に臨む容姿で受講すること。 (最初2コマ分の講義は通常の服装でよい。1回目に4回目以降の服装などを詳細に指示を行う。)		

学校整理番号(110)

授業科目	理学療法評価法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月-金(土日)9:00-17:00
一般目標	理学療法評価について、理学療法及びリハビリテーション医療を展開するうえでの評価の意義の理解を深め、安全で疾患に合わせた適切な検査・測定を習得する。		
行動目標	障害モデルと理学療法評価の関連について説明できる。 臨床的思考決定過程のなかで理学療法評価の目的や意義を説明できる。 各検査において適切なオリエンテーションができる。 各検査において検査・測定器具を正しく取り扱うことができ、測定肢位を適切に選択することができる。 各検査において検査・測定結果を適切に解釈することができる(適切に検査・測定を行うことができる)。 各検査において検査・測定方法、検査・測定結果を説明できる。		
キーワード	運動学的視点、神経システム、動作分析、理学療法評価		
	スケジュール		
1.2回目	復習(理学療法評価学Ⅰの範囲) / 筋力検査(MMT以外)		
3.4回目	筋トーマス検査		
5.6回目	日常生活活動(動作)検査		
7.8回目	整形外科超音波検査		
9.10回目	運動発達検査		
11.12回目	姿勢反射検査		
13.14回目	片麻痺機能検査		
15.16回目	脳神経検査		
17.18回目	高次脳機能検査		
19.20回目	電気生理学的検査		
21.22回目	呼吸機能検査		
23.24回目	循環機能検査		
25.26回目	臨床応用①		
27.28回目	臨床応用②		
29.30回目	臨床応用③		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	理学療法評価学 改訂第6版, 著者 松澤正, 金原出版 ベッドサイドの神経の診かた 改訂17版, 著者 田崎義昭・斎藤佳雄, 南山堂		
参考書・資料等			
履修上の注意	1年生の時の理学療法評価学Ⅰの復習も入ります。各自で改めて見直しをしておいてください。 実技の講義の際は、KCを着用し、実習に臨む容姿で受講すること。 (最初2コマ分の講義は通常の服装でよい。1回目に4回目以降の服装などを詳細に指示を行う。)		

学校整理番号(110)

授業科目	臨床運動学 I	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	体がどのようにして活動しているのかの理解を深め、出力しながら知識を習得する。		
行動目標	運動法則を述べる(認知領域) 体の使い方を記述する(認知領域) 機器を用いて運動を分析し表現する(情意領域) 分析するための機器を操作する(精神運動領域)		
キーワード	動作分析、歩行分析、運動学		
スケジュール			
1回目	静止姿勢分析の基本		
2回目	静止姿勢分析 I - I (観察)		
3回目	静止姿勢分析 I - II (討議)		
4回目	静止姿勢分析 I - III (表現①)		
5回目	静止姿勢分析 II - I (観察)		
6回目	静止姿勢分析 II - II (討議)		
7回目	静止姿勢分析 II - III (表現①)		
8回目	起居動作分析の基本		
9回目	起居動作分析 I (観察①)		
10回目	起居動作分析 I (観察②)		
11回目	起居動作分析 II (討議①)		
12回目	起居動作分析 II (討議②)		
13回目	起居動作分析 III (表現①)		
14回目	起居動作分析 III (表現②)		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	基礎運動学 第6版 補訂、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	姿勢・動作・歩行分析、臨床歩行分析研究会、羊土社		
履修上の注意	動作をし、それを見て動きの把握を行っていきます。指示があった授業コマ(随時指示を出す)では、動きやすい服装を心掛けてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	臨床運動学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	体がどのようにして活動しているのかの理解を深め、出力しながら知識を習得する。		
行動目標	運動法則を述べる(認知領域) 体の使い方を記述する(認知領域) 機器を用いて運動を分析し表現する(情意領域) 分析するための機器を操作する(精神運動領域)		
キーワード	動作分析、歩行分析、運動学		
スケジュール			
1回目	歩行分析①		
2回目	歩行分析②		
3回目	歩行分析③		
4回目	歩行分析④		
5回目	歩行分析研究		
6回目	歩行分析研究		
7回目	歩行分析研究		
8回目	歩行分析研究		
9回目	歩行分析研究		
10回目	歩行分析研究		
11回目	歩行分析研究		
12回目	歩行分析研究		
13回目	歩行分析研究		
14回目	歩行分析研究		
15回目	まとめ		
評価方法	レポート提出(100点)		
教科書	基礎運動学 第6版 補訂、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	姿勢・動作・歩行分析、臨床歩行分析研究会、羊土社		
履修上の注意	動作をし、それを見て動きの把握を行っていきます。指示があった授業コマ(随時指示を出す)では、動きやすい服装を心掛けてください。		

授業科目	日常生活活動論 I	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	出浦 聡	オフィスアワー	原則 月～金 8:30～17:20
一般目標	日常生活活動の概念をもとにICFやQOLを理解し,評価や介助方法までを行えるようにする。また,対象者にとって質の高い生活とはどのようなものなのかをイメージできるようになる。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活活動の概念が説明できる ・日常生活活動の範囲(セルフケア,生活関連動作,生活の質)が説明できる ・セルフケアを構成する主な動作を理解し説明できる ・日常生活に必要な身体動作を理解し説明できる ・日常生活動作の評価方法を理解し,評価が行える ・日常生活動作と障害や生活の質との関係を理解することができる ・移動補助具や支援機器について基本的な使用方法を理解し説明できる 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	日常生活活動の概念		
2回目	同上		
3回目	日常生活活動の評価 (概要)		
4回目	同上		
5回目	日欧生活活動の評価 (代表的な評価指標)		
6回目	同上		
7回目	基本動作		
8回目	同上		
9回目	同上		
10回目	移動動作		
11回目	同上		
12回目	同上		
13回目	安全な介助動作		
14回目	同上		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験の結果と授業への参加態度などを総合的に評価する		
教科書	日常生活活動学, 編集 臼田 滋, メジカルビュー社		
参考書・資料等	新版 日常生活活動(ADL) 第2版 評価と支援の実際, 編集 伊藤利之、江藤文夫, 医歯薬出版株式会社 PO・OTビジュアルテキストADL, 編集 柴 喜崇、下田信明, 羊土社 標準理学療法学 臨床動作分析, 編集 高橋正明, 医学書院		
履修上の注意			

授業科目	日常生活活動論Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	今泉 仁美	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	日常生活活動に必要な起居や起立、移乗、トイレ、更衣などの基本動作能力を中心に評価・介助・指導する方法を学ぶ。 理学療法分野における日常生活動作の評価および指導の実際について疾患別に修得する。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ADLの運動学的分析を実施することができる。 2. ADL評価を実施することができる。 3. 疾患別のADL指導について実施することができる。 		
スケジュール			
1回目	理学療法評価学 I 15 ADL・QOL		
2回目	OSCE L3-1(起居)		
3回目	OSCE L3-2(起立)		
4回目	OSCE L3-3(移乗)		
5回目	OSCE L3-4(トイレ)		
6回目	OSCE L3-5(更衣)		
7回目	OSCE L3-6(歩行)		
8回目	OSCEまとめ		
9回目	各論 ADL指導(片麻痺)		
10回目	各論 ADL指導(脊髄損傷)		
11回目	各論 ADL指導(人工関節)		
12回目	各論 ADL指導(リウマチ)		
13回目	各論 ADL指導(神経筋)		
14回目	各論 ADL指導(呼吸・循環)		
15回目	各論まとめ		
評価方法	実技試験(40%)と筆記試験(40%)、課題レポート(20%)で総合的に評価する。		
教科書	日常生活活動学・生活環境学(医学書院) PT・OTのためのOSCE(金原出版) 15レクチャーシリーズ 理学療法評価学 I (中山書店)		
参考書・資料等	日常生活活動(神陵文庫)		
履修上の注意	特になし。		

授業科目	理学療法演習 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	関節可動域の特徴、決定要素を理解し、安全で疾患に合わせた適切な関節可動域検査を習得する。		
行動目標	基本軸と移動軸、および参考可動域角度を説明できる。 健全人の関節可動域を測定できる。 適切な記録、および学術的資料として活用できる。 関節の機能状態を客観的に把握し、その制限因子を考察できる。 日常生活と関節可動域の関連について説明できる。		
キーワード	関節可動域, 基本軸, 移動軸, 参考可動域, 代償動作		
スケジュール			
1回目	関節運動の基本		
2回目	関節可動域測定の定義と目的		
3回目	肩甲帯(屈曲・伸展、挙上・下制)		
4回目	肩関節(屈曲・伸展、外転・内転)		
5回目	肩関節(外旋・内旋)		
6回目	肩関節(水平屈曲・水平伸展)、肘関節(屈曲・伸展)		
7回目	前腕(回内・回外)、手関節(掌屈・背屈、橈屈・尺屈)		
8回目	股関節(屈曲・伸展、外転・内転)		
9回目	股関節(外旋・内旋)、膝関節(屈曲・伸展)		
10回目	足関節(底屈・背屈)、足部(外転・内転)		
11回目	足部(内がえし・外がえし)、頸部(屈曲・伸展)		
12回目	頸部(側屈、回旋)、胸腰部(屈曲・伸展)		
13回目	胸腰部(側屈、回旋)、母指(橈側外転・尺側内転、掌側外転・掌側内転)		
14回目	手指(屈曲・伸展、外転・内転)、足趾(屈曲・伸展)		
15回目	日常動作と関節可動域		
評価方法	筆記試験(50点) 実技試験(50点) 筆記試験は授業の最終回終了後の期末試験期間中に行う。		
教科書	理学療法評価学 改訂第5版, 著者 松澤正, 金原出版		
参考書・資料等			
履修上の注意	実技の講義の際は、KCを着用し、実習に臨む容姿で受講すること。		

授業科目	理学療法演習Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	今泉 仁美	オフィスアワー	8:30～16:30
一般目標	徒手筋力検査法は運動や行動の基礎的要素としての筋の力と機能を評価する手技を示したものである。徒手筋力テストは理学療法士にとって重要な基本手技であり、修得しなければならない技術である。		
行動目標	<p>本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①検査法の理念・原則を十分に理解し説明することができる。</p> <p>②想定される患者、対象者に対しテキストに示された手技を実施できる。</p> <p>③実習に出た際に与えられた時間内に、速やかに検査を遂行することができる。</p> <p>④国家試験に沿った知識の理解を深める。</p> <p>【行動目標】 徒手筋力検査の目的・判断基準・基本的手順を理解する。代償動作・固定と抵抗など基本的な注意事項を理解する。</p>		
キーワード	原則を踏まえた手技の履行 臨床での応用 徒手筋力テスト		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション MMT総論		
2回目	肩甲骨外転と上方回旋、肩甲骨挙上、肩甲骨内転		
3回目	肩甲骨下制と内転、肩甲骨内転と下方回旋、肩甲骨下制		
4回目	肩関節屈曲(前方挙上)、肩関節伸展(後方挙上)、肩関節外転(側方挙上)		
5回目	肩関節水平外転、肩関節水平内転、肩関節外旋		
6回目	肩関節内旋、肘関節屈曲、肘関節伸展		
7回目	前腕回内4、前腕回外、手関節屈曲、手関節伸展		
8回目	股関節屈曲、股関節屈曲・外転・および膝関節屈曲位での外旋、股関節伸展		
9回目	股関節外転、股関節内転、股関節外旋、股関節内旋		
10回目	膝関節屈曲、膝関節伸展		
11回目	足関節底屈、足関節背屈ならびに内がえし、足の内がえし、足の底屈を伴う外がえし		
12回目	体幹伸展、骨盤挙上、体幹屈曲		
13回目	体幹回旋、コアテスト		
14回目	手指・脳神経支配筋のテスト		
15回目	まとめ		
評価方法	授業への参加態度(10点)、定期試験(90点)		
教科書	新・徒手筋力検査法【原著第10版】 協同医書出版社		
参考書・資料等			
履修上の注意	<p>準備学習:検査の対象となる筋の理解。特に主要な筋の起始・停止・神経支配は復習しておく。運動障害の要因の一つとして筋力を評価するうえで、テキストを十分に読み込み、臨床実習で使える技術になるように習得してください。</p> <p>授業では毎回白衣を着用。実技を行うにふさわしい状態で臨んでください。詳細はオリエンテーションでお話します。</p>		

学校整理番号(110)

授業科目	理学療法演習Ⅲ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	出浦 聡	オフィスアワー	
一般目標	基礎知識の整理を行い評価・治療アプローチの考え方、視点を広げる。		
行動目標	身体に触れる機会を増やしハンドリングスキルの向上を図る。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	理学療法士の専門性		
2回目	床上動作		
3回目	姿勢・動作観察の考え方		
4回目	姿勢・動作観察の考え方		
5回目	歩行観察のみかた・考え方		
6回目	歩行観察のみかた・考え方		
7回目	肩関節へのアプローチ		
8回目	肩関節へのアプローチ		
9回目	骨盤・脊柱へのアプローチ		
10回目	骨盤・脊柱へのアプローチ		
11回目	下肢へのアプローチ		
12回目	下肢へのアプローチ		
13回目	症例検討		
14回目	症例検討		
15回目	症例検討		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	なし		
参考書・資料等	作成プリント使用		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	理学療法技術論(難病)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	8:40-17:20
一般目標	理学療法に関係深い神経・筋疾患で見られる主要な障害の特性と、その病態や発症機構、疾患概念を理解し学習する。また、神経系の障害に対する医学的リハビリテーション上の対応・治療の概略及び評価や、検査に必要な神経科学的な基礎知識についても学習する。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.神経変性疾患(PD、SCD、MS、等)の疾患概念を述べられる。また、各病態を障害に関連付けて述べられる。 2.各変性疾患の難病としての意味を理解し、評価での神経科学的背景を述べられる。 3.慢性期患者の療養上の問題点と必要なサポートについて述べられる。 		
キーワード	難病 病態と障害 サポート		
スケジュール(予定)			
1回目	Guidance ALS(1)(2)		
2回目	ALS(3)(4)		
3回目	ALS(5)(6)		
4回目	Collagen disease ・RA(1)(2)		
5回目	Collagen disease ・RA(3)(4)		
6回目	Collagen disease ・RA(5)(6)		
7回目	Collagen disease ・PM ・DM		
8回目	MS. MG		
9回目	SCD(1)(2)		
10回目	SCD(3)(4)		
11回目	SCD(5)(6)		
12回目	PD(1)(2)		
13回目	PD(3)(4)		
14回目	GBS(1)(2)		
15回目	GBS(3)(4)		
評価方法	・定期試験 授業参加態度 を基準に総合判定する。		
教科書	・丸山仁司、編 『系統理学療法学 神経障害系理学療法学』医歯薬出版		
参考書・資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・細田多穂、他 編 『理学療法ハンドブック第3巻 疾患別・理学療法プログラム』協同医書出版社 ・資料配布 ※その他、神経内科学系の文献を広く熟読しておくこと。		
履修上の注意	・授業の理解には、解剖・生理や内科学・神経内科の知識が必須です。自主的な予・復習を滞りなく！！		

学校整理番号(110)

授業科目	理学療法技術論(脊椎)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	両角 昌実	オフィスアワー	
一般目標	脊椎疾患の病態及び理学療法に関する理解を深め、環境整備を含む具体的な理学療法プログラムの立案能力を習得する。		
行動目標	脊椎の解剖・運動学的特長を説明できる。 脊椎疾患の特性と障害について説明できる。 脊椎疾患についての基本的な評価・治療を行うことができる。 脊椎疾患患者に対して、適切なADL指導ができる。 脊椎疾患患者の住環境整備ができる。 障害の受容の段階にあわせた態度・対応ができる。		
キーワード	脊髄損傷(脊椎疾患含む)・障害構造・リハビリテーション		
スケジュール			
1回目/2回目	総論	/ 運動療法技術復習	
3回目/4回目	脊椎の運動学	/ 脊椎疾患の特性と障害①	
5回目/6回目	脊椎疾患の特性と障害②	/ 脊椎疾患の特性と障害③	
7回目/8回目	脊髄損傷総論①	/ 脊髄損傷総論②	
9回目/10回目	合併症	/ 評価	
11回目/12回目	運動療法	/ ADL指導	
13回目/14回目	環境整備	/ 基本動作(寝返り/起き上がり)	
15回目/16回目	中間テスト	/ 基本動作(プッシュアップ/座位)	
17回目/18回目	基本動作(トランスファー)	/ 基本動作(車椅子操作)	
19回目/20回目	基本動作(歩行)	/ 装具・自助具	
21回目/22回目	車椅子・改造自動車	/ 社会参加	
23回目/24回目	ケーススタディ・PBL①	/ ケーススタディ・PBL②	
25回目/26回目	ケーススタディ・PBL③	/ PBL発表	
27回目/28回目	脊椎疾患に対する運動療法	/ 総合実技①	
29回目/30回目	総合実技②	/ 総合実技③	
評価方法	筆記試験(60%)・実技試験(30%)・中間テスト(10%)		
教科書	脊髄損傷マニュアル 第2版、神奈川リハビリテーション病院、医学書院		
参考書・資料等	動画で学ぶ脊髄損傷のリハビリテーション 標準整形外科学		
履修上の注意	国家試験に出題される問題数も多い為、重要な事項は解剖・運動学を復習しながら講義の中で習得する。前期に15コマ、後期に15コマ実施する。		

授業科目	理学療法技術論(運動器)	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義ならびに実技	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	堀川廉	オフィスアワー	
一般目標	運動器疾患に対する理学療法に必要な評価方法・臨床推論プロセス・運動療法の基礎・リスク管理方法を学び、臨床における適切な対応力を習得する。		
行動目標	運動器の解剖学・生理学・運動学の基礎を理解できる。 運動器疾患に対する検査・評価方法の基礎を理解できる。 運動器疾患に対する評価、統合と解釈を的確に行うことができる。 評価に必要な正確な触診技術を実施することができる。 運動器疾患に対する運動療法の理論背景を理解し、基礎となる技術を実践することができる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目/2回目	概論 運動器疾患の理学療法を行う際に最低限必要な知識の確認		
3回目/4回目	膝関節疾患に対する理学療法 機能解剖・運動学・触診		
5回目/6回目	膝関節疾患に対する理学療法 病態解釈・評価・治療		
7回目/8回目	股関節疾患に対する理学療法 機能解剖・運動学・触診		
9回目/10回目	股関節疾患に対する理学療法 病態解釈・評価・治療		
11回目/12回目	腰部疾患に対する理学療法 機能解剖・運動学・触診		
13回目/14回目	腰部疾患に対する理学療法 病態解釈・評価・治療		
15回目/16回目	肩関節疾患に対する理学療法 機能解剖・運動学・触診		
17回目/18回目	肩関節疾患に対する理学療法 病態解釈・評価・治療		
19回目/20回目	足関節疾患に対する理学療法 機能解剖・運動学・触診		
21回目/22回目	足関節疾患に対する理学療法 病態解釈・評価・触診		
23回目/24回目	スポーツ疾患に対する理学療法 腰部・下肢		
25回目/26回目	スポーツ疾患に対する理学療法 上肢		
27回目/28回目	小児整形疾患に対する理学療法		
29回目/30回目	ケーススタディ まとめ		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	特に指定なし(講義資料は授業ごとに配布)		
参考書・資料	運動療法のための機能解剖学的触診技術・上肢 第2版 林典雄 メジカルビュー社 運動療法のための機能解剖学的触診技術・下肢・体幹 第2版 林典雄 メジカルビュー社 整形外科運動療法ナビゲーション・上肢・体幹 第2版 整形外科リハビリテーション学会 メジカルビュー社 整形外科運動療法ナビゲーション・下肢 第2版 整形外科リハビリテーション学会 メジカルビュー社		
履修上の注意	解剖学・生理学・運動学・整形外科の知識に関してはある程度復習をしておいてください。 触診を行う際は筋・靭帯の走行が3次元で理解していないと触れることができないので、その部分を特に復習しておいてください。		

授業科目	理学療法技術論(脳血管障害)		履修年次	2年次
			単位数	2単位
授業形態	講義		必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	高杉潤		オフィスアワー	金(9:00~17:00)
一般目標	脳の構造・機能を知り、脳血管障害に由来する臨床徴候とそのメカニズムを理解する。 脳血管障害片麻痺患者に対する理学療法の治療の実際と科学的根拠について理解する。 講義に加え、基本的な治療技術の習得とその科学的根拠について理解する。			
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳の構造・機能を理解し、脳血管障害の病態・障害像を把握できる。 ・脳血管障害に対する適切な評価および治療手段を選択・実施できる。 ・運動療法が及ぼす中枢神経系(脳機能)への影響を理解し、説明できる。 			
キーワード	脳血管障害・錐体路障害、高次脳機能障害・運動療法			
スケジュール				
1・2回目	9月11日	(3・4限)	脳卒中の理学療法評価の実践1	
3・4回目	9月18日	(3・4限)	脳卒中の理学療法評価の実践2	
5・6回目	9月25日	(3・4限)	脳卒中の理学療法の過程	
7・8回目	10月2日	(3・4限)	片麻痺の動作分析	
9・10回目	10月9日	(3・4限)	片麻痺のアプローチ1	
11・12回目	#####	(3・4限)	片麻痺のアプローチ2	
13・14回目	#####	(3・4限)	片麻痺のアプローチ3	
15・16回目	#####	(3・4限)	片麻痺のアプローチ4	
17・18回目	11月6日	(3・4限)	片麻痺のアプローチ5	
19・20回目	#####	(3・4限)	総合学習	
21・22回目	#####	(3・4限)	高次脳機能障害の病態	
23・24回目	#####	(3・4限)	高次脳機能障害へのアプローチ	
25・26回目	12月4日	(3・4限)	ニューロリハビリテーション	
27・28回目	#####	(3・4限)	運動失調の病態とアプローチ	
29・30回目	#####	(3・4限)	総合学習	
評価方法	定期試験(70%)、実技試験(20%)、授業態度(10%)で総合的に評価する。			
教科書	標準理学療法学 神経理学療法学 第2版(医学書院)			
参考書・資料等	脳神経疾患ビジュアルブック(学研メディカル秀潤社) 15レクチャーシリーズ理学療法学テキスト神経障害理学療法学 I (中山書店) ベッドサイドの神経の診かた(南山堂)			
履修上の注意	神経内科、評価Ⅱなどの学習内容が基礎となるため、十分に復習を行うこと。			

学校整理番号(110)

授業科目	理学療法技術論(内部障害Ⅰ)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	座学・実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	今泉 仁美	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般 目 標	<p>生理学の知識を元に、代謝、循環についての理解を深める。 内部障害に対する理学療法の意義を理解し、技術を習得する。</p>		
動 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・内部障害の機序について、生理学の知識を元に説明ができる ・内部障害に対しての理学療法を実践できる 		
キーワード	運動生理, 循環・代謝疾患, 運動療法, 心臓リハビリテーション		
	スケジュール		
1回目	オリエンテーション 内部障害の定義ー内部障害とは何か		
2回目	呼吸器疾患の基礎 (呼吸器の解剖生理の復習)		
3回目	呼吸器疾患各論 (呼吸機能検査)		
4回目	呼吸器疾患各論 (閉塞性肺疾患)		
5回目	呼吸器疾患各論 (拘束性換気障害)		
6回目	呼吸器疾患に対する理学療法 (聴診、排痰法、胸郭可動域訓練、呼吸介助)		
7回目	人工呼吸器管理、気道内吸引の基本		
8回目	小テスト (呼吸器疾患)、国家試験演習		
9回目	代謝障害の基礎 (代謝の生理学の復習、酸塩基平衡)		
10回目	代謝障害各論 (脂質異常症とエネルギー)		
11回目	代謝障害各論 (糖尿病)		
12回目	代謝障害各論 (慢性腎臓病、人工透析)		
13回目	代謝障害に対する理学療法 (運動療法)		
14回目	小テスト (代謝障害)、国家試験演習		
15回目	総復習、国家試験演習		
評 価 方 法	授業態度・小テスト・試験		
教 科 書	最新 理学療法学講座 内部障害理学療法学 (医歯薬出版株式会社)		
考 書 ・ 資 料	講師配布資料		
履 修 上 の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度によっては課題等の提出を求める可能性があるため留意すること。 ・毎回の授業ごとにミニテストを実施、単元ごとに小テストを実施予定。 		

授業科目	理学療法技術論(内部障害Ⅱ)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	今泉 仁美	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	症候学、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患、消化器疾患、総胆肝疾患、循環器疾患の障害について、その病因、病態の理解を深め、疫学、臨床像、検査などについて幅広く学習する。		
行動目標	代表的な症候学、呼吸器疾患、腎、泌尿器疾患、消化器疾患、総胆肝疾患、循環器疾患の障害について、病因、病態、疫学、臨床像を説明できる。 上記の疾患患者の留意事項を説明できる。		
スケジュール			
1回目	内科学とは		
2回目	内科学的診断と治療の実際		
3回目	症候学		
4回目	循環器疾患(1)		
5回目	循環器疾患(2)		
6回目	循環器疾患(3)		
7回目	呼吸器疾患(1)		
8回目	呼吸器疾患(2)		
9回目	呼吸器疾患(3)		
10回目	消化器疾患(1)		
11回目	消化器疾患(2)		
12回目	肝胆膵疾患(1)		
13回目	肝胆膵疾患(2)		
14回目	腎・泌尿器疾患(1)		
15回目	腎・泌尿器疾患(2)		
評価方法	マークシート形式による試験(80%)と毎回の講義後の課題レポート(20%)を考慮して総合的に評価する。		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学(医学書院)		
参考書・資料等	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学(医学書院) 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 生理学(医学書院)		
履修上の注意	学習するにあたって、解剖学、生理学、病理学全般をよく理解しておく必要があります。 疾患を理解する為に必要と思われる基礎知識を受講前に復習しておくことで、よりスムーズについてくるのが可能になるでしょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	理学療法技術論(小児)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	三沢 峰茂	オフィスアワー	
一般目標	小児疾患の代表的な疾患(脳性麻痺、二分脊椎、神経筋疾患など)の症候をまとめ、その障害に対する理学療法の理解を深める。		
行動目標	各疾患毎に、姿勢・運動障害の特徴を説明できる。 姿勢運動障害を評価する検査測定を実施できる。 理学療法プログラム立案の手順を説明できる。 理学療法プログラムの指導を実施できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	こどもの運動器障害とそれに対する基本的な運動療法		
2回目	発達学、運動学に基づく運動療法		
3回目	NICUにおける理学療法		
4回目	脳性麻痺概論		
5回目	痙直型四肢麻痺の特徴と運動療法		
6回目	痙直型四肢麻痺の特徴と運動療法		
7回目	痙直型両麻痺の特徴と運動療法、歩行訓練		
8回目	痙直型両麻痺の特徴と運動療法、歩行訓練		
9回目	アテトーゼ型脳性麻痺児の特徴と運動療法		
10回目	アテトーゼ型脳性麻痺児の特徴と運動療法		
11回目	弛緩型脳性麻痺の特徴と運動療法		
12回目	神経筋疾患の特徴と運動療法		
13回目	二分脊椎の特徴と運動療法		
14回目	二分脊椎の特徴と運動療法		
15回目	発達運動学的治療(ボイタ)、神経発達学的治療(NDT)について		
評価方法	筆記試験		
教科書	特になし		
参考書・資料等	授業の中で適時紹介する		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 実技演習を行うため、動きやすい服装で参加していただきたい。		

学校整理番号(110)

授業科目	運動療法学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	出浦 聡	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	基本的な運動療法に関する理解を深め、それぞれの患者に合わせた理学療法プログラムの立案能力を習得する。		
行動目標	関節の構造や動きを説明できる。 関節可動域に影響を与える因子について説明できる。 基本的な関節可動域運動を行うことができる 筋の特性を説明することができる。 筋力トレーニングの選択及び説明ができる。		
キーワード	関節可動域治療・筋力トレーニング・リスク管理		
	スケジュール		
1回目	オリエンテーション		
2回目	運動療法の基礎		
3回目	関節可動域運動		
4回目	関節可動域運動		
5回目	関節可動域運動		
6回目	筋力増強運動		
7回目	筋力増強運動		
8回目	筋力増強運動		
9回目	持久力運動		
10回目	持久力運動		
11回目	持久力運動		
12回目	協調性運動/その他		
13回目	協調性運動/その他		
14回目	協調性運動/その他		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験の結果と授業への参加態度などを総合的に評価する		
教科書	運動療法学総論 第4版, 著 奈良勲, 医学書院		
参考書・資料等	運動療法学 改訂第2版, 著 柳澤健, 金原出版		
履修上の注意	臨床で多用される関節可動域練習及び筋力トレーニングについての知識・技術を 習得する。また、時間があれば、モビライゼーション等の特殊療法も学習する。		

学校整理番号(110)

授業科目	物理療法学 I	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	両角 昌実	オフィスアワー	
一般目標	基本的な物理療法に関する理解を深め、それぞれの患者に合わせた物理療法を適用させる能力を習得する。		
行動目標	物理療法それぞれの特徴を説明できる。 各種物理療法の適応・禁忌を説明できる。		
キーワード	物理療法の特徴・適応・禁忌		
スケジュール			
1回目	物理療法総論, 温熱療法総論		
2回目	ホットパック, パラフィン浴		
3回目	ホットパック・パラフィン浴実技		
4回目	エネルギー変換療法		
5回目	極超短波療法実技		
6回目	超音波療法		
7回目	超音波療法実技		
8回目	寒冷療法		
9回目	寒冷療法実技		
10回目	電気刺激療法		
11回目	電気刺激療法実技		
12回目	光線療法		
13回目	牽引療法		
14回目	牽引療法実技		
15回目	水治療法		
評価方法	筆記試験(70%)・実技試験(30%)		
教科書			
参考書・資料等	シンプル理学療法学シリーズ 物理療法学テキスト 改定第2版(南山堂)		
履修上の注意	臨床で多用される物理療法についての知識・技術を習得する。		

学校整理番号(110)

授業科目	物理療法学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	両角 昌実	オフィスアワー	月～金:8:30～17:20
一般目標	機器を安全に操作できるようになる。機器の特性を知る。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の操作に関して、リスク管理をする。 ・適応疾患を類別する。 ・禁忌事項を判断する。 ・治療を行える。 		
キーワード	適応・禁忌・リスク管理・物理的作用		
スケジュール			
1回目	物理(温熱・水治・電気・機械・光線)療法について再確認①		
2回目	物理(温熱・水治・電気・機械・光線)療法について再確認②		
3回目	各物理療法における評価の検討①		
4回目	各物理療法における評価の検討②		
5回目	各物理療法における評価の検討①		
6回目	各物理療法における評価の検討②		
7回目	各物理療法における評価の検討①		
8回目	予備実験演習(1)		
9回目	予備実験演習(2)		
10回目	予備実験演習(3)		
11回目	予備実験演習(4)		
12回目	予備実験演習(5)		
13回目	予備実験演習(6)		
14回目	予備実験演習(7)		
15回目	予備実験演習(8)		
評価方法	グループ発表 実験への取り組み姿勢 出欠席		
教科書	物理療法学テキスト(南江堂)		
参考書・資料等			
履修上の注意	臨床で多用される知識・技術のため、各自が機器を扱えるように習得する必要がある。機器の特性や注意事項を再認識しておく。また、物理療法における必要知識として、解剖学・生理学の知識が重要となるので復習をしておくこと。		

学校整理番号(110)

授業科目	義肢学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	豊田 輝	オフィスアワー	
一般目標	義肢の基本となる理論などを理解するとともに各切断に応じた義肢の名称・機能・適応について理解し、理学療法士として必要と評価および治療に必要な事項を習得する。		
行動目標	各切断高位に応じた義肢の特徴を説明できる。 切断者に対する理学療法評価の目的を説明できる。 切断者に対する理学療法評価を実施できる。 義足のアライメント調整ができる。 切断者に対する理学療法プログラムが立案できる。		
キーワード	切断者・義肢・アライメント		
スケジュール			
1回目	義肢学総論(基本的事項, 歴史, 部品の変遷, 心理面など)		
2回目	切断の原因と治療、切断部位と切断術		
3回目	切断者の評価(全体的評価)		
4回目	断端管理法(目的, 利点と欠点など)		
5回目	大腿義足		
6回目	大腿義足		
7回目	股継手・膝継手・足継手		
8回目	下腿義足		
9回目	下腿義足		
10回目	股義足・膝義足		
11回目	サイム義足・足部義足		
12回目	異常歩行分析(大腿義足アライメント)		
13回目	異常歩行分析(大腿義足アライメント)		
14回目	異常歩行分析(下腿義足アライメント)		
15回目	義肢装具の給付制度		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	義肢・装具学 ―異常とその対応がわかる動画付き、出版社名:羊土社、監修高田治実、編集豊田輝、石垣栄		
参考書・資料等			
履修上の注意	実技実習ができる服装で受講すること。		

学校整理番号(110)

授業科目	装具学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	装具の使用目的や方法・注意点を理解する。		
行動目標	装具・各種部品の名称や特徴の理解 疾患別装具療法の理解 靴型装具や車椅子・杖の理解 装具の給付制度の理解		
キーワード			
スケジュール			
1回目	装具学総論		
2回目	下肢装具の構成部品とそのチェックアウト		
3回目	脳卒中片麻痺の装具		
4回目	足継手の制御機構		
5回目	短下肢装具装着における歩行分析		
6回目	脳卒中患者の装具療法の実際		
7回目	整形外科装具		
8回目	脊柱側弯症の装具、小児疾患の装具		
9回目	上肢装具～末梢神経障害・関節リウマチ等～①		
10回目	上肢装具～末梢神経障害・関節リウマチ等～②		
11回目	対麻痺の装具		
12回目	頸椎・胸腰椎疾患の装具		
13回目	車いす・杖・歩行器等		
14回目	靴型装具・義肢装具の給付制度		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題等を含む)、筆記試験を総合して判断します。		
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具学 単行本 羊土社		
参考書・資料等	適宜、配布します。		
履修上の注意	実際の装具を装着体験してもらうことがあります。数やサイズに限りがあるため、全員に装着してもらうことは難しいですが、動きやすい服装(私服で可)をお願いします。		

授業科目	理学療法特論	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤 真吾	オフィスアワー	
一般目標	理学療法士にとっての幅広い知識を養うことを目標とする。		
行動目標	理学療法士にとっての、学術的知識、行動的知識を整理し、就職後の活動に生かす。		
キーワード	手技、テクニック		
スケジュール			
1回目	PNF		
2回目	PNF		
3回目	PNF		
4回目	ポバース		
5回目	ポバース		
6回目	ポバース		
7回目	テーピング		
8回目	テーピング		
9回目	テーピング		
10回目	DYJOC		
11回目	DYJOC		
12回目	DYJOC		
13回目	筋膜リリース		
14回目	筋膜リリース		
15回目	筋膜リリース		
評価方法	授業中の態度ならびに出席状況		
教科書	特になし		
参考書・資料等			
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	地域リハビリテーション論 I	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金沢 善智	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	地域リハビリテーションの位置づけがわかる 地域包括ケアシステムを理解する 地域で働く理学療法士の役割がわかる		
行動目標	地域リハビリテーションの対象者を知る 多職種連携の重要性とその方法を理解する 地域への関わり方を知る		
キーワード			
スケジュール			
1回目	地域リハビリテーション論 総論①		
2回目	地域リハビリテーション論 各論①「疾患と生活の理解」		
3回目	地域リハビリテーション論 各論②「ICF」		
4回目	地域リハビリテーション論 各論③「地域包括ケアシステム」		
5回目	地域リハビリテーション論 各論④「地域リハと制度」		
6回目	アクティブラーニング①		
7回目	地域リハビリテーションの実際 ①「現場で働くPT①」		
8回目	地域リハビリテーションの実際 ②「現場で働くPT②」		
9回目	地域リハビリテーションの実際 ③「現場で働くPT③」		
10回目	地域リハビリテーションの実際 ④「現場で働くPT④」		
11回目	地域リハビリテーションの各論 ⑤「評価方法」		
12回目	地域リハビリテーションの各論 ⑥「動機と福祉用具」		
13回目	地域リハビリテーション分野の国家試験対策		
14回目	アクティブラーニング②		
15回目	アクティブラーニング③		
評価方法	レポート課題(40点) 筆記試験(60点)		
教科書	メジカルビュー社 Cross link 理学療法学テキスト 地域理学療法学 浅川康吉		
参考書・資料等	教員が作成した資料 メジカルビュー社 Cross link 理学療法学テキスト 地域理学療法学 浅川康吉		
履修上の注意	アクティブラーニングではレポートを作成して頂きます。 授業は必ず教科書を持参して下さい。		

学校整理番号(110)

授業科目	地域リハビリテーション論Ⅱ	履修年次	3年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	金沢 善智	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	地域に根差したリハビリテーションを実践する上で必要となる理論的枠組みと知識をこれまでの歴史を踏まえ学習する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での理学療法士の役割を理解できる。 ・地域で生活するために必要な制度について理解できる。 ・地域包括ケアシステムの概要と役割が理解できる。 ・訪問リハビリの内容と役割を理解できる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	地域リハビリテーションの概念・理念		
2回目	地域生活と地域理学療法 地域で求められるOT		
3回目	地域の社会資源について		
4回目	社会保障制度について		
5回目	各事業所の実践① 地域包括ケアシステム		
6回目	各事業所の実践 地域包括ケアシステム 事例検討		
7回目	各事業所の実践③ 通所リハビリテーション		
8回目	各事業所の実践 通所リハビリテーション 事例検討		
9回目	各事業所の実践③ 訪問リハビリステーション		
10回目	各事業所の実践 訪問リハビリステーション 事例検討		
11回目	各事業所の実践④ 介護老人保健施設、特別養護老人ホーム		
12回目	各事業所の実践④ 介護老人保健施設、特別養護老人ホーム 事例検討		
13回目	物理的環境におけるアプローチ① 住宅改修・福祉機器導入		
14回目	物理的環境におけるアプローチ② 住宅改修・福祉機器導入		
15回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、課題レポートなど、総合的に判断します。		
教科書	なし		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	生活環境論(含むリハ機器)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	
一般目標	福祉住環境整備に対する知識を深め、障害像に合わせた在宅改修案を立案できる。		
行動目標	障害者・高齢者を取り巻く社会状況と住環境に関する制度を理解する。 住環境整備における基本的な知識を理解する。 福祉用具の基本的な知識を理解する。 高齢者に多い疾患や障害に対する基本的な住環境整備を理解する。 設計図面の基本的な記載方法について理解する。		
キーワード	福祉住環境コーディネーター, 住環境整備		
	スケジュール		
1回目	オリエンテーション、試験要綱など		
2回目	高齢者を取り巻く社会状況と住環境		
3回目	障害者を取り巻く社会状況と住環境		
4回目	障害のとらえ方と自立支援のあり方		
5回目	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備		
6回目	障害別にみた福祉住環境整備①		
7回目	障害別にみた福祉住環境整備②		
8回目	相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方		
9回目	福祉住環境整備の基本技術および実践に伴う知識		
10回目	福祉住環境整備の基本技術および実践に伴う知識		
11回目	生活行為別福祉住環境整備の手法		
12回目	福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識		
13回目	在宅生活における福祉用具の活用		
14回目	生活行為別にみた福祉用具の活用		
15回目	福祉住環境コーディネーター受験に向けて		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト, 東京商工会議所		
参考書・資料等			
履修上の注意	毎年2回(7月、11月)に行われる福祉住環境コーディネーター試験(2級)の試験を受験できるように授業を展開していきます。受験は任意です。		

授業科目	臨床実習 I (見学)	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間
担当教員	出浦 聡	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床における理学療法士の役割を見学実習を通して包括的に体験する。 医療従事者としての基本的態度を学ぶ。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の業務および役割を理解する。 2. 理学療法士が関わる種々の疾患または障害のある対象者について理解する。 3. 対象者や実習指導者とのコミュニケーションが適切にとれる。 4. 医療従事者としての身だしなみや言葉遣い、行動などが適切にできる。 		
スケジュール			
<p>実習期間:1週間 * 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学修等を含め45時間以内とする。</p> <p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床見学実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で1週間の臨床見学実習を行う。 3. 臨床見学実習後オリエンテーション 4. 臨床見学実習発表会(レジュメ発表) <p><実習の実際></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導・監督の下で治療見学を行う。 2. 臨床見学実習報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。 			
	臨床実習指導者による評価と校内での臨床見学実習報告会の発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。		
教科書	特になし。		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	疾患特性など病態像について理解を深めておくこと。		

授業科目	臨床実習Ⅱ(地域)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間
担当教員	出浦 聡	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床見学実習で得た知識や技術、情意行動を活かす。 理学療法士の臨床現場において対象者を身近に感じ取り信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力を高める。また、評価や治療の一部を体験することで、理学療法に関する知識や技術の必要性を認識することを目的とする。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者に対して問診技術を中心としたコミュニケーションが適切にとれる。 2. 理学療法士が関わる様々な疾患または障害に対して実施する評価や治療の一部を理解することができる。 3. 理学療法に関する知識や技術の必要性を認識することができる。 		
スケジュール			
<p>実習期間:1週間 * 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学修等を含め45時間以内とする。</p> <p><内容></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床体験実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で1週間の臨床見学実習を行う。 3. 臨床体験実習後オリエンテーション 4. 臨床体験実習発表会(レジュメ発表) <p><実習の実際></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導・監督の下で治療見学を行う。 2. 臨床体験実習報告書を毎日指導者に提出する。 3. レポート課題等は必要に応じて課される。 			
	臨床実習指導者による評価と校内での臨床見学実習報告会の発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。		
教科書	特になし。		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	疾患特性など病態像について理解を深めておくこと。		

授業科目	臨床評価実習	履修年次	2年次
		単位数	6単位
授業形態	実習	必要時間数	270時間
一般目標	臨床体験実習で得た知識や技術、情意行動を活かす。 各施設で対象者に対して理学療法評価を実施する。 対象者を評価することで理学療法士が関わる様々な疾患や障害を理解し、問題点把握や治療目標の立案を行う。		
行動目標	1.指導者の助言・指導の下に立案した評価内容を実施できる。 2.対象者の問題点を抽出し、治療目標の立案ができる。 3.対象者の病態像や障害像、生活像を把握することができる。 4.評価の結果をレポートとしてまとめて報告することができる。		
キーワード	総合学習、復習		
スケジュール			
<p>実習期間:6週間 *臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学習などを含め45時間以内とする。</p> <p><内容> 1.臨床評価実習前オリエンテーション 2.本校指定の臨床実習施設で4週間の臨床評価実習を行う。 3.臨床評価実習後オリエンテーション 4.臨床評価実習発表会(スライド発表)</p> <p><実習の実際> 1.本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導・監督の下で評価の結果から問題抽出を行い、治療目標を立案する。 2.臨床評価実習報告書を毎日指導者に提出する。 3.レポート課題等は必要に応じて課される。</p>			
評価方法	臨床実習指導者による評価と校内での臨床評価実習の報告会の発表内容、実習中の課題レポート等の内容を考慮して総合的に評価する。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	評価技術に対する十分な実技練習と病態像について理解を深めておくこと。		

授業科目	臨床総合実習	履修年次	3年次
		単位数	14単位
授業形態	実習	必要時間数	630時間
一般目標	臨床評価実習で得た知識や技術、情意行動を活かす。 各施設で対象者に対して理学療法評価および治療技術を実施する。 対象者の問題点把握や治療プログラムの立案を通して理学療法士としての一連の流れを体験する。		
行動目標	1.対象者の問題点を抽出し、治療目標の立案ができる。 2.指導者の助言・指導の下に立案した治療プログラムを実施できる。 3.医療人としての役割や責務を理解することができるようになる。 4.経験した内容をレポートとしてまとめて報告することができる。		
スケジュール			
<p>実習期間:12週間 *臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学修等を含め45時間以内とする。</p> <p><内容> 1.総合臨床実習前オリエンテーション 2.本校指定の臨床実習施設で8週間の総合臨床実習を行う。 3.総合臨床実習後オリエンテーション 4.総合臨床実習発表会</p> <p><実習の実際> 1.本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指揮・監督の下で評価の結果から問題点週出を行い、治療目標化治療計画を立案する。 2.総合臨床実習報告書を毎日指導者に提出する。 3.レポート課題等は必要に応じて課される。</p>			
評価方法	臨床実習指導者による評価と校内での臨床評価実習報告会の発表内容、実習中の課題レポート内容を総合的に評価する。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	基礎・臨床医学および理学療法専門科目の各テキスト		
履修上の注意	評価技術・治療技術に対する十分練習と疾患特性など病態像について理会を深めておくこと。		

授業科目	臨床評価実習セミナー	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	出浦 聡	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	3年次の臨床実習に向け、検査と測定を中心とした臨床技能を修得する。 OSCEテキストの採点基準に基づき、模擬患者役の1年生に対して課題を70%以上みたとすることができるよう、検査と測定の手順の確認やその技術の正確性・速度の確立を目指す。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 検査と測定を行うために必要な準備ができる。 2. 患者に配慮した行動がとれる。 3. 1年生に実施している内容の意味を説明できる。 4. 評価結果をまとめ、考察をつけて報告できる。 		
スケジュール			
1回目	1-3 コミュニケーション技法(1) 実技		
2回目	1-3 コミュニケーション技法(2) 実技		
3回目	2-3 脈拍と血圧の測定(1) 実技		
4回目	2-3 脈拍と血圧の測定(2) 実技		
5回目	2-11 反射検査<腱反射・病的反射>(1) 実技		
6回目	2-11 反射検査<腱反射・病的反射>(2) 実技		
7回目	2-5 ROM-T(上肢) 実技		
8回目	2-5 ROM-T(足関節背屈) 実技		
9回目	2-6 MMT(上肢) 実技		
10回目	2-6 MMT(下肢) 実技		
11回目	症例問題1 2-11 反射検査(下肢) 2-6 MMT(下肢) 実技		
12回目	症例問題2 2-5 ROM-T(下肢) 2-1 療法士面接(問診:疼痛) 実技		
13回目	症例問題3 2-10 感覚検査(表在・深部・複合) 実技		
14回目	症例問題4 2-7 形態測定 実技		
15回目	まとめ		
評価方法	毎回のOSCEについて技能面が70%以上を満たさない場合は、再試験を行う。 OSCEの得点平均(20%)と定期試験の得点(40%)、デイリーノート(40%)を考慮して総合的に評価する。		
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編(金原出版)		
参考書・資料等	リハビリテーションビジュアルブック(学研)		
履修上の注意	臨床実習を想定した学内実習である為、身だしなみはもちろん実習中の態度、言葉遣いも含めた総合評価で成績を判定する。 毎回の講義翌日に講義内容をまとめたデイリーノートと指定課題を担当教員へ提出すること。 毎回、事前課題と事後課題があるので注意すること。		

学校整理番号(110)

授業科目	臨床総合実習セミナー	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
一般目標	治療技術の向上を目指していく。 OSCEテキストの採点基準に基づき、模擬患者役の1年生に対して課題を70%以上満たすことができるよう、治療の手順の確認やその技術の正確性・速度の確立を目指す。		
行動目標	1.治療を行うために必要な準備ができる。 2.患者に配慮した行動がとれる。 3.治療内容をまとめ、考察を付けて報告できる。		
キーワード	総合学習、復習		
スケジュール			
1回目	治療法①		
2回目	治療法①		
3回目	解説		
4回目	解説		
5回目	治療法②		
6回目	治療法②		
7回目	解説		
8回目	解説		
9回目	治療法3		
10回目	治療法3		
11回目	解説		
12回目	解説		
13回目	治療法④		
14回目	解説		
15回目	解説		
評価方法	復習を見つめる中での取り組み方		
教科書	特になし		
参考書・資料等			
履修上の注意			

Syllabus

2022 年度

国際医療福祉専門学校
リハビリテーション学科
作業療法士コース

学校整理番号(110)

授業科目	基礎作業療法総論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 :30～17:20
一般目標	作業療法における「作業」の個人的意味を理解し、ひとと作業と環境の相互作用の結果としての作業遂行を考え、個々人における「作業」の意義を考慮し、実践できるように学習する。種々の作業活動について、作業の遂行、必要な道具・材料、工程等を学ぶ。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.作業療法における「作業」を理解できる。 2.作業療法における「作業」の個人的意味合いを理解できる。 3.人と作業と環境の相互作用を理解できる。 4.作業遂行において必要なものを考えることができる。 5.個々人における「作業」の意義を考え、実践する上での基礎知識を理解する。 6.作業活動に必要な道具、材料、行程を説明できる。 7.作業の特性、体験した作業についての肯定的側面と否定的側面を挙げる事ができる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション ひとと作業の関わり		
2回目	作業学総論 作業と個人的意味		
3回目	作業療法における作業の活用の歴史		
4回目	健康と作業		
5回目	作業の治療への適応 作業を遂行するための理解		
6回目	作業分析とは…		
7回目	指導法		
8回目	作業活動 自分史作り①		
9回目	作業活動 自分史作り②		
10回目	作業活動 自分史作り③		
11回目	自分史作り 発表①		
12回目	自分史作り 発表②		
13回目	まとめ		
14回目	人と作業 オリエンテーション		
15回目	レポートの書き方について…		
評価方法	出席率、授業態度(課題・発表・レポート)にて判断します。 ※筆記試験無し		
教科書	作業学 [作業療法学ゴールドマスターテキスト] 第3版 メディカルビュー社		
参考書・資料等	作業 その治療的応用 改定第2版 協同医書出版社		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法評価法 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 :30～17:20
一般目標	作業療法評価について、作業療法及びリハビリテーション医療を展開するうえでの評価の意義の理解を深め、安全で疾患に合わせた適切な検査・測定を習得する。		
行動目標	障害モデルと作業療法評価の関連について説明できる。 臨床的思考決定過程のなかで理学療法評価の目的や意義を説明できる。 ①各検査において適切なオリエンテーションができる。 ②各検査において検査・測定器具を正しく取り扱うことができ、測定肢位を適切に選択することができる。 ③各検査において検査・測定結果を適切に解釈することができる(適切に検査・測定を行うことができる)。 ④各検査において検査・測定方法、検査・測定結果を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1・2回目	作業療法評価総論、情報収集・面接)		
3・4回目	血圧		
5・6回目	協調性検査		
7・8回目	筋緊張・疼痛検査		
9・10回目	Br-STAGE		
11・12回目	感覚検査		
13・14回目	上肢機能検査		
15・16回目	形態測定		
17・18回目	反射検査(姿勢・腱・病的反射)		
19・20回目	姿勢評価		
21・22回目	ADL評価		
23・24回目	認知機能評価(HDS-R、MMSE)		
25・26回目	作業分析 総論		
27・28回目	作業分析 総論		
29・30回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題等を含む)、筆記試験を総合して判断します。		
教科書	作業療法評価学 第3版 医学書院 ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版 南山堂		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	作業療法を実践するうえで、必要不可欠な科目となります。 クライアントへ検査の目的・方法を説明できるようにするとともに、結果の解釈をしっかりと理解し、実践できるようにしましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法評価法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行う為の手順と必要な基礎知識を字付きを交えて習得する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の検査・測定の目的と概要を他者に説明できる。 ・各種の検査・測定の手順を学生同士で再現できる。 ・各種の検査・測定の実施上の留意点を述べることができる。 ・各種の検査・測定の結果を文書・口頭で説明することができる。 		
キーワード			
スケジュール			
1・2回目	作業療法評価の流れ		
3・4回目	中枢神経系 評価まとめ(1)		
5・6回目	中枢神経系 評価まとめ(2)		
7・8回目	評価計画の立案・実践		
9・10回目	実践的な記録 SOAP		
11・12回目	基本動作分析 寝返り 指導方法・介助方法(1)		
13・14回目	基本動作分析 寝返り 指導方法・介助方法(2)		
15・16回目	基本動作分析 起き上がり 指導方法・介助方法(1)		
17・18回目	基本動作分析 起き上がり 指導方法・介助方法(2)		
19・20回目	基本動作分析 立ち上がり 指導方法・介助方法(1)		
21・22回目	基本動作分析 立ち上がり 指導方法・介助方法(2)		
23・24回目	基本動作分析 歩行 指導方法・介助方法(1)		
25・26回目	基本動作分析 歩行 指導方法・介助方法(2)		
27・28回目	基本動作分析 歩行 指導方法・介助方法(3)		
29・30回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、課題レポートなど、総合的に判断します。		
教科書	動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 編;石井慎一郎		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法治療学(精神障害)	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神障害領域の作業療法の対象となる疾患の臨床像と精神特性、疾患別作業療法の治療目的について理解する。認知症及び児童期精神障害を含む。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患の理解(心身機能・活動制限・参加制約)する。 ・精神障害の分類を理解する。 ・各精神疾患の評価、作業療法の目的・対応・治療を理解する。 		
キーワード			
スケジュール			
1・2回目	精神科領域の作業療法		
3・4回目	精神障害の歴史・現状		
5・6回目	治療過程と治療構造、作業活動(作業療法の流れ・導入)		
7・8回目	治療過程と治療構造、作業活動(個人・集団の治療因子)		
9・10回目	回復段階に応じた作業療法(回復段階の流れの理解)		
11・12回目	統合失調症の作業療法(急性・回復・回復後期)①		
13・14回目	統合失調症の作業療法(急性・回復・回復後期)②		
15・16回目	統合失調症の作業療法(退院後、就労支援)		
17・18回目	気分障害の作業療法(急性・回復・回復後期)①		
19・20回目	気分障害の作業療法(急性・回復・回復後期)②		
21・22回目	事例検討(統合失調症・気分障害)		
23・24回目	依存症系の作業療法(疾患理解・分類)		
25・26回目	依存症系の作業療法(評価、目的、対応、治療)①		
27・28回目	依存症系の作業療法(評価、目的、対応、治療)②		
29・30回目	事例検討(依存症系)		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト6 精神障害と作業療法		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法治療学(中枢神経)	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	身体障害領域において対象となる疾患の病態・特徴・症状などを理解する。また、病態から必要となる評価とその意義を理解し、治療・援助方法など作業療法実施における過程を理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害における障害像を理解する。 ・脳血管障害における各期において、作業療法過程について理解する。 		
キーワード			
スケジュール			
1・2回目	脳血管障害総論 脳と神経と基礎知識		
3・4回目	脳損傷と神経症状、CT・MRI画像について		
5・6回目	脳血管障害の病態、障害像および機能的予後bについて		
7・8回目	脳血管障害の評価		
9・10回目	脳血管障害の急性期作業療法 急性期における作業療法目的、リスク管理、スクリーニング		
11・12回目	脳血管障害の急性期作業療法 ポジショニング、廃用性症候群、ROM訓練		
13・14回目	脳血管障害の回復期作業療法 回復期における作業療法目的、リスク管理、評価		
15・16回目	脳血管障害の回復期作業療法 回復期における機能訓練、自己管理		
17・18回目	脳血管障害の回復期作業療法 基本動作訓練、ADL訓練及び指導方法		
19・20回目	脳血管障害の生活期作業療法 IADL・社会的技能における訓練 ①		
21・22回目	脳血管障害の生活期作業療法 IADL・社会的技能における訓練 ②		
23・24回目	脳血管障害の生活期作業療法 在宅での生活 自助具・装具・住環境・合併症		
25・26回目	症例検討① グループワーク		
27・28回目	症例検討② 発表		
29・30回目	症例検討③ 補足説明及び情報共有		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	作業療法全書 改定第3版 身体障害 協同医書出版 著:菅原洋子 ゴールドマスターテキスト改定第2版 身体障害作業療法学		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

Syllabus

2022 年度

国際医療福祉専門学校
リハビリテーション学科
作業療法士コース

学校整理番号(110)

授業科目	生命倫理 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・グループワーク	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	保健医療福祉の分野において、生じている倫理的問題について学ぶ。 事例を通し、自分の考えを述べることを大切にするとともに、他者の意見も尊重し、ともに考えることができる。		
行動目標	医療の発展に伴い、生じている倫理的な課題について説明できる。 将来の実践現場において起こりうる倫理的課題について、自分の考えをまとめ、他者に伝えることができる。 個人的な意見だけでなく、他者の意見も尊重し、柔軟に考えられるようになる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	ガイダンス	「生命倫理についての歴史を学ぶ」	
2回目	倫理について	「倫理の基礎」「例題を通して考える(1)」	
3回目	倫理について	「例題を通して考える(2)」	
4回目	生命倫理について考える	「生命倫理の原則」「例題を通して考える」	
5回目	自己決定権について	判例における「患者の自己決定権」の再考	
6回目	脳死について考える	「脳死と植物状態の違い」「例題を通して考える」	
7回目	全体のまとめ(1)	医療職としての生命倫理	
8回目	全体のまとめ(2)	作業療法士の倫理を学ぶ	
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	授業で使用する資料は随時配布します。		
参考書・資料等	生命倫理学入門(第4版), 今井道夫, 産業図書 保健・医療職のための生命倫理ワークブック, 吉川ひろみ マンガで学ぶ整形倫理, 児玉 聡・なつたか, (株)科学同人		
履修上の注意	自分の意見をしっかり伝え、相手の意見も尊重しましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	生命倫理Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・グループワーク	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	保健医療福祉の分野において、生じている倫理的問題について学ぶ。 事例を通し、自分の考えを述べることを大切にするとともに、他者の意見も尊重し、ともに考えることができる。		
行動目標	医療の発展に伴い、生じている倫理的な課題について説明できる。 将来の実践現場において起こりうる倫理的課題について、自分の考えをまとめ、他者に伝えることができる。 個人的な意見だけではなく、他者の意見も尊重し、柔軟に考えられるようになる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	生命倫理とは		
2回目	インフォームド・コンセントとは	「説明と同意」「知る権利、知らない権利」	
3回目	移植医療について考える	脳死と臓器移植	
4回目	超高齢化社会について	身体拘束、虐待防止、意思決定支援	
5回目	出産と生殖補助医療について考える	AIHとAID、クローン、出生前検査	
6回目	死について考える	安楽死と尊厳死、延命治療、緩和ケア、リビングウイール	
7回目	ターミナルケア	患者様・ご家族様の気持ちを考える ACPIについて	
8回目	全体のまとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	授業で使用する資料は随時配布します。		
参考書・資料等	生命倫理学入門(第4版), 今井道夫, 産業図書 保健・医療職のための生命倫理ワークブック, 吉川ひろみ		
履修上の注意	自分の意見をしっかり伝え、相手の意見も尊重しましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	心理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月・水・金9:00～17:20
一般目標	心理学は、人間を理解することと深く結びついている。心の働きのメカニズム、発達過程、对人的影響について基礎的な知識を習得する。		
行動目標	心理学の主要な研究領域の特徴を説明できる 人間の心の代表的な認知メカニズムについて説明できる 人間の心の発達過程について説明できる 人間の心の社会との相互関係について説明できる		
キーワード	こころ、適応、しくみ		
スケジュール			
1回目	心理学とは		
2回目	心の発達		
3回目	動機づけと情動		
4回目	性格		
5回目	感覚と知覚		
6回目	記憶と学習		
7回目	脳と心		
8回目	心と社会		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	はじめて出会う心理学 改訂版、長谷川寿一他、有斐閣アルマ		
参考書・資料等	心理学・入門、サトウタツヤ・渡邊芳之、有斐閣アルマ 参考資料を適宜配布します。		
履修上の注意	講義スタイルの授業ですが、随時、講義内容の感想、疑問などを尋ねたいと思います。その内容について、学生同士での話し合い、学習内容についての理解を深めていきましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	教育学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:30
一般目標	<p>作業療法士・理学療法士を取り巻く社会は、教育に携わる機会を上げると暇がないのが実情である。よって本講では教育学の基礎知識を紹介しながら、教育学的思考の初歩を経験する場を提供する。内容は、作業療法士・理学療法士に必要なスキルを、講義を通じて学びの深まりとクラスの親睦の深まりも追求したい。最終的には深い人間理解に根ざした教育観を養うことを目標とする。</p>		
行動目標	<p>「教えること」から「学ぶこと」への気づきが、ひいては患者教育へとつながることを理解する。そして、理学療法士の役割と教育の意義を理解できること。</p>		
キーワード	<p>教育 しつけ 方法論 カント イタール ロック 行動分析</p>		
スケジュール			
1回目	ガイダンス ●	教育学とは何か？ 目的と意義	ヒトにとっての学び
2回目		情報伝達とコミュニケーション(1)	その方法
3回目		情報伝達とコミュニケーション(2)	情報受発信力 討論・対話力(1)
4回目		情報受発信力	討論・対話力(2)
5回目	古典から考える(1)	イマヌエル・カントの教育論	
6回目	古典から考える(2)	イタールの教育論	ロックの人間悟性論
7回目	古典から考える(3)	オペラントの行動分析から考える	
8回目	Summary	作業療法・理学療法への展望	
評価方法	<p>原則として定期試験で評価する。ただし、場合によってはグループワーク等の受講取組態度を加味することがある。</p>		
教科書	<p>「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。</p>		
参考書・資料等	<p>参考図書： 佐野洋子著 『100万回生きたねこ』(講談社)</p>		
履修上の注意	<p>講義では毎回意見を伺うので、寝ていたり聞いていなかったりしては講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら将来の自身の作業療法「理学療法業務場面を想像しながら、関心をもって講義に臨んでください。また講義内で配布する資料は後でも読み、紹介する参考文献も手にとって、さらに深めてください。</p>		

授業科目	社会の理解	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・一部演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦(社会学士)	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一般目標	<p>「社会」は、色々な意味を含んでいるが、自身の経験や常識(だけ)に基づき、「社会」についてを曖昧に理解しがちである。その「社会」を構成するのは、作業療法・理学療法の対象となる人間であり、その集団といえる。本講では、集団の中の人間という基本的な原理を理解し、家族、地域社会、国家という社会集団について学習する。次いで、医療・理学療法界を取り巻く諸課題を関連させて考えることができるようにすることを目標とする。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ●「社会」について多角的に理解するとともに、人間権と社会の関連について認識を深める。 ●医療従事者としての社会との関わりについての豊かなイメージを培う。 		
キーワード	社会とは 家族 ジェンダー 自己と他者 アノミー		
	スケジュール		
1回目	ガイダンス～ イントロダクション——社会学とはどんな学問か？		
2回目	「近代社会」について——私たちが生きる「社会」の枠組 1)自己——「見る自分」と「見られる自分」		
3回目	「近代社会」について——私たちが生きる「社会」の枠組 2)家族とジェンダー		
4回目	相互作用——社会的ネットワーク 地域社会の変化と問題点(都市部と農村部)		
5回目	地域社会の変化と問題点(現代の都市型社会における地域問題)		
6回目	貧困と社会的排除(デュルケムによる)		
7回目	他者との関わり—教育の観点から		
8回目	まとめ		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験 ・授業態度 ・演習取組状況を総合的に勘案し評価する。 		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	<p>参考図書: E.デュルケム(著), 宮島 喬(翻訳) 『自殺論』(中公文庫) 他</p>		
履修上の注意	<p>医療が社会の中の行為、事業であることを意識したうえで、社会がつねに変化の中にあること、また、改良すべき問題点を生み出していることを意識してください。講義では毎回意見を伺うので、寝ていたり聞いていなかったりしては講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら扱うテーマについて調べ、関心をもって講義に生かしてください。</p>		

学校整理番号(110)

授業科目	法 学	履修年次	1年次
		単 位 数	1単位
授業形態	講義・一部演習	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	藤川孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:00
一 般 目 標	医療、福祉をはじめ、作業療法士・理学療法士を取り巻く社会は、理学療法士・作業療法士法をはじめ医師法等に従って規律・実行され、問題が処理されている。こうした法現象を、分析、理解し、社会における法制度の役割を理解できるよう講義をすすめていく。講学の題材には、作業療法士・理学療法士に密接な個人情報守秘義務など法律的問題を取り上げ、これらを、憲法の基本原理を参照しながら、論理的に理解できるようになることを目標としたい。		
行 動 目 標	人権が保障され民主的で平和な社会を構築していくために、憲法や法律がどのように社会を規律しているか、そして、それが日常生活にどのように生かされて、個人情報保護法等を概観し、医療、福祉など国民生活における法制度の役割と意義を理解できる。		
キーワード	国家 法の精神 道徳 倫理 個人情報 日本国憲法		
スケジュール			
1回目	ガイダンス ～法を学ぶことについて 法の精神(ロック)		
2回目	法とは何か? 国家 道徳・正義・倫理・規範		
3回目	↓ ルール・マナー		
4回目	↓ 罪 罰		
5回目	医療者の法的責任(理学療法士の身近な法と罰)		
6回目	個人情報1		
7回目	個人情報2		
8回目	日本国憲法と法の意義 ～憲法にみる人権～		
評 価 方 法	原則として定期試験で評価する。演習(課題含む)等の受講取組態度を勘案することがある。		
教 科 書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参 考 書 ・ 資 料 等	参考図書: 『日本国憲法』(小学館)		
履 修 上 の 注 意	講義では毎回意見を伺うので、寝ていたり聞いていなかったりしては講義が成立しません。とにかく聞いて考えてください。 事前学習はそれほど必要ではありませんが、講義の流れを参照しながら将来の自身の作業療法、理学療法業務場面を想像しながら、関心をもって講義に臨んでください。また講義内で配布する資料は後でも読み、紹介する参考文献も手にとって、さらに深めてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	人間関係論	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	対人援助職としての理学療法士について、自己概念を知ることによって他者との関わりを模索し、コミュニケーション力を高め、人間について考えていく。		
行動目標	自己肯定感を持ち、心身ともに健康管理ができる。 人間性を高め、人として自分を成長させる。 主体性をもって行動ができる自立した人間となる。 対人援助職として必要不可欠なコミュニケーション能力を高める。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	対人関係と役割		
2回目	人間関係の形成		
3回目	人間関係の自己と他者		
4回目	コミュニケーションとは…		
5回目	コミュニケーション技法① 言語		
6回目	コミュニケーション技法② 非言語		
7回目	コミュニケーション技法③ 共感・傾聴・繰り返し		
8回目	人間の多面的理解		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	特に無し。		
参考書・資料等	適宜、資料配布します。		
履修上の注意	授業内で自らの内面についてワークに取り組む時間を設けています。ありのままの自分の心を反映できるような姿勢で取り組むことが大切です。「望ましい答え」を探すのではなく、本来の自分の思考をout putできるように心掛けてください。		

授業科目	物理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	姉川 秀治	オフィスアワー	
一般目標	身近な力学現象(モノと運動)を、自分の言葉で捉え直して、自分自身の力学的自然観を創造する。		
行動目標	運動の第1法則を自分の言葉で捉え直し、モノの存在について理解を深める。 運動の第1・第2法則を自分の言葉で捉え直し、運動概念の理解を深める。 運動の第2法則を捉え直し、因果論的説明が納得の形式であることを知る。 運動の第3法則を捉え直し、力がモノとモノとの相互作用であることを理解する。 力を図象化することで理解を深める。 練習問題は、すすんで取り組んで理解する。		
キーワード	自分の言葉、捉え直し、モノ、運動、力		
スケジュール			
1回目	相対速度の考察から運動概念を揺さぶる 自然観の歴史を振り返る		
2回目	運動の第1法則 モノの存在と運動 多様な表現 モノの存在論		
3回目	速度、加速度の概念整理 $v \sim t$ グラフを使って運動学の初歩を整理		
4回目	運動の第2法則 外力と速度変化の因果関係 モノの世界の因果律		
5回目	力概念の整理と静力学の初歩 力のモーメント 浮力		
6回目	運動の第3法則 力は相互作用 モノの世界の言葉 モノの世界の関係論		
7回目	力を図示して運動の法則を振り返る 光について てこについて		
8回目	Energy(運動方程式積分型、Energy概念一般) 練習問題を中心に総復習		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	筆記試験(100%) 力学的自然観についての自主提出レポート(最大15点の加点あり) ただし、最大点数は100点とする。		
教科書	担当教員による描き下ろし資料「力学の世界へ」		
参考書・資料等			
履修上の注意	特別な予備知識は不要だが、「言葉」にきちんと向き合うことが必要である。 テキストは、毎回持参する必要がある。		

学校整理番号(110)

授業科目	情報科学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金:8:30～17:20
一般目標	<p>昨今、情報化社会となった今、中高生からパソコンを使用することが当たり前となっている。また、臨床の現場においてもパソコンでの管理が標準となっている。この講義では、一般的なPCを使用し、ワード、エクセル、パワーポイントを使い、特にエクセルの統計について概略をつかめることを目標とする。</p>		
行動目標	<p>パソコンを使用してマイクロソフト Officeを使用することができる。 文章を打つためのタイピングをスムーズに行うことができる。 統計処理という概念を理解することができる。</p>		
キーワード	パソコン, マイクロソフト Office, Excel		
スケジュール			
1回目	パソコンの使用について		
2回目	文章のタイピング及びイラストの挿入等、紙面の体裁について		
3回目	統計処理について(意義、概念)		
4回目	統計処理について(方法ほか)1		
5回目	統計処理について(方法ほか)2		
6回目	統計処理について(方法ほか)3		
7回目	国家試験に出る統計処理		
8回目	まとめ		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	Word、Excel、PowerPointのデータを提出物として評価する		
教科書	<p>特に指定する教科書はない代わりに各自がパソコン、マイクロソフト Office(Word、Excel、PowerPoint)に関する知識を身に付けておく必要がある。 OfficeIに関しては、それに準じたものであれば代用可能だが、使用方法については各自が勉強すること。</p>		
参考書・資料等			
履修上の注意	<p>授業開始までに各自でパソコンを用意する。パソコンはマイクロソフトOfficeが稼働するものであれば大丈夫です。</p>		

学校整理番号(110)

授業科目	コミュニケーション学	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・グループワーク	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床現場でクライアント中心の作業療法を展開していく為には、クライアントの思い、気持ちを理解していく必要がある。作業療法士は対人炎暑を担う医療従事者として、自身のコミュニケーションの特徴を把握し、クライアント個人個人に合わせた関わりを行えるようにする。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実習、演習を通して自身のコミュニケーションの特徴について把握する。 ・コミュニケーションについて分析し、より実践的なコミュニケーション技能を習得する。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	コミュニケーションの体感①		
2回目	コミュニケーションの体感② 発表		
3回目	言語コミュニケーション①		
4回目	言語コミュニケーション② 発表		
5回目	非言語コミュニケーション①		
6回目	非言語コミュニケーション② 発表		
7回目	コミュニケーション機能とメタ認知		
8回目	中間まとめと復習		
9回目	5分間スピーチ		
10回目	5分間トーク		
11回目	臨床模擬面接①		
12回目	臨床模擬面接②		
13回目	プロセスレコードの記録演習		
14回目	プロセスレコードを用いた実践① グループ		
15回目	プロセスレコードを用いた実践② マンツォー		
評価方法	出席率、授業態度、筆記試験にて判断します。		
教科書	自分をみつめる カウンセリング・マインド ヘルスケアワークの基本と展開 著:五十嵐透子		
参考書・資料等	適宜、資料配布します。		
履修上の注意	恥ずかしがらず、積極的にコミュニケーションを図り、自身の特徴を把握しましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	保健体育	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<p>作業療法士に必要な身体的観点や運動感覚を身体で体感する。 様々な活動を通じ、心身の成長を促すとともに他者とのコミュニケーション能力を養う。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体活動を通じ、心身の成長を促す。 ・基本動作における身体の使い方を知る。 ・障がい者体験や基本的な福祉用具の使用体験を通して障がいを感じることができる。 ・他者と協力して行動する意義を知る。 		
キーワード	コミュニケーション、心身機能、健康、レクリエーション		
	スケジュール		
1回目	オリエンテーション。意識して身体を動かす。		
2回目	介助用具(福祉用具)を使ってみよう。		
3回目	町の中は危険がいっぱい。野外でのバリアフリーを感じてみよう。		
4回目	ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインを考えて(体験して)みよう。		
5回目	モーションセンサーを使って自分の身体の動きを確認してみよう。		
6回目	障害者体験をしてみよう。		
7回目	パラスポーツを体験してみよう。		
8回目	パラスポーツを体験してみよう。		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)にて判断します。		
教科書			
参考書・資料等			
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・明るく楽しく元気よく、意欲的に取り組むこと。 ・怪我には注意すること。 ・天候により予定変更になることもあります。 		

学校整理番号(110)

授業科目	文章表現法	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	15時間(8コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月・水・金曜日9:00～17:20
一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学、作業療法士としての基本的な文章表現能力を高める。 ・講義を基本とするが、実践的な演習も交え進めていく。 		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・医療人としての自身を自覚し、他者にわかりやすい表現法を理解する ・理学、作業療法を学ぶ学生として必要な文章作成技術を身につける 		
キーワード	文章表現、形式、専門用語		
スケジュール			
1回目	文章を書く時の注意点		
2回目	敬語について		
3回目	メールのマナーと文章作成		
4回目	手紙の書き方・封筒の書き方		
5回目	礼状の書き方		
6回目	感想文の書き方		
7回目	文章作成(レポート)		
8回目	診療記録～その内容と用語～		
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。		
参考書・資料等	庄司達也ほか：日本語表現法、翰林書房		
履修上の注意	言語による表現は技術であり、学ぶものである為、課題に積極的に取り組んでください。		

学校整理番号(110)

授業科目	英語	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	出浦 聡	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	リハビリテーション場面で使われる英語に習熟する。		
行動目標	身体各部の名称がわかる。 医療現場で用いられる機器の名称がわかる。 セラピストが使う略語がわかる。 英語で書かれた記録、論文が読める。		
キーワード	英語 セラピスト 専門用語		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	身体の部位		
3回目	断面と方向		
4回目	関節運動の名称		
5回目	骨格と筋		
6回目	運動方向と姿勢		
7回目	接頭辞		
8回目	語幹		
9回目	接尾辞		
10回目	病気		
11回目	症状		
12回目	リハビリ部門		
13回目	略語		
14回目	論文、カルテなど		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験の結果と授業への参加態度などを総合的に評価する		
教科書	なし		
参考書・資料等	特になし		
履修上の注意	医療現場で使われる言葉、専門用語を英単語とともに学ぶことで、他科目の学習に活かしていけるようにしてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	解剖学 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義並びに演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	運動器系を三次元的に捉え、その構造を理解する。 基本構造から基本的な働き(機能)を考える。 これらの働きより、臨床医学のもととなる知識を身につける。		
行動目標	人体の部位、名称などを覚える。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築する。 自身の身体を使い感じる事が出来る。		
キーワード	人体, 構造, 三次元		
スケジュール			
1回目/2回目	解剖学総論、骨学:骨組織と骨格の構造		
3回目/4回目	骨学:骨の連結と靭帯		
5回目/6回目	骨学:形態と名称(頭頸部と体幹)		
7回目/8回目	骨学:形態と名称(上肢)		
9回目/10回目	骨学:形態と名称(下肢)		
11回目/12回目	関節・靭帯		
13回目/14回目	筋学:頭頸部		
15回目/16回目	筋学:体幹部		
17回目/18回目	筋学:上肢①		
19回目/20回目	筋学:上肢②		
21回目/22回目	筋学:下肢①		
23回目/24回目	筋学:下肢②		
25回目/26回目	神経系(中枢神経)①		
27回目/28回目	神経系(中枢神経)②		
29回目/30回目	神経系(末梢神経)		
評価方法	試験およびレポート(進行状況による)に対して、授業態度及び出席率を勘案して評価する。		
教科書	標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院		
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 解剖学カラーアトラス 第5版 医学書院		
履修上の注意	人体の正常な構造や形態を学ぶといくことは、自身の体について学ぶことでもある。 常に自分自身に置き換えて考えることである。また、構造や形態にも意味があるものである。 暗記という勉強法ではなく、なぜという疑問を考え学習することが重要である。		

学校整理番号(110)

授業科目	解剖学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金:8:30～17:20
一般目標	理学療法を行う上で重要となる体の構造を理解し把握することが大切となる。模型や実技およびご遺体に触れることで、学習することを目的とする。		
行動目標	各骨の部位の名称を説明できる 皮膚の上から骨の部位の名称を触診できる 実際のご遺体を通して体の構造を知る 実際のご遺体を通して体の構造を説明できる		
キーワード	触診、骨、解剖演習		
スケジュール			
1回目/2回目	触察(骨に触れる)		
3回目/4回目	触察(体幹)		
5回目/6回目	触察(上肢)		
7回目/8回目	触察(下肢)		
9回目/10回目	感覚器系体性感覚		
11回目/12回目	感覚器系特殊感覚		
13回目/14回目	循環器系(心臓の構造など)		
15回目/16回目	循環器系(脈管など)		
17回目/18回目	呼吸器系(肺の構造など)		
19回目/20回目	泌尿器系(腎臓の構造と形態)		
21回目/22回目	消化器系(各臓器の位置と名称)		
23回目/24回目	味覚・嗅覚器		
25回目/26回目	視覚器		
27回目/28回目	聴覚器		
29回目/30回目	生殖器		
評価方法	骨模型を利用した質疑応答 触診の実技考査 最終試験		
教科書	運動療法のための機能解剖学的触診術 上肢 改訂第2版, 林 典雄, メジカルビュー社 運動療法のための機能解剖学的触診術 下肢・体幹 改訂第2版, 林 典雄, メジカルビュー社		
参考書・資料等	解剖学 運動学 カラー人体解剖学 構造と機能 ミクロからマクロまで 等、他科目で教科書と指定してある教科書 骨格筋の形と触察法 改訂第2版, 河上 敬介, 大峰閣		
履修上の注意	触診の授業では、動きやすい服装もさることながら、できる限り薄い服の方が、他人が触診した際にわかりやすく、親切となる。		

学校整理番号(110)

授業科目	機能解剖学	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<p>実習を通して解剖・運動学の知識を深めることを目的とする。 正確な観察とデータの収集をし、実習結果を下顎敵な報告書としてまとめることに重点をおく。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生体観察と機能解剖を理解する。 ・身体運動と力学を理解する。 ・生体力学の基礎を理解する。 ・姿勢と重心同様 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	各学習課題の説明と機能解剖		
2回目	生体観察と機能解剖① 視診・触診		
3回目	生体力学と機能解剖② 各関節運動と身体運動面と軸		
4回目	生体力学と機能解剖③ 骨格筋の作用・逆作用		
5回目	身体運動と力学① バイオデックスを用いて力学		
6回目	身体運動と力学② バイオデックスを用いて運動学		
7回目	身体運動と力学③ バイオデックスを用いて運動力学		
8回目	生体力学の基礎①		
9回目	生体力学の基礎②		
10回目	生体力学の基礎③		
11回目	姿勢と重心動揺① 基本的立位姿勢におけるアライメント		
12回目	姿勢と重心動揺② 静的・動的バランス		
13回目	姿勢と重心動揺③ 重心動揺計		
14回目	各課題のまとめと復習①		
15回目	各課題のまとめと復習②		
評価方法	出席、授業態度、課題レポート、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	基礎運動学 医歯薬出版 解剖学 医学書院		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	生理学 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義ならびに演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	人間の機能について知る。		
行動目標	<p>体の基本構造を押さえながらその基本的な働き(機能)を学ぶ。 人体の働きより臨床医学のもととなる知識を身につける。 教科書のイラスト、写真を2Dから3Dに構築しなおす。 体内で起きている見えない現象を理解する。</p>		
キーワード	人体, 機能, 日常生活		
スケジュール			
1回目/2回目	細胞の機能		
3回目/4回目	栄養の消化と吸収		
5回目/6回目	呼吸の働き		
7回目/8回目	血液の働き		
9回目/10回目	血液の循環と調節		
11回目/12回目	泌尿器の機能と調節		
13回目/14回目	体液の調節		
15回目/16回目	自律神経による調節機能		
17回目/18回目	内分泌による調節機能		
19回目/20回目	筋肉の収縮		
21回目/22回目	中枢神経系について		
23回目/24回目	末梢神経系について		
25回目/26回目	特殊感覚器の機能について		
27回目/28回目	皮膚の構造と機能および体温調節について		
29回目/30回目	生殖器		
評価方法	試験およびレポート(進行状況による)に対して、授業態度及び出席率を勘案して評価する。		
教科書	系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院		
参考書・資料等	<p>カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版 医学書院 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 医学書院</p>		
履修上の注意	<p>基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 解剖学的知識を用い、疾患を紐解くので、必要と思われる基礎知識を関連付けて復習しておくことで、よりスムーズに学習することが可能になるでしょう。</p>		

学校整理番号(110)

授業科目	生理学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義、演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	実際の人体を五感で構築する。		
行動目標	授業で学んだ人体の基本的な働き(機能)を体験する。 実験を通して人体の働きの知識を身につける。 自己の体験をもとに人体の機能を理解する。 体内で起きている見えない現象を理解する。		
キーワード	神経系, 循環器系, 消化器系		
スケジュール			
1回目	中枢神経の機能1		
2回目	中枢神経の機能2		
3回目	感覚器について1		
4回目	感覚器について2		
5回目	中枢神経の機能演習1		
6回目	中枢神経の機能演習2		
7回目	中枢神経の機能演習3		
8回目	中枢神経の機能演習4		
9回目	血液について1		
10回目	血液について2		
11回目	摂食・嚥下機能について		
12回目	摂食・嚥下機能について		
13回目	摂食・嚥下機能について		
14回目	摂食・嚥下機能について		
15回目	まとめ		
評価方法	レポート、授業態度及び出席率を総合的に評価する。		
教科書	プリントを配布		
参考書・資料等	カラー人体解剖学 構造と機能:ミクロからマクロまで 西村書店 系統看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能① 基礎運動学 第6版 医歯薬出版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 生理学 第3版 標準理学療法士・作業療法士 専門基礎分野 解剖学 第4版		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学・生理学の知識を演習により体感するためより明確に理解できる。しかしながら、演習の意図や目的を判らないまま行うことはリスクを伴い、また、知識の構築にも繋がらないので前期で学習した内容を復習しておくことが大切である。		

学校整理番号(110)

授業科目	病理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	塚本 淳智	オフィスアワー	
一般目標	理学療法士としての基礎知識を習得し、正しい理学療法を行えるようになるために、病気の成り立ちと臨床的特徴を理解する。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の正常な構造及び機能を理解する 2. 疾病の原因と臨床症状の因果関係を理解する 3. 疾病の際にその臓器や器官に生じる肉眼的及び組織学的変化を理解する 4. 疾病に対する予防や治療に関する知識を習得する 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	病理学とは		
2回目	体液の異常		
3回目	血行障害①		
4回目	血行障害②		
5回目	炎症と修復		
6回目	免疫及び免疫疾患		
7回目	感染①		
8回目	感染②		
9回目	変性・壊死・萎縮・老化①		
10回目	変性・壊死・萎縮・老化②		
11回目	腫瘍と過形成①		
12回目	腫瘍と過形成②		
13回目	先天異常		
14回目	代謝異常①		
15回目	代謝異常②		
評価方法	授業態度(出席回数含む) 定期試験		
教科書	ナーシング・グラフィカ 病態生理学 メディカ出版		
参考書・資料等	授業資料は都度配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	人間発達学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 :30～17:20
一般目標	人間は母体内から発達する。即ち、人間の一生は胎児から始まり、誕生を迎え、乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期と生涯発達することを理解することを本講義の目標とします。発達過程には生理的(身体・運動)にも、心理的にも発達します。これら基本的な発達段階とその特性を中心に講義及び実技や演習を通して学んでいきます。		
行動目標	生涯発達の観点から、胎児期・新生児期、幼児期、思春期、成年期以降から老年期にまでの標準的発達を理解し、それぞれの特徴を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション ～発達概念について～		
2回目	人間発達		
3回目	発達検査紹介 グットイナフ・日本版デンバー式スクリーニング検査		
4回目	姿勢反射/反応		
5回目	運動発達① 0～3カ月		
6回目	運動発達② 4～6カ月		
7回目	運動発達③ 7～9カ月		
8回目	運動発達④ 10～12カ月		
9回目	運動発達⑤ 13～18カ月		
10回目	姿勢反射/反応 6歳までの発達		
11回目	上肢機能(つまみ・把持)・ADL(動作)の発達		
12回目	感覚・知覚・認知・社会性の発達		
13回目	学童・青年・成人・老年期の発達①		
14回目	学童・青年・成人・老年期の発達②		
15回目	高齢者の特徴		
評価方法	出席率、授業態度(課題等を含む)、筆記試験を総合して判断します。		
教科書	イラストでわかる人間発達学 上杉雅之 医歯薬出版		
参考書・資料等			
履修上の注意	作業療法士における発達領域における入口となる講義となります。人間における発達過程の理解を深めていきましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	臨床心理学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	
一般目標	心の動きに関する基礎知識や心理学的な人間理解お手掛かりとなる理論を学び、人が適応・成長するとは何かを考える。そして、心理検査、心理療法の基礎を学び、対人援助サービスを行うための心構えを身につける。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・心の成り立ちについて、精神分析学で説明できる。 ・人間の心理的な発達の特徴を説明できる。 ・心理アセスメントの基本を理解する。 ・人間理解を通して、支援を必要とする人の気持ちに寄り添った援助ができるようになる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	ガイダンス		
2回目	防衛機制		
3回目	精神分析理論		
4回目	来談者中心療法と映画鑑賞		
5回目	来談者中心療法と映画鑑賞		
6回目	ストレス		
7回目	アセスメントと面接法		
8回目	検査法		
9回目	観察法と介入技法		
10回目	介入技法 SST		
11回目	乳児期 児童期		
12回目	思春期 青年期		
13回目	成人期 中年期 老年期		
14回目	医療領域と行動療法		
15回目	教育場面		
評価方法	定期試験:60% レポート:30%(課題は授業中に提示) 受講態度:10%		
教科書	適宜 資料を配布する		
参考書・資料等	下山晴彦(編著)『よくわかる臨床心理学』ミネルヴァ書房,2010年9月		
履修上の注意	理学(作業)療法が対象のする人達は、自分とは異なる個性や価値観を持っています。臨床心理学の知識を習得し、対象者の多様性を認め、自らの価値観の幅を広げましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	公衆衛生学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義および演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川 孝彦	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	一般的な保健医療に関する知識を持つことができる。 公衆衛生の概念を理解し、医療従事者の感染対策の知識を深めることができる。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の分類と、その感染経路について理解できる ・病気に関する基本的な部分を理解できる ・健康に関すること等基本的な部分を理解できる 		
キーワード	公衆衛生, 感染, 感染予防		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション 公衆衛生学とは		
2回目	健康の指標		
3回目	公衆衛生(1)	母子保健, 学校保健, 産業保健, 地域保健, 働く人々の健康管理, 女性の健康管理, 医療現場の感染対策, 国際保健, 精神保健, 臨床疫学とEBM, 生活習慣病, がん患者・家族への支援, 健康と栄養, 運動と健康, 東洋医学と代替医療 等	一部、各グループに分かれて演習
4回目	公衆衛生(2)		
5回目	公衆衛生(3)		
6回目	公衆衛生(4)		
7回目	公衆衛生(5)		
8回目	公衆衛生(6)		
9回目	公衆衛生(7)		
10回目	公衆衛生(8)		
11回目	公衆衛生(9)		
12回目	公衆衛生(10)		
13回目	公衆衛生(11)	各グループの発表と質疑応答	
14回目	公衆衛生(12)	各グループの発表と質疑応答	
15回目	Summary 作業療法・理学療法への課		
評価方法	原則として定期試験で評価する。ただし、場合によってはグループワーク等の受講取組態度を加味することがある。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	母子手帳や健康診断結果を用いる。 PC等を用い演習を行う。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	薬理学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	五郎丸 美智子	オフィスアワー	
一般目標	薬物の生体内における作用に関する基本的事項を修得する		
行動目標	薬の使用目的を説明できる 薬の主作用、副作用、毒性の関係を説明できる 代表的な疾患の治療薬を列記できる 代表的な疾患の治療薬について作用機序を説明できる		
キーワード			
スケジュール			
1回目	総論 薬の基本的について例をあげて学ぶ		
2回目	総論 薬の動態について学ぶ		
3回目	総論 薬効に影響する因子などについて例をあげて学ぶ		
4回目	感染症に対する代表的薬物を学ぶ		
5回目	がんの仕組みを知り、関係の薬を学ぶ		
6回目	小テストと復習		
7回目	抗炎症薬 炎症の作用機序を知り関係の薬を学ぶ		
8回目	末梢神経 副交感神経に関与する薬を学ぶ		
9回目	末梢神経 交感神経に関与する薬を学ぶ		
10回目	代謝・内分泌 内分泌・代謝に関与する薬を学ぶ		
11回目	中枢神経 全身麻酔や睡眠薬の代表的薬物を学ぶ		
12回目	中枢神経 抗うつ薬や麻薬性鎮痛薬の代表的薬物を学ぶ		
13回目	心臓・血管系の薬 高血圧などの代表的薬を学ぶ		
14回目	呼吸器系の薬 喘息などの代表的薬を学ぶ		
15回目	まとめ		
評価方法	前半授業範囲の小テスト(30%) 後半授業範囲の筆記テスト(50~60%) 出席と態度(10~20%) ※再試験は、前半・後半あわせての範囲となる。		
教科書	系統看護学 専門基礎 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 ③、吉岡充弘、医学書院		
参考書・資料等	基礎医学シリーズ 目で見る薬理学入門 第3版 vol.1-12、山崎 純一 原案監修、医学映像教育センター 今日の治療薬 2016、浦部 晶夫 他編、南江堂		
履修上の注意	薬物療法と理学療法との関わり合いに留意して授業に臨むこと。		

学校整理番号(110)

授業科目	内科・老年医学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	田崎 裕紀	オフィスアワー	
一般目標	理学療法士として必要かつ十分な内科学を修得すること		
行動目標	内科学および下記の各分野の病態生理・疾患を理解し概説できる。 免疫・アレルギー・代謝疾患		
キーワード	腎・泌尿器・アレルギー・免疫		
スケジュール			
1回目	消化器系疾患①		
2回目	消化器系疾患②		
3回目	アレルギー疾患①		
4回目	アレルギー疾患②		
5回目	自己免疫疾患①		
6回目	自己免疫疾患②		
7回目	糖尿病①		
8回目	糖尿病②		
9回目	呼吸器疾患①		
10回目	呼吸器疾患①		
11回目	循環器疾患①		
12回目	循環器疾患①		
13回目	腎・泌尿器疾患①		
14回目	腎・泌尿器疾患①		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100点) 試験は最終授業の1週間以上空けた日、もしくは既定の試験期間に行う。		
教科書	標準理学療法学・作業療法学 内科学 第3版、前田真治 他、医学書院		
参考書・資料等	講義ノート		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	栄養学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	金内 則子	オフィスアワー	
一般目標	栄養学の基礎的な知識およびライフステージや各病態に応じた栄養療法についての知識を習得し、チーム医療の一員としての力を養う。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養スクリーニング、アセスメント、栄養ケアプラン、モニタリングと評価について理解する。 ・各病態に応じた栄養療法について理解する。 		
キーワード	臨床栄養、栄養アセスメント、栄養プラン、栄養教育		
スケジュール			
1回目	栄養学の基礎		
2回目	ライフステージと栄養		
3回目	ライフステージと栄養		
4回目	栄養スクリーニング、アセスメント		
5回目	栄養ケアプラン		
6回目	摂食・嚥下機能障害と食事・栄養		
7回目	フレイル、サルコペニアと食事・栄養		
8回目	代謝・内分泌疾患の食事療法		
9回目	循環器疾患の食事療法		
10回目	腎疾患の食事療法		
11回目	消化器疾患の食事療法		
12回目	がん、周術期の食事療法		
13回目	呼吸器疾患(COPD)、食物アレルギーの食事療法、褥瘡治療と栄養		
14回目	栄養教育、臨床栄養管理とチーム医療		
15回目	総括		
評価方法	筆記試験と小テストの合算によって決定する。		
教科書	日本病態栄養学会編「病態栄養専門管理栄養士のための病態栄養ガイドブック改訂第6版」南江堂,2019		
参考書・資料等	<p><資料> 授業に必要な資料は随時配布する。</p> <p><参考書> 随時、紹介する。</p>		
履修上の注意	生理学、生化学、内科学などで学習することと関連付け、理解を深める事。		

学校整理番号(110)

授業科目	整形外科学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 :30～17:20
一般目標	整形外科学は運動器障害に関連し。作業療法として関わる運動器障害を理解するために必要な整形外科学の知識と考え方を理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ●整形外科疾患について理解する。 1)運動器の構造と機能 2)整形外科疾患の主要病因と病態 3)整形外科疾患の主要徴候と病態生理 4)整形外科的検査 5)整形外科の治療 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション ～整形外科とは～		
2回目	診療の基本 整形外科的現症の取り方		
3回目	診療の基本 検査総論 画像検査 検体検査 生体検査		
4回目	保存療法の基本		
5回目	保存療法各論		
6回目	整形外科領域における手術の特徴		
7回目	整形外科外傷学 外傷総論		
8回目	整形外科外傷学 軟部組織損傷		
9回目	整形外科外傷学 骨折・脱臼(総論)		
10回目	整形外科外傷学 小児の骨折(総論)		
11回目	脊髄損傷 総論		
12回目	関節リウマチ 総論		
13回目	末梢神経 総論		
14回目	熱傷・切断 総論		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題等を含む)、筆記試験を総合して判断します。		
教科書	中村利孝 松野丈夫 他著・「標準整形外科学 第14版」医学書院、2020年。		
参考書・資料等	適宜、提示します。		
履修上の注意	昨今の作業療法士も整形分野に関わる事が多くなっています。整形外科領域における作業療法を理解する上でも、十分に理解を深めていきましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	整形外科学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	整形外科学Ⅰでの復習も兼ね、運動器障害に多い疾患の治癒過程とその治療法の知識や考え方を理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各骨折の病態と治癒過程・方法 ・軟部組織損傷の病態と治癒過程・方法 ・上記における作業療法の実践を理解する。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	骨折(各論) 肩甲骨、鎖骨、上腕骨、前腕、手根骨、手指骨 脊柱、骨盤、大腿骨、脛骨、腓骨、足部、足趾		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目	末梢神経損傷①		
10回目	末梢神経損傷②		
11回目	皮膚・腱筋損傷		
12回目	関節リウマチとその類縁疾患①		
13回目	関節リウマチとその類縁疾患②		
14回目	切断		
15回目	熱傷		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	標準整形外科学 第13版 医学書院 著:鳥巢岳彦、国分正一		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	作業療法士においても整形疾患に関わる頻度が多くなっています。各整形疾患の病態、治療法を理解し、治療学への足掛かりとしましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	神経内科学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法の対象となる神経内科的疾患について症候や機序を理解する。		
行動目標	中枢神経系の構造と機能を理解する 神経内科疾患の症候と機序を理解する 脳画像を中心に神経系検査について理解する		
キーワード	神経内科、症候学、脳血管障害		
スケジュール			
1回目	脳の機能解剖、神経症状と神経心理症状について		
2回目	神経症候学(意識障害、頭痛、めまい、失神)		
3回目	神経症候学(錐体路徴候、錐体外路徴候)		
4回目	神経症候学(運動失調、感覚障害)		
5回目	概論-脳血管障害		
6回目	神経症候学(球症状、頭蓋内圧亢進症、てんかん)		
7回目	神経症候学(頭部外傷、脳腫瘍)		
8回目	画像のみかた①		
9回目	画像のみかた②		
10回目	画像のみかた③		
11回目	脳血管障害のリハビリテーション		
12回目	脳血管障害の予後予測		
13回目	脳神経のみかた、廃用症候群		
14回目	事例検討会		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	脳神経疾患ビジュアルブック(学研メディカル秀潤社)		
参考書・資料等	授業で使用する資料は随時配布します。 参考書 標準理学療法学・作業療法学 神経内科学(医学書院) 神経診察クローズアップ(medical view)		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	脳外科学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	高杉 潤	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	脳・神経系の構造・機能を知り、理学療法の対象となる神経系疾患を中心に、臨床徴候とそのメカニズムを理解する。脳神経外科の対象となる疾患の病態、症候の特徴、各種検査を理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害の各病態と症候、外科的治療が理解できる。 ・脳神経系の各疾患に対する外科治療の概要を理解できる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	脳画像読影の基礎(1)		
2回目	脳画像読影の基礎(2)		
3回目	脳画像読影の応用		
4回目	脳梗塞の外科的治療(1)		
5回目	脳梗塞の外科的治療(2)		
6回目	くも膜下出血の外科的治療		
7回目	脳出血の外科的治療(1)		
8回目	脳出血の外科的治療(2)		
9回目	頭部外傷の外科的治療(1)		
10回目	頭部外傷の外科的治療(2)		
11回目	水頭症		
12回目	脳腫瘍の臨床と治療		
13回目	機能的脳外科(1)		
14回目	機能的脳外科(2)		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100点)と授業態度(出席状況等)との合算によって決定する。		
教科書	脳神経疾患ビジュアルブック(学研メディカル秀潤社)		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	神経系に関する解剖学、生理学の知識が備わっていること。		

学校整理番号(110)

授業科目	臨床検査・画像学	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	画像診断を行う為の様々な検査法(単純・造影X線写真、CT、MRI、超音波検査、血管撮影など)の原理と臨床応用の実際について学ぶ。		
行動目標	リハビリテーション分野での主な対象である骨関節疾患、脳血管障害をはじめとする神経疾患などの画像診断の特徴的な所見などについて学習する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	画像診断学総論		
2回目	造影X線・MRI・CT写真の原理と臨床の実際(1)		
3回目	造影X線・MRI・CT写真の原理と臨床の実際(2)		
4回目	骨関節障害について 脊柱(1)		
5回目	骨関節障害について 脊柱(2)		
6回目	骨関節障害について 上肢・下肢(1)		
7回目	骨関節障害について 上肢・下肢(2)		
8回目	脳梗塞とその他の脳障害(1)		
9回目	脳梗塞とその他の脳障害(2)		
10回目	脳出血、その他の脳障害(1)		
11回目	脳出血、その他の脳障害(2)		
12回目	内臓 X線画像・CT・MRIでの基本部位の確認(1)		
13回目	内臓 X線画像・CT・MRIでの基本部位の確認(2)		
14回目	内臓 疾患の読み取り方(1)		
15回目	内臓 疾患の読み取り方(2)		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	基礎から学ぶ画像の読み方 医歯薬出版		
参考書・資料等	画像コンパクトナビ 医学教育出版		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	精神医学	履修年次	1年次・2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法士としての基礎知識を習得し、正しい治療が行えるようになる為、主な精神疾患の症状・診断・治療について理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科のリハビリテーションにおける臨床精神医学の役割を説明できる。 ・日本における精神医療の現状を説明できる。 ・精神疾患の病態について説明できる ・精神疾患の治療について説明できる。 		
キーワード			
スケジュール			
1・2回目	精神医学とは 精神障害の成因と分類/精神機能の障害と精神症状		
3・4回目	精神障害の診断と評価/統合失調症及び関連障害①		
5・6回目	気分(感情)障害/神経症性障害・生理的障害・身体的要因に関連した障害		
7・8回目	成人のパーソナリティ障害・行動・性障害/精神作用物質による精神・行動障害		
9・10回目	器質性精神障害 症状性精神障害/精神発達遅滞 心理的発達の障害		
11・12回目	生理的障害及び身体的要因に関連した障害/てんかん		
13・14回目	リエゾン精神医学 心身医学/ライフサイクルにおける精神医学		
15・16回目	精神障害の治療とリハビリテーション①		
17・18回目	統合失調症及び関連障害②		
19・20回目	気分障害②/神経症性障害②		
21・22回目	精神作用物質による精神・行動障害②		
23・24回目	精神発達遅滞 心理的発達障害②		
25・26回目	生理的障害及び身体的要因に関連した障害/てんかん②		
27・28回目	精神障害の治療とリハビリテーション②		
29・30回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	特に無し		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	運動学 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	佐藤真吾	オフィスアワー	月～金曜日 9時～17時
一般目標	理学療法の基礎となる、体の運動はどのようにして活動しているのかを理解する。 他の知識へ関連付けられる。		
行動目標	動きの仕組みを述べる(認知領域) 動きのもととなる運動法則を説明する(認知領域) 運動法則同士を関連付ける(認知領域)		
キーワード	運動学、運動、モーメント、物理法則、運動法則、身体とてこ		
スケジュール			
1回目	運動学とは		
2回目	運動学を学ぶための基礎知識		
3回目	運動学を学ぶための基礎知識		
4回目	運動学を学ぶための基礎知識		
5回目	生体力学の基礎①<身体運動と力学、時間と空間>		
6回目	生体力学の基礎①<身体運動と力学、時間と空間>		
7回目	生体力学の基礎②<運動学的分析>		
8回目	生体力学の基礎③<円運動、モーメント>		
9回目	生体力学の基礎③<円運動、モーメント>		
10回目	生体力学の基礎④<筋力と重力>		
11回目	生体力学の基礎⑤<運動法則>		
12回目	生体力学の基礎⑤<運動法則>		
13回目	生体力学の基礎⑥<仕事とエネルギー、骨と関節の運動>		
14回目	生体力学の基礎⑦<身体とてこ>		
15回目	生体力学の基礎⑦<身体とてこ>		
評価方法	途中で小テストを実施5回(50点分) 筆記試験(50点) ※ただし、授業態度により2回目以降の注意からは毎回5点減点		
教科書	基礎運動学 第6版 補訂、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート、中村雅美、医歯薬出版株式会社 PT・OTのための運動学テキスト、小柳磨毅 他編、金原出版株式会社 消して忘れない 運動学 要点生理ノート、福井勉 他編、羊土社		
履修上の注意	基本を板書とします。教科書の他には必ずノートを持ってきてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	運動学Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法の基礎となる、体の運動はどのようにして活動しているのかを理解する。 他の知識へ関連付けられる。		
行動目標	動きの仕組みを述べる(認知領域) 動きのもととなる運動法則を説明する(認知領域) 運動法則同士を関連付ける(認知領域)		
キーワード	運動学、運動、モーメント、物理法則、運動法則、身体とてこ		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	上肢帯		
3回目	肩関節		
4回目	肘関節		
5回目	手関節		
6回目	骨盤帯		
7回目	股関節		
8回目	膝関節		
9回目	足関節		
10回目	顔面		
11回目	体幹		
12回目	体幹		
13回目	体幹		
14回目	体幹		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	基礎運動学 第6版 補訂、中村隆一 齊藤宏 長崎浩 著、医歯薬出版株式会社		
参考書・資料等	PT・OT 基礎から学ぶ運動学ノート、中村雅美、医歯薬出版株式会社 PT・OTのための運動学テキスト、小柳磨毅 他編、金原出版株式会社 消して忘れない 運動学 要点生理ノート、福井勉 他編、羊土社 カラー版カパンジー機能解剖学 原著第6版 I上肢 II下肢 III脊椎・体幹・頭部、A.I.Kapandji, 医歯薬出版 筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版, Donald A.Neumann, 医歯薬出版		
履修上の注意	筋・骨格系の解剖学の復習をしておくとう理解が深まります。質問がある時は、その場で聞いてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	運動学Ⅲ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	運動学習について理解する		
行動目標	運動の企画を理解する 運動制御を理解する 運動を覚える方法について理解する		
キーワード	運動企画、運動制御、運動学習		
スケジュール			
1回目	運動学習とは		
2回目	運動学習のメカニズム		
3回目	運動学習と脳		
4回目	運動学習と脳②		
5回目	運動学の基礎知識		
6回目	四肢・体幹の運動学		
7回目	小脳と運動学習		
8回目	寝返り・起き上がり動作		
9回目	歩行の基礎知識		
10回目	歩行の基礎知識②		
11回目	運動学習のまとめ		
12回目	バランス制御と運動学習		
13回目	動作のみかた		
14回目	まとめ		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	基礎運動学 第6版 補訂, 中村隆一・齋藤宏・長崎浩 著, 医歯薬出版		
参考書・資料等	授業で使用する資料は随時配布します。 必要な教科書や資料は随時お知らせします。		
履修上の注意	出来る限り主体的に、積極的に参加するようにしてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	予防医学	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	藤川孝彦(第1種衛生管理者)	オフィスアワー	8:30~16:30
一般目標	高齢化社会が進展する中で健康寿命を延伸するには、病気を治療することに加えて、病気にかからないための方略すなわち予防が必要です。作業療法学・理学療法学においても、障害の治療や受容を促すものから、さらに疾病や老年症候群の予防へと発展していかなければなりません。社会的ニーズに応じていくために、作業療法・理学療法を予防という観点から学習します。		
行動目標	予防リハビリテーション医学に関連する知識をより深く理解する。 疫学の体系を理解する。 保健統計の種類と目的を理解する。 授業を通して予防の重要性を学ぶ。また、子どもから高齢者に至るまでのライフスタイルにおいて、心身機能の維持および向上に繋がる必要性を学ぶ。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	予防医学概説		
2回目	予防医学(1)	老化の特徴、小児の特徴、高齢者の虚弱、認知症予防 労働災害(腰痛)再発予防 メンタルヘルス 行動科学 介護予防 他	一部、各グループに分かれて演習
3回目	予防医学(2)		
4回目	予防医学(3)		
5回目	予防医学(4)		
6回目	予防医学(5)		
7回目	予防医学(6)		
8回目	予防医学(7)		
9回目	予防医学(8)		
10回目	予防医学(9)		
11回目	予防医学(10)		
12回目	予防医学(11)	各グループの発表と質疑応答	
13回目	予防医学(12)	各グループの発表と質疑応答	
14回目	作業療法・理学療法への課題		
15回目	Summary		
評価方法	成績考査試験を参考に、学習意欲、学習態度および授業内容の把握・演習の取組などを総合して評価する。		
教科書	「テキスト」は使用せず、資料を随時配布する。また、参考図書を紹介していく。		
参考書・資料等	随時紹介する。		
履修上の注意	医療制度や介護保険の知識は作業療法・理学療法に携わるうえで密に直結するため、しっかりと理解が必要である。日頃から医療や福祉に関する興味を持つことで時事問題を知ることも必要であるので時事問題には興味をもって履修すること。		

学校整理番号(110)

授業科目	小児科学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・グループワーク	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	小児期に生じる疾患及び障害の特徴をまとめ理解を深める。		
行動目標	小児疾患の徴候や評価内容を説明できる。 実技演習を通して運動学的に運動発達を見直し説明できる。 神経学的評価を説明し実施できる。 摂食嚥下機能を理解し、摂食嚥下障害リハビリテーションを理解する。 障害児に対する療育(ハビリテーション)の理解を深める 障害児を持つご両親ご家族支援について理解を深める		
キーワード			
スケジュール			
1回目	小児学総論		
2回目	評価学		
3回目	発達段階		
4回目	身体の発育と運動器官の成長		
5回目	原始反射/病的反射/姿勢反応		
6回目	重症心身障害児・小児疾患①		
7回目	重症心身障害児・小児疾患②		
8回目	重症心身障害児・小児疾患③		
9回目	療育と家族支援①		
10回目	療育と家族支援②		
11回目	摂食・嚥下①		
12回目	摂食・嚥下②		
13回目	摂食・嚥下のリハビリテーション①		
14回目	摂食・嚥下のリハビリテーション②		
15回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	特に無し		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	基礎知識として、解剖学・運動学の知識はより重要となる。 実技演習を行うため、動きやすい服装で参加していただきたい。		

授業科目	救急救命学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	石塚 光宣	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	救急医療や災害医療、病院前医療の体制についての知識を習得する。 救急救命処置に必要な観察や緊急度・重症度判断、資機材による観察についての知識を修得する。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 緊急・災害・病院前医療体制について理解し、説明ができる。 2. 一般的な症状や重篤な症状の観察方法・緊急度・重症度判定について理解し、説明ができる。 3. 資機材による観察方法を理解し、説明ができる。 4. 救急救命処置の基本を理解し、説明ができる。 5. 救急蘇生法の基本を理解し、説明ができる。 		
スケジュール			
1回目	緊急医療体制		
2回目	災害医療体制		
3回目	病院前医療体制		
4回目	観察		
5回目	現場活動の基本		
6回目	全身状態の観察		
7回目	局所の観察		
8回目	緊急度・重症度判断		
9回目	資機材による観察(1)		
10回目	資機材による観察(2)		
11回目	救急救命処置法(1)		
12回目	救急救命処置法(2)		
13回目	救急蘇生法(1)		
14回目	救急蘇生法(2)		
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100%)と出席率等を考慮して総合的に評価する。		
教科書	教材を適宜配布する。		
参考書・資料等	救急救命士標準テキスト・上巻下巻(へるす出版) 日本救急医学会ICLSコースガイドブック(羊土社)		
履修上の注意	特になし。		

学校整理番号(110)

授業科目	リハビリテーション概論 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月・水・金9:00～17:20
一般目標	リハビリテーション・作業療法が生まれた背景や語源の意味, リハビリテーション・作業療法とは何かを理解できる。		
行動目標	リハビリテーション・作業療法の歴史を説明できる。 ノーマライゼーション・IL運動をする説明できる。 疾病・生活機能の概念と分類を説明できる。 作業療法の対象となる人々を説明できる。 多岐にわたる領域の作業療法を説明できる。		
キーワード	障がい者、全人間的復権、多職種連携		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	リハビリテーションの概念		
3回目	リハビリテーションの歴史		
4回目	リハビリテーションの理念の形成		
5回目	生活機能の概念と分類		
6回目	チーム医療と多職種連携		
7回目	リハビリテーションの進め方		
8回目	リハビリテーションに関する評価		
9回目	作業療法(士)の定義と作業療法		
10回目	作業療法の歴史		
11回目	作業療法の対象		
12回目	作業療法の実際		
13回目	領域別作業療法の実際		
14回目	作業療法の過程		
15回目	精神障害総論		
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、レポート、筆記試験にて判断します。		
教科書	中村隆一:入門リハビリテーション概論第7版 医歯薬出版 2009 杉原素子編集:作業療法学全書 第1巻 作業療法概論 社団法人日本作業療法士協会監修 協同医書出版社		
参考書・資料等	随時、資料を配布します。		
履修上の注意	リハビリテーション・作業療法とは何か、どのような環境でどのようなことをするお仕事なのかを学びます。 学生さんが将来なりたい理学・作業療法士をイメージしながら聞いて下さい。		

学校整理番号(110)

授業科目	リハビリテーション概論Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	リハビリテーション職として他職種との関わり及び連携について理解を深め、また社会保障制度に関する理解を図る。		
行動目標	リハビリテーションに関わる他職種を知り、作業療法士との連携を理解する。 リハビリテーションに関わる社会保障制度を知り、理解する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	作業療法の実施過程① ～事例を通して～ グループワーク		
2回目	作業療法の実施過程② ～事例を通して～ グループワーク		
3回目	作業療法の対象と領域① 身体・精神領域の作業療法		
4回目	作業療法の対象と領域② 発達・老年領域の作業療法		
5回目	作業療法の対象と領域③ 地域領域の作業療法		
6回目	関連制度と関連法規① 医療・介護保険制度		
7回目	関連制度と関連法規② 自立支援給付、訓練等給付、地域生活支援事業		
8回目	関連制度と関連法規③ 特別支援教育、生活困窮者自立支援制度		
9回目	多職種との連携① 医療機関で連携していく職種・役割		
10回目	多職種との連携② 地域リハビリテーションで連携していく職種・役割		
11回目	多職種との連携③ 医療機関・地域での作業療法士の役割を知る		
12回目	多職種との連携④ 連携 まとめ		
13回目	地域包括ケアシステム①		
14回目	地域包括ケアシステム②		
15回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	改定第2版 佐f業療法ゴールドマスターテキスト 作業療法学概論		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	社会福祉学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	医療・福祉関係を主としたフィールドで活躍する作業療法士として、これらの諸制度の知識は必要である。その為、本講義では社旗福祉の概要を歴史から現在の各制度の特徴や問題点について理解することを目標とする。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉活動の歴史的背景を理解する。 ・作業療法周辺の社会福祉について理解する。 ・社会福祉の役割について理解する。 ・関係機関との連携について理解する。 		
キーワード	福祉 関連法 障害と作業療法		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション 人間と福祉 福祉とは…		
2回目	福祉活動の歴史(日本)		
3回目	福祉活動の歴史(西洋)		
4回目	福祉領域と関連法		
5回目	福祉対象の分野		
6回目	F.バイステック 7つの原則		
7回目	介護保険法と障害者総合支援法(1)		
8回目	介護保険法と障害者総合支援法(2)		
9回目	作業療法士と介護保険法		
10回目	作業療法士と障害総合支援法		
11回目	社会福祉援助活動における専門性と倫理		
12回目	社会福祉の領域と施策		
13回目	身体障害者福祉法 手帳申請		
14回目	社会福祉の課題		
15回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	特に無し。		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	医療制度や介護保険の知識は作業療法に携わるうえで密に直結する為、しっかりと理解が必要である。日頃から医療や福祉に関する興味を持つことで、時事問題を知ることも必要であるので、時事問題には興味を持って履修すること。		

学校整理番号(110)

授業科目	障害者支援論	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法の一環として行われる職業関連活動の目的、職業関連活動に関する評価、指導計画、指導の実際に必要な基本的な知識・技術とともに、職業関連活動に関わる法律や制度・サービス等の社会資源についても学び、障害者支援における作業療法士の役割について理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・職業リハビリテーションや作業療法について説明できる。 ・就労に必要な基本的能力をあげられる。 ・精神障害者が就労することにおける課題をあげられる。 ・職業関連動作に関する評価について説明・実施ができる。 ・障害者の就労における課題について明確にできる。 ・就労支援における作業療法士の役割を明確にできる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	職業リハビリテーションと作業療法	作業療法と働く支援を考える	MTDLP・作業モデル
2回目		障害者の働き方と作業療法士の関わり方	
3回目		ICFから作業療法を考える	
4回目	環境に向けた支援	障害者の働く環境について考える	
5回目		企業就労(特例子会社など)	
6回目		就労支援A/B型・就労移行事業所及び社会資源	
7回目	職業関連活動に関する評価	職業関連活動に関する評価法	
8回目		一般職業適性検査	
9回目	法律と制度	障害者雇用促進法、障害者総合福祉法	
10回目	精神障害領域	精神領域の職業関連活動における作業療法士の役割	
11回目		事例検討	
12回目	個人に向けた支援	自己決定の支援、職業準備性の育成	
13回目		指令検討	
14回目		発表	
15回目	まとめ		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	ゴールドマスターテキスト 作業療法概論 メディカルビュー 作業療法評価学 医学書院		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	基礎作業療法総論	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 :30～17:20
一般目標	作業療法における「作業」の個人的意味を理解し、ひとと作業と環境の相互作用の結果としての作業遂行を考え、個々人における「作業」の意義を考慮し、実践できるように学習する。種々の作業活動について、作業の遂行、必要な道具・材料、工程等を学ぶ。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.作業療法における「作業」を理解できる。 2.作業療法における「作業」の個人的意味合いを理解できる。 3.人と作業と環境の相互作用を理解できる。 4.作業遂行において必要なものを考えることができる。 5.個々人における「作業」の意義を考え、実践する上での基礎知識を理解する。 6.作業活動に必要な道具、材料、行程を説明できる。 7.作業の特性、体験した作業についての肯定的側面と否定的側面を挙げる事ができる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション ひとと作業の関わり		
2回目	作業学総論 作業と個人的意味		
3回目	作業療法における作業の活用の歴史		
4回目	健康と作業		
5回目	作業の治療への適応 作業を遂行するための理解		
6回目	作業分析とは…		
7回目	指導法		
8回目	作業活動 自分史作り①		
9回目	作業活動 自分史作り②		
10回目	作業活動 自分史作り③		
11回目	自分史作り 発表①		
12回目	自分史作り 発表②		
13回目	まとめ		
14回目	人と作業 オリエンテーション		
15回目	レポートの書き方について…		
評価方法	出席率、授業態度(課題・発表・レポート)にて判断します。 ※筆記試験無し		
教科書	作業学 [作業療法学ゴールドマスターテキスト] 第3版 メディカルビュー社		
参考書・資料等	作業 その治療的応用 改定第2版 協同医書出版社		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法研究法 I	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	論文を検索できる 論文を熟読できる。		
行動目標	必要な文献を検索して見つけだすことができる。 論文が読めるようになる。		
キーワード	論文 文献検索 プレゼンテーション		
スケジュール			
1回目	研究法総論		
2回目	論文の紹介とその解説		
3回目	論文の紹介とその解説		
4回目	抄読会用レジュメの作成方法		
5回目	抄読会用レジュメの作成方法		
6回目	抄読会用プレゼンテーションの作成方法		
7回目	抄読会用プレゼンテーションの作成方法		
8回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成		
9回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成		
10回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成		
11回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成		
12回目	抄読会レジュメおよびプレゼンテーションの作成		
13回目	研究法Ⅱにおける実験の組み立て方		
14回目	抄読会(発表)		
15回目	抄読会(発表)		
評価方法	プレゼンテーションおよびレジュメを評価。また、授業態度及び出席率を勘案して評価する。		
教科書	各自が作成した資料を配布		
参考書・資料等	はじめての研究法コ・メディカルの研究法入門 第2版 神陵文庫		
履修上の注意	各項目を理解し、解りやすく表現すること。 文章の意味を的確に伝えられることと説明の仕方を工夫すること。		

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法研究法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習・PBL	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<p>1. 実験手技の構築を学ぶ 2. 実際の論文作成を理解する。</p>		
行動目標	<p>研究テーマの立案が出来る。 実験方法の構築が出来る。 結果や文献から統合と解釈することができる。</p>		
キーワード	神経系, 循環器系, 消化器系		
スケジュール			
1回目	文献検索及び作成準備1		
2回目	文献検索及び作成準備2		
3回目	文献検索及び作成準備3		
4回目	文献検索及び作成準備4		
5回目	文献検索及び作成準備5		
6回目	文献検索及び作成準備6		
7回目	結果の分析1		
8回目	結果の分析2		
9回目	結果の分析3		
10回目	結果の分析4		
11回目	論文の作成1		
12回目	論文の作成2		
13回目	論文の発表1		
14回目	論文の発表2		
15回目	論文の発表3		
評価方法	研究論文、授業態度及び出席率を総合的に評価する。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	コ・メディカルの研究法入門 はじめての研究法 第2版 神陵文庫		
履修上の注意	<p>文献検索から医療現場での疑問に対する根拠付けを意識すること。 論文の書き方から、①デイリーのまとめ方や②レポートの作成を視野に入れて学習すること。 英文検索など日本語以外の検索も考え学習すること。</p>		

学校整理番号(110)

授業科目	統合作業療法学	履修年次	3年次
		単位数	3単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	90時間(45コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	生活行為向上マネジメントの概念のもと。提示された症例の全体像を把握し、現状の能力や生活行為を妨げている要因の分析、それにもとづいた目標設定、治療プログラム立案という一連の作業療法の流れを体験する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・提示された疾患の基礎知識を自身で調べることが出来る。 ・必要な情報を考え、情報を得ることが出来る。 ・情報収集から得た情報から動作の確認が行える。 ・評価計画の立案、評価の目的・留意点を踏まえ、実施できる。 ・評価結果の仮説の立証と結果の解釈ができる。 ・目標と目標に合わせた治療プログラムが立案できる。 		
キーワード			
スケジュール			
1・2・3回目	オリエンテーション、症例提示と調べ学習		
4・5・6回目	基礎・医学的・社会的情報の収集		
7・8・9回目	基本的動作・ADL観察		
10・11・12回目	動作・活動観察からの臨床推論		
13・14・15回目	評価計画の立案		
16・17・18回目	評価目的・留意点の確認、評価実施①		
19・20・21回目	結果の解釈①		
22・23・24回目	評価目的・留意点の確認、評価実施②		
25・26・27回目	結果の解釈②		
28・29・30回目	評価目的・留意点の確認、評価実施③		
31・32・33回目	結果の解釈③		
34・35・36回目	現状の課題と生活行為を妨げている要因の整理		
37・38・39回目	ゴール及びプログラム立案①		
40・41・42回目	ゴール及びプログラム立案②		
43・44・45回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、課題レポートなど、総合的に判断します。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	体験を通して、一連の作業療法思考過程を理解できるよう取り組むこと。		

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法業務運営管理Ⅰ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法士とし勤務し、より良い作業療法を提供するには、所属する部門の管理・運営について学ぶこと以外に、さまざまな知識が必要になる。管理・運営の基本としてリスクマネジメントや感染予防、また患者様やスタッフ間のコミュニケーションスキルなどについて幅広く学ぶ。		
行動目標	作業療法士の仕事について理解すること。国家資格取得後に携わる作業療法部門の管理運営に必要な基礎的理論と知識を学び、リーダーとしての作業療法士になっていくために何が重要なのかを考察できることが目標です。積極的に授業を受けることで、作業療法士養成校の学生として知識を身に付け職業倫理を高める態度を養い成長することができることも目標です。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション(管理の意義と目的について 作業療法管理の基本的視点)		
2回目	良質な医療の提供に必要なこととは ①(コミュニケーション能力・コーチング)		
3回目	良質な医療の提供に必要なこととは ②(BSC SWOT 病院機能評価 ISO9000 他)		
4回目	社会保障制度(日本と世界)		
5回目	職場管理(1) 人事管理、物品管理、情報管理		
6回目	職場管理(2)理学療法業務、診療記録管理、リスク管理		
7回目	医療保険について(診療報酬について)と介護保険制度(介護報酬について) ①		
8回目	医療保険について(診療報酬について)と介護保険制度(介護報酬について) ②		
9回目	医療保険について(診療報酬について)と介護保険制度(介護報酬について) ③		
10回目	介護サービス 地域包括ケアシステム		
11回目	診療記録 ①		
12回目	診療記録 ②		
13回目	リスク管理(転倒 その他)		
14回目	リスク管理(感染予防)		
15回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問があれば調べること。 ・作業療法士の職務について患者様の評価・治療に関する知識のみでなく、幅広く就職後に必要とされる内容について学習します。積極的に授業に参加して下さい。 		

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法業務運営管理Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法士とし勤務し、より良い作業療法を提供するには、所属する部門の管理・運営について学ぶこと以外に、さまざまな知識が必要になる。管理・運営の基本としてリスクマネジメントや感染予防、また患者様やスタッフ間のコミュニケーションスキルなどについて幅広く学ぶ。		
行動目標	作業療法士の仕事について理解すること。国家資格取得後に携わる作業療法部門の管理運営に必要な基礎的理論と知識を学び、リーダーとしての作業療法士になっていくために何が必要なかを考察できることが目標です。積極的に授業を受けることで、作業療法士養成校の学生として知識を身に付け職業倫理を高める態度を養い成長することができることも目標です。		
キーワード	スケジュール		
1回目	オリエンテーション 医療福祉従事者としての心構え		
2回目	専門職としての職業倫理(1)		
3回目	専門職としての職業倫理(2)		
4回目	業務管理・人事管理・物品管理(1)		
5回目	業務管理・人事管理・物品管理(2)		
6回目	記録と報告の必要性		
7回目	記録・報告の実用例		
8回目	ハラスメント・リスクマネジメント(1)		
9回目	ハラスメント・リスクマネジメント(2)		
10回目	ハラスメント・リスクマネジメント(3)		
11回目	診療報酬・施設基準		
12回目	作業療法士の育成・管理、多職種との連携(1)		
13回目	作業療法士の育成・管理、多職種との連携(2)		
14回目	作業療法士の育成・管理、多職種との連携(3)		
15回目	作業療法における業務管理運営とは…		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	作業療法概論 作業療法学ゴールドマスターテキスト1 メディカルビュー		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法評価法 I	履修年次	1年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 :30～17:20
一般目標	作業療法評価について、作業療法及びリハビリテーション医療を展開するうえでの評価の意義の理解を深め、安全で疾患に合わせた適切な検査・測定を習得する。		
行動目標	障害モデルと作業療法評価の関連について説明できる。 臨床的思考決定過程のなかで理学療法評価の目的や意義を説明できる。 ①各検査において適切なオリエンテーションができる。 ②各検査において検査・測定器具を正しく取り扱うことができ、測定肢位を適切に選択することができる。 ③各検査において検査・測定結果を適切に解釈することができる(適切に検査・測定を行うことができる)。 ④各検査において検査・測定方法、検査・測定結果を説明できる。		
キーワード			
スケジュール			
1・2回目	作業療法評価総論、情報収集・面接)		
3・4回目	血圧		
5・6回目	協調性検査		
7・8回目	筋緊張・疼痛検査		
9・10回目	Br-STAGE		
11・12回目	感覚検査		
13・14回目	上肢機能検査		
15・16回目	形態測定		
17・18回目	反射検査(姿勢・腱・病的反射)		
19・20回目	姿勢評価		
21・22回目	ADL評価		
23・24回目	認知機能評価(HDS-R、MMSE)		
25・26回目	作業分析 総論		
27・28回目	作業分析 総論		
29・30回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題等を含む)、筆記試験を総合して判断します。		
教科書	作業療法評価学 第3版 医学書院 ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版 南山堂		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	作業療法を実践するうえで、必要不可欠な科目となります。 クライアントへ検査の目的・方法を説明できるようにするとともに、結果の解釈をしっかりと理解し、実践できるようにしましょう。		

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法評価法Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	安全に配慮し、対象者に最小限の負担となるよう検査・測定を行う為の手順と必要な基礎知識を字付きを交えて習得する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各種の検査・測定の目的と概要を他者に説明できる。 ・各種の検査・測定の手順を学生同士で再現できる。 ・各種の検査・測定の実施上の留意点を述べる事ができる。 ・各種の検査・測定の結果を文書・口頭で説明することができる。 		
キーワード			
スケジュール			
1・2回目	作業療法評価の流れ		
3・4回目	中枢神経系 評価まとめ(1)		
5・6回目	中枢神経系 評価まとめ(2)		
7・8回目	評価計画の立案・実践		
9・10回目	実践的な記録 SOAP		
11・12回目	基本動作分析 寝返り 指導方法・介助方法(1)		
13・14回目	基本動作分析 寝返り 指導方法・介助方法(2)		
15・16回目	基本動作分析 起き上がり 指導方法・介助方法(1)		
17・18回目	基本動作分析 起き上がり 指導方法・介助方法(2)		
19・20回目	基本動作分析 立ち上がり 指導方法・介助方法(1)		
21・22回目	基本動作分析 立ち上がり 指導方法・介助方法(2)		
23・24回目	基本動作分析 歩行 指導方法・介助方法(1)		
25・26回目	基本動作分析 歩行 指導方法・介助方法(2)		
27・28回目	基本動作分析 歩行 指導方法・介助方法(3)		
29・30回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、課題レポートなど、総合的に判断します。		
教科書	動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 編;石井慎一郎		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	領域別作業療法評価学Ⅰ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神疾患の対象理解とリハビリテーションの概念を踏まえ、作業療法の理論と構造、技術及び作業療法評価の基礎を理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・作業療法の流れ、作業療法の導入のポイント、治療の構造を理解する。 ・個人・集団の治療因子、治療構造の仕組みを知る。 ・回復段階の流れを理解する。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	作業療法の対象、支援と援助、評価の基礎		
2回目	精神領域における評価の目的		
3回目	情報収集、面接・観察法		
4回目	面接技法、OSCE面接の体験		
5回目	集団における評価		
6回目	評価技術 精神科で使用される評価法の概要(1)		
7回目	評価技術 精神科で使用される評価法の概要(2)		
8回目	評価技術 NPI興味関心リスト・HTPテスト(1)		
9回目	評価技術 NPI興味関心リスト・HTPテスト(2)		
10回目	評価技術 OSAⅡ・LASMI(1)		
11回目	評価技術 VQ・REHAB(1)		
12回目	症例検討 面接通して評価、焦点化、治療計画(1)		
13回目	症例検討 面接通して評価、焦点化、治療計画(2)		
14回目	症例検討 面接通して評価、焦点化、治療計画(3)		
15回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、課題レポートなど、総合的に判断します。		
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト6 精神障害と作業療法		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	講義に積極的に取り組むこと。		

学校整理番号(110)

授業科目	領域別作業療法評価学Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神障害領域の作業療法の対象となる疾患の臨床像と精神特性、疾患別作業療法の治療目的について理解する。認知症及び児童期精神障害を含む。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患の理解(心身機能・活動制限・参加制約)する。 ・精神障害の分類を理解する。 ・各精神疾患の評価、作業療法の目的・対応・治療を理解する。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	神経症圏の作業療法 疾患理解・分類		
2回目	神経症圏の作業療法 評価・目的		
3回目	神経症圏の作業療法 対応・治療①		
4回目	神経症圏の作業療法 対応・治療②		
5回目	事例検討 神経症圏疾患		
6回目	摂食障害の作業療法 疾患理解・分類		
7回目	摂食障害の作業療法 評価・目的		
8回目	摂食障害の作業療法 対応・治療①		
9回目	摂食障害の作業療法 対応・治療②		
10回目	事例検討 摂食障害		
11回目	パーソナリティ障害の作業療法 疾患理解・分類		
12回目	パーソナリティ障害の作業療法 評価・目的		
13回目	パーソナリティ障害の作業療法 対応・治療①		
14回目	パーソナリティ障害の作業療法 対応・治療②		
15回目	事例検討 パーソナリティ障害		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト6 精神障害と作業療法		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	日常生活活動論	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	生活行為向上マネジメントの概要、基本的な実施手順について学ぶ		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活行為向上マネジメントの背景、理論的位置付け、用語について理解する。 生活行為の考え方と生活行為の障害について理解し、説明できる。 生活行為向上マネジメントのプロセスについて理解する。 生活行為向上マネジメントのプロセスに基づき、各シートに記載ができる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	生活行為向上マネジメント 概要		
2回目	生活行為向上マネジメント 考え方①		
3回目	生活行為向上マネジメント 考え方②		
4回目	生活行為向上マネジメント プロセス① インテーク・アセスメントにおける流れ		
5回目	生活行為向上マネジメント プロセス② 情報収集、ICF分析、予後予測、合意形成		
6回目	生活行為向上マネジメント プロセス③ 課題抽出、目標設定の流れ		
7回目	生活行為向上マネジメント プロセス④ 課題抽出、目標設定の流れ		
8回目	生活行為向上マネジメント プロセス⑤ プランニング・プラン実行		
9回目	生活行為向上マネジメント プロセス⑥ モニタリング・計画修正・生活行為引継ぎ		
10回目	生活行為向上マネジメント 模擬事例①		
11回目	生活行為向上マネジメント 模擬事例②		
12回目	生活行為向上マネジメント 模擬事例③		
13回目	生活行為向上マネジメント 模擬事例④		
14回目	生活行為向上マネジメント 事例まとめ①		
15回目	生活行為向上マネジメント 事例まとめ②		
評価方法	出席、授業態度、課題レポートなど、総合的に判断します。		
教科書	OTマニュアル 57 生活行為向上マネジメント 第3版 三報社印刷 著:作業療法士協会		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

授業科目	作業療法演習 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	関節可動域の特徴、決定要素を理解し、安全で疾患に合わせた適切な関節可動域検査を習得する。		
行動目標	基本軸と移動軸、および参考可動域角度を説明できる。 健全人の関節可動域を測定できる。 適切な記録、および学術的資料として活用できる。 関節の機能状態を客観的に把握し、その制限因子を考察できる。 日常生活と関節可動域の関連について説明できる。		
キーワード	関節可動域, 基本軸, 移動軸, 参考可動域, 代償動作		
	スケジュール		
1回目	関節運動の基本		
2回目	関節可動域測定の定義と目的		
3回目	肩甲帯(屈曲・伸展、挙上・下制)		
4回目	肩関節(屈曲・伸展、外転・内転)		
5回目	肩関節(外旋・内旋)		
6回目	肩関節(水平屈曲・水平伸展)、肘関節(屈曲・伸展)		
7回目	前腕(回内・回外)、手関節(掌屈・背屈、橈屈・尺屈)		
8回目	股関節(屈曲・伸展、外転・内転)		
9回目	股関節(外旋・内旋)、膝関節(屈曲・伸展)		
10回目	足関節(底屈・背屈)、足部(外転・内転)		
11回目	足部(内がえし・外がえし)、頸部(屈曲・伸展)		
12回目	頸部(側屈、回旋)、胸腰部(屈曲・伸展)		
13回目	胸腰部(側屈、回旋)、母指(橈側外転・尺側内転、掌側外転・掌側内転)		
14回目	手指(屈曲・伸展、外転・内転)、足趾(屈曲・伸展)		
15回目	日常動作と関節可動域		
評価方法	出席率、授業態度(課題等含む)、実技試験、筆記試験にて判断します。		
教科書	作業療法評価学 第3版, 編集:能登 真一 他, 医学書院		
参考書・資料等	授業で使用する資料は随時配布します。 必要な教科書や資料は随時お知らせします。		
履修上の注意	実技の講義の際は、KCを着用し、実習に臨む容姿で受講すること。 各授業のはじめに前回の授業内容の復習の小テストを行います。 授業後に行った内容を復習するようにしましょう。		

授業科目	作業療法演習Ⅱ	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	徒手筋力検査法は運動や行動の基礎的要素としての筋の力と機能を評価する手技を示したものである。徒手筋力テストはセラピストにとって重要な基本手技であり、修得しなければならない技術である。		
行動目標	<p>本講義では下記に示す内容を到達目標に講義を進める。</p> <p>①検査法の理念・原則を十分に理解し説明することができる。</p> <p>②想定される患者、対象者に対しテキストに示された手技を実施できる。</p> <p>③実習に出た際に与えられた時間内に、速やかに検査を遂行することができる。</p> <p>④国家試験に沿った知識の理解を深める。</p> <p>【行動目標】</p> <p>徒手筋力検査の目的・判断基準・基本的手順を理解する。代償動作・固定と抵抗など基本的な注意事項を理解する</p>		
キーワード	原則を踏まえた手技の履行 臨床での応用 徒手筋力テスト		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション MMT総論		
2回目	肩甲骨外転と上方回旋、肩甲骨挙上、肩甲骨内転		
3回目	肩甲骨下制と内転、肩甲骨内転と下方回旋、肩甲骨下制		
4回目	肩関節屈曲(前方挙上)、肩関節伸展(後方挙上)、肩関節外転(側方挙上)		
5回目	肩関節水平外転、肩関節水平内転、肩関節外旋		
6回目	肩関節内旋、肘関節屈曲、肘関節伸展		
7回目	前腕回内、前腕回外、手関節屈曲、手関節伸展		
8回目	股関節屈曲、股関節屈曲・外転・および膝関節屈曲位での外旋、股関節伸展		
9回目	股関節外転、股関節内転、股関節外旋、股関節内旋		
10回目	膝関節屈曲、膝関節伸展		
11回目	足関節底屈、足関節背屈ならびに内がえし、足の内がえし、足の底屈を伴う外がえし		
12回目	体幹伸展、骨盤挙上、体幹屈曲		
13回目	体幹回旋、コアテスト		
14回目	手指・脳神経支配筋のテスト		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題等含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	新・徒手筋力検査法【原著第10版】 協同医書出版社		
参考書・資料			
履修上の注意	準備学習:検査の対象となる筋の理解。特に主要な筋の起始・停止・神経支配は復習しておく。運動障害の要因の一つとして筋力を評価するうえで、テキストを十分に読み込み、臨床実習で使える技術になるように習得してください。授業では毎回白衣を着用。実技を行うにふさわしい状態で臨んでください。詳細はオリエンテーションでお話します。		

授業科目	作業療法演習Ⅲ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	面接を中心とした評価を、実技を中心に習得していく。 また、観察のポイントや臨床で良く使用する評価法の演習を行うことで、知識だけではなく技術も習得していく。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・前期で得た知識を基に面接技法の手順を定着させる。 ・観察点を意識し情報収集が出来る。 ・評価バッテリーを体験する。 ・面接を通して、症例に合わせた評価項目の立案が出来る。 ・面接を通して、症例に合わせた治療プログラムを立案できる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション 精神領域での評価の目的確認		
2回目	面接技法 OSCEに沿った面接練習		
3回目	面接技法 面接内容だけではなく、観察ポイントを押さえた練習		
4回目	評価技術の習得 精神科で使用される評価表の概要		
5回目	評価法の実践 NPI興味関心事リスト・HTPテスト		
6回目	評価法の実践 OSAⅡ、LASMI		
7回目	評価法の実践 VQ、REHAB		
8回目	症例検討 提示された小児と面接を通し、評価計画立案、焦点化、プログラム立案		
9回目	症例検討 提示された小児と面接を通し、評価計画立案、焦点化、プログラム立案		
10回目	症例検討 提示された小児と面接を通し、評価計画立案、焦点化、プログラム立案		
11回目	生活行為向上マネージト実践①		
12回目	生活行為向上マネージト実践②		
13回目	生活行為向上マネージト実践③		
14回目	生活行為向上マネージト実践④		
15回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験、課題レポートなど、総合的に判断します。		
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト6 精神障害と作業療法		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法治療学(発達障害)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	運動発達の障害について原因疾患、障害像及び作業療法支援の方法を理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達領域における評価の実施から治療計画の流れと諸注意について理解する。 ・脳性麻痺について理解する。 ・各発達障害について理解する。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	発達障害総論 定義・歴史・評価		
2回目	発達検査① 反射反応		
3回目	発達検査② DDST、遠城寺式		
4回目	発達検査③ GMFCS		
5回目	発達障害領域の作業療法の流れ		
6回目	脳性麻痺総論		
7回目	痙直型脳性麻痺児の発達と問題点		
8回目	痙直型脳性麻痺児の評価と治療		
9回目	アトーゼ型脳性麻痺児の発達と問題点		
10回目	アトーゼ型脳性麻痺児の評価と治療		
11回目	知的発達障害の評価、問題点と治療		
12回目	広汎性発達障害(PDD)の評価、問題点と治療		
13回目	自閉症スペクトラム障害(ASD)の評価、問題点と治療		
14回目	学習障害(LD)、注意欠如多動性障害(ADHD)、アスペルガー症候群(AS)の評価		
15回目	学習障害(LD)、注意欠如多動性障害(ADHD)、アスペルガー症候群(AS)の問題点・治療		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	標準作業療法学 発達過程作業療法学 第2版		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法治療学(精神障害)	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	精神障害領域の作業療法の対象となる疾患の臨床像と精神特性、疾患別作業療法の治療目的について理解する。認知症及び児童期精神障害を含む。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・疾患の理解(心身機能・活動制限・参加制約)する。 ・精神障害の分類を理解する。 ・各精神疾患の評価、作業療法の目的・対応・治療を理解する。 		
キーワード			
スケジュール			
1・2回目	精神科領域の作業療法		
3・4回目	精神障害の歴史・現状		
5・6回目	治療過程と治療構造、作業活動(作業療法の流れ・導入)		
7・8回目	治療過程と治療構造、作業活動(個人・集団の治療因子)		
9・10回目	回復段階に応じた作業療法(回復段階の流れの理解)		
11・12回目	統合失調症の作業療法(急性・回復・回復後期)①		
13・14回目	統合失調症の作業療法(急性・回復・回復後期)②		
15・16回目	統合失調症の作業療法(退院後、就労支援)		
17・18回目	気分障害の作業療法(急性・回復・回復後期)①		
19・20回目	気分障害の作業療法(急性・回復・回復後期)②		
21・22回目	事例検討(統合失調症・気分障害)		
23・24回目	依存症系の作業療法(疾患理解・分類)		
25・26回目	依存症系の作業療法(評価、目的、対応、治療)①		
27・28回目	依存症系の作業療法(評価、目的、対応、治療)②		
29・30回目	事例検討(依存症系)		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	作業療法学ゴールドマスターテキスト6 精神障害と作業療法		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法治療学(老年期)	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	<p>高齢期における発達過程について理解できる。 高齢期障害を引き起こす主な疾患の原因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。</p>		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢期における生理的老化について理解する。 ・生理的老化と認知症の違いについて理解する。 ・認知症の評価、治療について理解する。 		
キーワード			
スケジュール			
1・2回目	高齢期における生理的老化 身体構造、心理、社会的変化(1)		
3・4回目	高齢期における生理的老化 身体構造、心理、社会的変化(2)		
5・6回目	高齢期障害と疾患・症候・診断・治療(1)		
7・8回目	高齢期障害と疾患・症候・診断・治療(2)		
9・10回目	高齢期障害と疾患・症候・診断・治療(3)		
11・12回目	認知症の作業療法(1) 生理的老化と認知症の違い		
13・14回目	認知症の作業療法(2) 認知症の原因・分類、症状の違い		
15・16回目	認知症の作業療法(3) 認知症の評価スケール、評価の実践		
17・18回目	認知症の作業療法(4) 認知症の薬物療法・非薬物療法		
19・20回目	認知症の作業療法(5) 認知症ケアの原則		
21・22回目	認知症の作業療法(6) 認知症高齢者への作業療法目標・治療的態度・手段		
23・24回目	認知症の作業療法(7) 認知症を含む高齢者への社会資源		
25・26回目	介護予防への作業療法の取り組み、実践		
27・28回目	終末期作業療法の理解		
29・30回目	廃用性症候群、転倒予防-レク、健康体操		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	標準作業療法学 専門分野 高齢期の作業療法学 第2版 医学書院 編:松房利憲		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法治療学(高次脳機能障害)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	高次脳機能障害の神経学的評価の習得、生活障害の特徴を理解する。 外傷性脳損傷を含めた高次脳機能障害の全体像を把握し、作業療法の介入について学ぶ。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害について理解する。 ・高次脳障害の機能局在およびネットワークの概要について理解する。 ・画像診断にて障害について推察できるようにする。 ・高次脳機能障害の評価の原則、治療の原理について理解する。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	高次脳機能障害 総論		
2回目	高次脳機能障害の分類と作業療法評価及び作業療法介入の視点・流れ		
3回目	失語症 機能局在、種類、概念。評価、介入方法		
4回目	失行・行為・行動障害 機能局在、種類、概念。評価、介入方法		
5回目	失認と関連症状 機能局在、種類、概念。評価、介入方法		
6回目	注意障害 機能局在、種類、概念。評価、介入方法		
7回目	記憶障害 機能局在、種類、概念。評価、介入方法		
8回目	遂行機能障害 機能局在、種類、概念。評価、介入方法		
9回目	半側空間無視 病態と責任病巣		
10回目	半側空間無視 評価と介入		
11回目	外傷性脳損傷 障害像		
12回目	外傷性脳損傷 病態・評価・介入		
13回目	症例による各種評価方法の違いと解釈 BIT、BADS、CAT、コース立方体		
14回目	症例による各種評価方法の違いと解釈 BIT、BADS、CAT、コース立方体		
15回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	高次脳機能障害学 第2版 医歯薬出版 著:石合純夫 作業療法全書 第3版 高次脳機能障害 協同医書出版 監:原寛美		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法治療学(内部障害)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	循環器系、代謝系、呼吸器系、悪性腫瘍における代表的疾患について理解し、作業療法介入方法を理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・循環器疾患における病態、症状、治療、経過などの障害像の理解と作業療法介入について学ぶ。 ・代謝系疾患における病態、症状、治療、経過などの障害像の理解と作業療法介入について学ぶ。 ・呼吸器疾患における病態、症状、治療、経過などの障害像の理解と作業療法介入について学ぶ。 ・悪性腫瘍における病態、症状、治療、経過などの障害像の理解と作業療法介入について学ぶ。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション 内部障害についての概念、近年の傾向、障害特性、作業療法支援		
2回目	心疾患の病態と症状		
3回目	心疾患の作業療法介入(1)リスク、評価、		
4回目	心疾患の作業療法介入(2)目標設定、治療、援助方法		
5回目	代謝障害(糖尿病)の病態と症状		
6回目	代謝障害(糖尿病)の作業療法介入(1)リスク、評価、		
7回目	代謝障害(糖尿病)の作業療法介入(2)目標設定、治療、援助方法		
8回目	呼吸器疾患の病態と症状		
9回目	呼吸器疾患の作業療法介入(1)リスク、評価、		
10回目	呼吸器疾患の作業療法介入(2)目標設定、治療		
11回目	呼吸器疾患の作業療法介入(3)援助方法		
12回目	悪性腫瘍の病態と症状		
13回目	悪性腫瘍の作業療法介入(1)リスク、評価、		
14回目	悪性腫瘍の作業療法介入(2)目標設定、治療、援助方法		
15回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	作業療法全書 改定第3版 身体障害 協同医書出版 著:菅原洋子 ゴールドマスターテキスト改定第2版 身体障害作業療法学		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法治療学(中枢神経)	履修年次	2年次
		単位数	2単位
授業形態	講義	必要時間数	60時間(30コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	身体障害領域において対象となる疾患の病態・特徴・症状などを理解する。また、病態から必要となる評価とその意義を理解し、治療・援助方法など作業療法実施における過程を理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・脳血管障害における障害像を理解する。 ・脳血管障害における各期において、作業療法過程について理解する。 		
キーワード			
スケジュール			
1・2回目	脳血管障害総論 脳と神経と基礎知識		
3・4回目	脳損傷と神経症状、CT・MRI画像について		
5・6回目	脳血管障害の病態、障害像および機能的予後bについて		
7・8回目	脳血管障害の評価		
9・10回目	脳血管障害の急性期作業療法 急性期における作業療法目的、リスク管理、スクリーニング		
11・12回目	脳血管障害の急性期作業療法 ポジショニング、廃用性症候群、ROM訓練		
13・14回目	脳血管障害の回復期作業療法 回復期における作業療法目的、リスク管理、評価		
15・16回目	脳血管障害の回復期作業療法 回復期における機能訓練、自己管理		
17・18回目	脳血管障害の回復期作業療法 基本動作訓練、ADL訓練及び指導方法		
19・20回目	脳血管障害の生活期作業療法 IADL・社会的技能における訓練 ①		
21・22回目	脳血管障害の生活期作業療法 IADL・社会的技能における訓練 ②		
23・24回目	脳血管障害の生活期作業療法 在宅での生活 自助具・装具・住環境・合併症		
25・26回目	症例検討① グループワーク		
27・28回目	症例検討② 発表		
29・30回目	症例検討③ 補足説明及び情報共有		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	作業療法全書 改定第3版 身体障害 協同医書出版 著:菅原洋子 ゴールドマスターテキスト改定第2版 身体障害作業療法学		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

授業科目	作業療法治療学(骨関節)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	整形疾患の原因、病理、症状を理解し、作業療法評価および治療の選択ができる。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各整形疾患における病態と症状について理解できる。 ・疾患における評価項目を列挙し、実践できるようにする。 ・疾患毎で適切な治療を選択できる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	骨折① 3大骨折の病態・症状、合併症、二次的な障害について		
2回目	骨折② 大腿骨頸部骨折の病態と治療①		
3回目	骨折③ 大腿骨頸部骨折の病態と治療②		
4回目	骨折④ 橈骨遠位端骨折の病態と治療①		
5回目	骨折⑤ 橈骨遠位端骨折の病態と治療②		
6回目	骨折⑥ 腰椎圧迫骨折の病態と治療①		
7回目	骨折⑦ 腰椎圧迫骨折の病態と治療②		
8回目	退行性疾患(変形性膝関節症)① 病態と特徴、症状、治療について		
9回目	退行性疾患(頸椎症性脊椎症)② 病態と特徴、症状、治療について		
10回目	末梢神経損傷①解剖・生理、上肢機能を支配する末梢神経(腕神経叢)		
11回目	末梢神経損傷②神経損傷の原因、分類、修復過程及び修復方法について		
12回目	末梢神経損傷③ 正中神経の病態・症状、評価、治療		
13回目	末梢神経損傷④ 橈骨神経の病態・症状、評価、治療		
14回目	末梢神経損傷⑤ 尺骨神経の病態・症状、評価、治療		
15回目	末梢神経損傷⑥ 各種検査方法と評価の手順を経験		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	作業療法全書 改定第3版 身体障害 協同医書出版 著:菅原洋子 ゴールドマスターテキスト改定第2版 身体障害作業療法学		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	日常生活活動学演習 I	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・実技	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	あたり前に行っている日常生活活動には多くの行程が含まれていることを理解し、障害を持つことでどのような事が困難となり、支援が必要となるかを作業療法士としての視点で考える。		
行動目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.人が生活を行う上での日常生活活動の役割を理解する。 2.ADLに対するOTの役割を理解する。 3.各ADL動作に必要な心身機能を理解する。 4.各ADLの行程を理解する。 5.実技を通して環境要因の重要性を理解する。 6.IADLに対するOTの役割を理解する。 		
キーワード	基本動作、ADLとIADL、QOL、ICF		
スケジュール			
1回目	オリエンテーション		
2回目	身辺処理 起居動作とは…		
3回目	移乗動作とは…		
4回目	移動動作とは…		
5回目	食事動作とは…		
6回目	排泄動作とは…		
7回目	コミュニケーション・健康管理とは…		
8回目	整容動作とは…		
9回目	入浴動作とは…		
10回目	更衣動作とは…		
11回目	日常関連生活動作とは		
12回目	ICFについて		
13回目	参加・活動とは…		
14回目	症例紹介 ～ICFを活用して～		
15回目	まとめ		
評価方法	出席率、授業態度(課題提出含む)、筆記試験にて判断します。		
教科書	作業療法学全書 日常生活動作 改定第3版		
参考書・資料等	配布資料、その他、適宜指示する。		
履修上の注意	1つ1つの動作を行いながら理解し、OTとしてそれを専門用語を使用しながら説明できるように心がけてください。		

学校整理番号(110)

授業科目	日常生活活動学演習Ⅱ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	ADL・IADL評価の目的・意義を理解し、代表的なADL検査であるFIM・BIの基本的な検査方法を習得する。また、事例を通して基本動作やADL、IADLの繋がりを確認し、それぞれの支援のポイントを学。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ADL評価法であるFIM、BIを適切に行えるようにする。 ・基本動作、ADL、IADLの繋がりを理解し、それぞれの支援方法や援助のポイントを理解する。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション ADL・IADL評価法の紹介及び評価の意義と方法		
2回目	ADL評価① FIM概要		
3回目	ADL評価③ FIM 運動項目と採点方法		
4回目	ADL評価③ FIM 認知項目と採点方法		
5回目	ADL評価④ FIM 事例演習		
6回目	ADL評価⑤ BI概要及び事例演習		
7回目	起居動作指導① 障害因子・支援するポイント		
8回目	起居動作指導② 障害因子・支援するポイント		
9回目	移動・移乗指導① 障害因子・支援するポイント		
10回目	移動・移乗指導② 障害因子・支援するポイント		
11回目	事例検討① 片麻痺患者の起居・基本動作 障害因子の抽出 グループワーク		
12回目	事例検討② 片麻痺患者の起居・基本動作 支援するポイント検討 グループワーク		
13回目	事例検討③ 発表		
14回目	事例検討④ 補足・情報共有		
15回目	ADL・IADLの繋がり		
評価方法	出席、授業態度、課題レポート、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	日常生活活動 第2版 神菱文庫 著:千住 秀明		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	日常生活活動学演習Ⅲ	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	土屋 景子	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	様々な作業療法場面で用いられる活動に対する評価(分析・解釈)、介入方法について理解する。 各疾患における障害像に対する、環境整備の考え方を学部		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各活動における作業分析のポイントについて理解する。 ・作業療法介入時の指導方法・環境整備のポイントについて理解する。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	セルフケア(食事)についての作業分析①		
2回目	セルフケア(食事)についての作業分析② 治療的応用・環境整備について		
3回目	セルフケア(更衣)についての作業分析③		
4回目	セルフケア(更衣)についての作業分析④ 治療的応用・環境整備について		
5回目	家事動作(調理)についての作業分析⑤		
6回目	家事動作(調理)についての作業分析⑥ 治療的応用・環境整備について		
7回目	家事動作(掃除)についての作業分析⑦		
8回目	家事動作(掃除)についての作業分析⑧ 治療的応用・環境整備について		
9回目	福祉機器適応論 福祉機器の種類と適応について		
10回目	福祉機器のマネジメント 福祉機器の利便性と危険性		
11回目	福祉機器の適合 各疾患に対する福祉機器の適合・アセスメント		
12回目	自助具の作成・考案① ～事例を通して～ グループワーク		
13回目	自助具の作成・考案② ～事例を通して～ グループワーク		
14回目	自助具の作成・考案③ ～事例を通して～ グループワーク		
15回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、課題レポートなど、総合的に判断します。		
教科書	作業活動実習マニュアル 医歯薬出版 作業療法全書 改定第3版 福祉用具の使い方・住環境整備		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	義肢学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	豊田 輝	オフィスアワー	
一般目標	義肢の基本となる理論などを理解するとともに各切断に応じた義肢の名称・機能・適応について理解し、理学療法士として必要と評価および治療に必要な事項を習得する。		
行動目標	各切断高位に応じた義肢の特徴を説明できる。 切断者に対する理学療法評価の目的を説明できる。 切断者に対する理学療法評価を実施できる。 義足のアライメント調整ができる。 切断者に対する理学療法プログラムが立案できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	義肢学総論(基本的事項, 歴史, 部品の変遷, 心理面など)		
2回目	切断の原因と治療、切断部位と切断術		
3回目	切断者の評価(全体的評価)		
4回目	断端管理法(目的, 利点と欠点など)		
5回目	大腿義足		
6回目	大腿義足		
7回目	股継手・膝継手・足継手		
8回目	下腿義足		
9回目	下腿義足		
10回目	股義足・膝義足		
11回目	サイム義足・足部義足		
12回目	異常歩行分析(大腿義足アライメント)		
13回目	異常歩行分析(大腿義足アライメント)		
14回目	異常歩行分析(下腿義足アライメント)		
15回目	義肢装具の給付制度		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	義肢・装具学 ―異常とその対応がわかる動画付き、出版社名:羊土社、監修高田治実、編集豊田輝、石垣栄		
参考書・資料等			
履修上の注意	実技実習ができる服装で受講すること。		

学校整理番号(110)

授業科目	装具学	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	装具療法の目的・意義について学び、疾患別の装具の適応について理解する。 装具の採型・採寸から作成、適合判定の過程を理解する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・補装具に支給に関わる法制度について理解する。 ・装具の使用目的と分類を説明できる。 ・各疾患における装具療法について理解する。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	補装具の法制度、装具の分類について		
2回目	上肢装具について		
3回目	体幹装具について		
4回目	脳血管障害における装具療法		
5回目	関節リウマチにおける装具療法①		
6回目	関節リウマチにおける装具療法②		
7回目	末梢神経損傷における装具療法①		
8回目	末梢神経損傷における装具療法②		
9回目	脊髄損傷における装具療法①		
10回目	脊髄損傷における装具療法②		
11回目	多目的トレース法と各種スプリント		
12回目	スプリント製作①		
13回目	スプリント製作②		
14回目	スプリント製作③		
15回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、筆記試験など、総合的に判断します。		
教科書	義肢・装具学 ―異常とその対応がわかる動画付き、出版社名:羊土社、監修高田治実、編集豊田輝、石垣栄		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	講義には積極的に取り組み、スプリント製作時には動きやすい服装(実習着)で望むこと。		

学校整理番号(110)

授業科目	作業療法特論	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	国家試験に臨むにあたり、今まで学修してきた内容について、総復習を図る。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の苦手分野について把握する。 ・十分に理解できている分野と理解できていない分野を明確にする。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	国家試験対策①		
2回目	国家試験対策②		
3回目	国家試験対策③		
4回目	国家試験対策④		
5回目	国家試験対策⑤		
6回目	国家試験対策⑥		
7回目	国家試験対策⑦		
8回目	国家試験対策⑧		
9回目	国家試験対策⑨		
10回目	国家試験対策⑩		
11回目	国家試験対策⑪		
12回目	国家試験対策⑫		
13回目	国家試験対策⑬		
14回目	国家試験対策⑭		
15回目	国家試験対策⑮		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書			
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意	休まずに受講すること		

学校整理番号(110)

授業科目	地域リハビリテーション論 I	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	地域に根差したリハビリテーションを実践する上で必要となる理論的枠組みと知識をこれまでの歴史を踏まえ学習する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での作業療法士の役割を理解できる。 ・地域で生活するために必要な制度について理解できる。 ・地域包括ケアシステムの概要と役割が理解できる。 ・訪問リハビリの内容と役割を理解できる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	地域リハビリテーションの概念・理念		
2回目	地域生活と地域作業療法 地域で求められるOT		
3回目	地域の社会資源について		
4回目	社会保障制度について		
5回目	各事業所の実践① 地域包括ケアシステム		
6回目	各事業所の実践 地域包括ケアシステム 事例検討		
7回目	各事業所の実践③ 通所リハビリテーション		
8回目	各事業所の実践 通所リハビリテーション 事例検討		
9回目	各事業所の実践③ 訪問リハビリステーション		
10回目	各事業所の実践 訪問リハビリステーション 事例検討		
11回目	各事業所の実践④ 介護老人保健施設、特別養護老人ホーム		
12回目	各事業所の実践④ 介護老人保健施設、特別養護老人ホーム 事例検討		
13回目	物理的環境におけるアプローチ① 住宅改修・福祉機器導入		
14回目	物理的環境におけるアプローチ② 住宅改修・福祉機器導入		
15回目	まとめ		
評価方法	出席、授業態度、課題レポートなど、総合的に判断します。		
教科書	ゴールドマスターテキスト 地域作業療法・作業療法概論 メディカルビュー		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

授業科目	地域リハビリテーション論Ⅱ	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大和田 淳	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	地域に根差したリハビリテーションを実践する上で必要となる理論的枠組みと知識をこれまでの歴史を踏まえ学習する。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での作業療法士の役割を理解できる。 ・地域で生活するために必要な制度について理解できる。 ・地域包括ケアシステムの概要と役割が理解できる。 ・訪問リハビリの内容と役割を理解できる。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	精神障害者における地域作業療法の役割		
2回目	精神障害者における地域支援の実際① 訪問作業療法		
3回目	精神障害者における地域支援の実際② 事例検討 グループワーク		
4回目	精神障害者における地域支援の実際③ 事例発表		
5回目	精神障害者における地域支援の実際④ 認知症デイケア		
6回目	精神障害者における地域支援の実際⑤ 事例検討		
7回目	精神障害者における地域支援の実際⑥ 事例発表		
8回目	事例検討 補足・情報共有。		
9回目	障害者総合福祉法、障害者手帳、障害者年金		
10回目	職業リハビリテーションと作業療法		
11回目	精神障害者の働き方と社会復帰		
12回目	精神障害者の就労支援		
13回目	事例検討 統合失調症の就労支援		
14回目	事例検討 気分障害の就労支援		
15回目	事例検討 神経症性の就労支援		
評価方法	出席、授業態度、課題レポートなど、総合的に判断します。		
教科書	ゴールドマスターテキスト 地域作業療法・作業療法概論 メディカルビュー		
参考書・資料等	適宜、資料を配布します。		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	生活環境論(含むりハ機器)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	吉野 葉月	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	福祉住環境整備に対する知識を深め、障害像に合わせた在宅改修案を立案できる。		
行動目標	障害者・高齢者を取り巻く社会状況と住環境に関する制度を理解する。 住環境整備における基本的な知識を理解する。 福祉用具の基本的な知識を理解する。 高齢者に多い疾患や障害に対する基本的な住環境整備を理解する。 設計図面の基本的な記載方法について理解する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	オリエンテーション、試験要綱など		
2回目	高齢者を取り巻く社会状況と住環境		
3回目	障害者を取り巻く社会状況と住環境		
4回目	障害のとらえ方と自立支援のあり方		
5回目	高齢者に多い疾患別にみた福祉住環境整備		
6回目	障害別にみた福祉住環境整備①		
7回目	障害別にみた福祉住環境整備②		
8回目	相談援助の考え方と福祉住環境整備の進め方		
9回目	福祉住環境整備の基本技術および実践に伴う知識		
10回目	福祉住環境整備の基本技術および実践に伴う知識		
11回目	生活行為別福祉住環境整備の手法		
12回目	福祉住環境整備の実践に必要な基礎知識		
13回目	在宅生活における福祉用具の活用		
14回目	生活行為別にみた福祉用具の活用		
15回目	福祉住環境コーディネーター受験に向けて		
評価方法	筆記試験(100点)		
教科書	福祉住環境コーディネーター検定試験 2級公式テキスト, 東京商工会議所		
参考書・資料等			
履修上の注意	毎年2回(7月、11月)に行われる福祉住環境コーディネーター試験(2級)の試験を受験できるように授業を展開していきます。受験は任意です。		

学校整理番号(110)

授業科目	臨床実習 I (見学)	履修年次	1年次
		単位数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法が実践されている現場や関連職種との関わりを見学し、一連の業務の内容を理解する。		
行動目標	医療職としてのマナーや倫理観を学び、専門職として意欲的に取り組む姿勢を習得する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	<p>実習前オリエンテーション及び実習後の報告会。 本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の下、 臨床実習(見学)を行う。 レポート等の課題は必要に応じて、課される物とする。</p>		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席率、授業態度、事前準備状況、実習施設における態度、報告会にて判断します。		
教科書			
参考書・資料等	臨床実習の手引き		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	臨床実習Ⅱ(地域)	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	実習	必要時間数	45時間(23コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床における作業療法士の役割を地域実習を通して、包括的に体験する。 また、医療従事者としての基本的態度を学ぶ。		
行動目標	地域での作業療法士の役割を理解する。 訪問リハビリの内容と役割を理解できる。 各疾患を例に、地域での支援を理解し、その選択が行える。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	<p>本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導の下、臨床地域実習を行う。 臨床実習報告書を毎日指導者へ提出し、レポート等は必要に応じて課される。</p>		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	臨床実習指導者による評価と内容、学内での臨床地域実習報告会の発表内容、実習中の課題等の内容を総合的に評価する。		
教科書	特に無し。		
参考書・資料等	臨床実習の手引き		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	臨床評価実習(身体・精神)	履修年次	2年次
		単位数	6単位
授業形態	実習	必要時間数	270時間(135コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床での評価技術を6週間の実習を通して、包括的に体験する。		
行動目標	CCSによる指導方法の下、見学・模倣・実施とCEの作業療法の思考・実践過程を体験する。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	<p>実習期間:6週間 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学 修等を含めて45時間以内とする。</p> <p><内容> 1. 臨床評価実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で6週間の臨床評価実習を行う。 3. 臨床評価実習後オリエンテーション</p>		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導の下で、臨床評価実習を行う。 臨床評価実習報告書を毎日指導者へ提出及びレポート等の課題は必要に応じて課される。		
教科書	特になし。		
参考書・資料等	臨床実習の手引き		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	臨床総合実習(身体・精神)	履修年次	3年次
		単位数	12単位
授業形態	実習	必要時間数	540時間(270コマ)
担当教員	森田 茂久	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	作業療法評価および治療技術を6週間×2回の臨床総合実習を通して、包括的に体験し習得する。		
行動目標	CCSによる指導方法の下、見学・模倣・実施とCEの作業療法の思考・実践過程を体験・実施できる。		
キーワード			
スケジュール			
1回目	<p>実習期間:6週間×2回 臨床実習の1単位(1週間)の時間数は40時間以上の実習をもって構成し、実習時間外の学 修等を含めて45時間以内とする。</p> <p><内容> 1. 臨床総合実習前オリエンテーション 2. 本校指定の臨床実習施設で6週間の臨床総合実習を行う。 3. 臨床総合実習後オリエンテーション</p>		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	本校指定の臨床実習施設で臨床実習指導者の指導の下で、臨床評価実習を行う。臨床評価実習報告書を毎日指導者へ提出及びレポート等の課題は必要に応じて課される。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	臨床実習の手引き		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	臨床評価実習セミナー	履修年次	2年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床評価実習において得られた多くの体験や情報を整理し、これまで学内で学んできた知識の結び付けを図る。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床評価実習で得られた体験や情報をしっかりと整理し、他の学生と共有できるようにする。 他の学生から得られた情報や経験を受け止め、自身に昇華できるようにする。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	臨床評価実習後、得られてきた多くの体験、情報を整理し、学年全体で共有を図る。また、これらの体験や情報をグループでまとめ、発表しフィードバックを行う。		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席、授業態度、発表内容など、総合的に判断します。		
教科書	特に無し		
参考書・資料等	特に無し		
履修上の注意			

学校整理番号(110)

授業科目	臨床総合実習セミナー	履修年次	3年次
		単位数	1単位
授業形態	講義・演習	必要時間数	30時間(15コマ)
担当教員	大森 圭	オフィスアワー	月～金 8:30～17:20
一般目標	臨床総合実習において得られた多くの体験や情報を整理し、これまで学内で学んできた知識の結び付けを図る。		
行動目標	<ul style="list-style-type: none"> 臨床評価実習で得られた体験や情報をしっかりと整理し、他の学生と共有できるようにする。 他の学生から得られた情報や経験を受け止め、自身に昇華できるようにする。 		
キーワード			
スケジュール			
1回目	臨床評価実習後、得られてきた多くの体験、情報を整理し、学年全体で共有を図る。また、これらの体験や情報をグループでまとめ、発表しフィードバックを行う。		
2回目			
3回目			
4回目			
5回目			
6回目			
7回目			
8回目			
9回目			
10回目			
11回目			
12回目			
13回目			
14回目			
15回目			
評価方法	出席、授業態度、発表内容など、総合的に判断します。		
教科書	特になし		
参考書・資料等	特になし		
履修上の注意			